

平成 26 年度老人保健健康増進等事業（老人保健事業推進費等補助金）

介護老人保健施設退所者の在宅療養支援  
に関する調査研究事業 報告書

平成 27 年 3 月

公益社団法人 全国老人保健施設協会



## はじめに

少子・超高齢・人口減少という社会構造の中で、いかにして社会保険方式で運営する制度の持続可能性を担保するか。これは、わが国の介護保険制度を始めとした社会保障制度にとっての喫緊の課題です。国は、平成 37 年のいわゆる団塊の世代の方が後期高齢者に達する時期までにその課題を克服すべく、地域包括ケアシステムの実現を目指しています。

公益社団法人全国老人保健施設協会（以下、全老健）は、介護老人保健施設（以下、老健施設）の役割として、①包括的ケアサービス施設、②リハビリテーション施設、③在宅復帰施設、④在宅生活支援施設、⑤地域に根ざした施設、の 5 つを掲げており、これらはすべて地域包括ケアシステムの実現に必要な不可欠なものでもあります。つまり、老健施設がその理念と役割を全うすることは、地域包括ケアシステムの構築に資するということでもあります。

これからの介護保険制度の課題は、予防的サービスの充実とともに、いかに質の高いサービスを効率的・効果的に、かつ適正に提供するかということなのです。

しかしそのためには、何が機能低下につながるのか、その予防にはどのような方策があるのか、介護サービスの質の評価をどのようにして測定するのか、要介護等高齢者に効果のあるリハビリテーションの内容とは何か、どのようにすれば在宅療養が長く続けられるのか、等についてエビデンスの集積が必要です。

そこで全老健は「平成 26 年度老人保健健康増進等事業（老人保健事業推進費等補助金）」として、「介護保険施設の入所者の機能低下およびその予防に関する調査研究事業」、「介護老人保健施設退所者の在宅療養支援に関する調査研究事業」、「介護老人保健施設における認知症を有する高齢者のリハビリテーションのあり方に関する調査研究事業」、「介護老人保健施設における生活期リハビリテーションの実態と効果に関する調査研究事業」の 4 つの調査研究事業を実施いたしました。

これらすべての調査研究事業の目的の根底にあるのは、前述した介護保険制度の課題の解決と地域包括ケアシステムの構築に貢献できる老健施設のあり方についての検証です。

今年度の調査研究事業では、目的の実現に資する成果を少なからず出すことができました。これらの成果が広く活用され、わが国の介護サービスの発展につながることを期待します。

平成 27 年 3 月  
公益社団法人全国老人保健施設協会  
会長 東 憲太郎



## <目 次>

研究要旨（英語） .....	1
研究要旨（日本語） .....	3
第1章 研究の概要 .....	5
1. 調査の背景と目的 .....	5
2. 調査時期と調査内容 .....	5
3. 事業班員 一覧 .....	7
第2章 調査結果概要 .....	8
1. 調査結果のまとめ .....	8
2. 調査概要 .....	10
3. 調査対象者の基本属性 .....	10
4. 第1回調査から第4回調査までのICF ステージング平均スコアの推移 .....	13
5. 要約指標による利用者の状態の変化分析 .....	14
6. ICF disability set に基づく新指標として把握した項目の調査回ごとの結果推移 .....	32
7. 日常関連動作（IADL）の要約指標の作成と、平均値の推移 .....	37
8. 意欲の指標についての要約指標の作成と、平均値の推移 .....	41
9. 改善及び悪化に関する環境要因の影響 .....	44
付録 摂食嚥下栄養ケアマネジメント書式（案）の作成 .....	46
資料編	
調査実施要綱 .....	1
退所者生活機能調査票【第1回調査～第4回調査】 .....	4
退所者生活機能調査票【第5回調査】 .....	23
ICF ステージング・マニュアル .....	29
退所者生活機能調査 単純集計表 .....	44



## **【Abstracts】**

### [Background]

The elderly persons who returned home showed improvements in their “mobility and ADL”, “cognitive function”, and “eating and self-care” function during their stay in the facility; however, their functioning worsened after they relocated to their home. This was the key finding in the former study conducted in 2013 by Japan Association of Geriatric Health Services Facility. However, the research is yet to identify the factors related to functional improvement or deterioration during their relocation to home. Moreover, the ICF staging that is presently being used at health-services facility for the elderly does not include some items of ICF-generic set that are under review by WHO.

### [Purpose]

Therefore, this study was carried out in order to gain an understanding of factors related to the functional changes in elderly persons during their relocation from geriatric health services facilities to home, and this study was carried out by extending the investigation period and increasing the number of survey panels. In addition, this study also aimed to collect basic data that would be used to add new evaluation indicator to ICF staging in order to collect the internationally comparable data.

### [Method]

Elderly persons’ physical and cognitive functions, social participation during their stay in the facility, relocation from the facility, as well as subsequent stay at home were measured on the same survey panel for five times for continuously understanding the changes in physical functions as well as the changes in living environment. Also, new items were added to the survey items including “IADL”, “index of motivation”, “pain evaluation item”, and “quality of life”.

The results from each panel survey were compared and analyzed during the survey period. In comparison and analysis, seven abstractive indexes (addition scale) were used to get a clear picture of the state of survey panel. The trend of changes for each investigation period and the significance of the average value difference were determined using generalized linear model. Additionally, factors associated with the functional change were analyzed with functional maintenance and improvement as its dependent variable and living environment and other personal factors as its explanatory variables using logistic regression model.

### [Result]

The elderly persons’ functions improved during their stay in the facility, but they started to deteriorate after they returned home. However, their social participation improved even after their home return. The change of state after returning home from health-services

facility was also accurately verified by extending the investigation period.

However, logistic regression analysis could not identify specific factors associated with their functional improvement or loss.

#### [Conclusion]

The functions of the elderly improve while they were in health-services facility, but they deteriorated gradually after they returned home. These functional changes in the elderly persons during they stay in the health services facility and after returning home showed same pattern as the previous study which indicated the validity of the study.

Therefore, it verifies the necessity of functional maintenance by rehabilitation after returning home. Furthermore, elderly persons are expected to return to health-services facility or day-care service for rehabilitation after a certain period of time to maintain their function.

On the other hand, the results also showed a trend toward improvement in “Activity and Participation” by returning home, as it brings more opportunities for leisure activity and social communication. Moreover, the result verified that returning home is effective in improving their quality of life.

## 【研究要旨】

### 〔背景〕

平成 25 年度に実施した、老人保健健康増進等事業「施設退所後の要介護高齢者が在宅生活を継続するための要因に関する調査研究事業」では、老健施設から在宅復帰された利用者の状況につき、老健施設入所時と同じ指標（R4 システム版 ICF ステージング、以下「ICF ステージング」という）を用い、継続的に追跡調査を行った。その結果、「移動及び ADL」、「認知機能」、「食事及びセルフケア」といった機能は、入所中に改善傾向を示し、その後、在宅においてやや低下傾向を示すことが明らかとなった。しかし、同事業においては、この機能の維持及び改善といった変化の原因が、本人の身体機能によるものなのか、生活環境の変化によるものなのかという、「機能維持・向上」に作用する因子の特定までには結びついていない。また、現在老健施設において用いている ICF ステージングでは、WHO 等において検討が進められている ICF-generic set に含まれる項目のうち、いくつかが含まれていない状況にある。

### 〔目的〕

このような背景をふまえ、本調査研究事業においては、前年度調査において実施した調査手法に、環境要因を把握するための設問を加え、さらに調査期間の延長、調査対象者数の増加を行い、前回調査結果において得られたデータの再現性を確認するとともに、この状態像変化に、どのような環境要因が影響しているのかを把握することを目的の第一とした。さらに、国際比較可能なデータ収集を目的に、新たな評価指標を ICF ステージングに追加するための基礎資料の収集を、第二の目的とした。

### 〔方法〕

調査手法としては、身体機能の変化と生活環境の変化の両方の状況を継続的に把握するため、これら項目を含んだ「退所者生活機能調査」を同一の対象者に対し、計 5 回実施した。また、ICF ステージングに追加する新たな評価指標の検討にあたり、「IADL」、「意欲の指標」、「疼痛評価項目」、「ICF に基づく新指標」を「退所者生活機能調査」の調査項目に加え調査を実施した。

### 〔結果〕

調査より得られた各回における結果を、調査回間で比較及び分析を行った。比較及び分析にあたっては、対象者の状態像をより明確に把握するため、7つの要約指標（加算スケール）を用い、一般化線形モデル（GLM）により各調査間における平均値の推移を把握するとともに、平均値の差が有意であるかの確認を行った。また、「機能維持・向上」と生活環境変化との関係を明らかにするため、「機能維持・改善」を独立変数、生活環境を従属変数としたロジスティック回帰分析を行った。

上記比較及び分析の結果、まず、老健施設入所から在宅生活における退所者の状態像変化については、昨年度調査とほぼ同様の結果が得られ、データの再現性が確認された。また、調査期間を長く設定したことにより、老健施設退所後の、在宅生活における状態像の変化をより正確に捉えることに成功した。なお、「移動及び ADL」と「認知機能」の「維持及び改善」に影響を及ぼ

しうると想定される各項目を従属変数として行った回帰分析の結果、「維持・改善」に影響を及ぼすと考えられる明確な要因は同定できなかった。

〔結語〕

以上の結果より、在宅復帰する老健施設利用者は入所中に機能の改善をみるが、その後自宅に帰ると機能は少しずつ低下することが明らかとなった。従って在宅復帰後のリハビリテーションにより、機能維持に努める必要があることが確認された。また、一定期間後に、再入所して再びリハビリテーションを行うことで機能改善が期待されることも確認された。

一方、「活動と参加」については、自宅に帰ることで、余暇や社会交流の可能性が広がるため、改善傾向を示した。在宅復帰は利用者の思いや QOL を高めるために有効であることも併せて確認された。

## 第1章 研究の概要

### 1. 調査の背景と目的

平成25年度に実施した、老人保健健康増進等事業「施設退所後の要介護高齢者が在宅生活を継続するための要因に関する調査研究事業」では、老健施設から在宅復帰された利用者の状態を、老健施設入所時と在宅生活時で同じ指標（R4 システム版 ICF ステージング）を用い、継続的に追跡調査した。その結果、調査実施期間が短いなかではあったものの、利用者の「移動及びADL」、「認知機能」、「食事及びセルフケア」といった機能は、入所中に改善傾向を示し、その後、在宅においてやや低下傾向を示すという結果が得られた。また、追跡調査の結果、老健施設退所時と、退所後在宅生活を始めて1週間後の期間における調査結果の差は、「身体機能の差」と「環境の変化」のそれぞれが作用しているものと想定された。

しかし、同調査研究事業は、平成25年度の追加採択事業であったため、調査対象者の選定時間等も十分でなく、結果、調査期間、対象者ともに限られたなかでの調査であり、「環境の変化」に関する「機能維持」の要因を明らかにするまでには至らなかった。

そこで、本調査研究事業においては、昨年度調査研究事業から調査対象者数を増やし、また調査期間を「退所後1ヵ月」から「退所後3ヵ月」まで広げることで、老健施設退所後の状態像変化をより深く追跡調査するとともに、「機能維持・向上」に作用する環境要因に関する検討を行い、在宅復帰後も良好な居宅生活が維持できるよう、老健施設及び居宅におけるケアマネジメントに反映をさせていくことを第一の目的としている。

また、現在WHO等において検討が進められている、新たなICF-generic setについて、高齢者施設でデータを把握する妥当性を検討するため、ICF ステージングで不足する項目を追加して調査を行った。この取組により、高齢者施設及び在宅復帰時双方において国際比較可能なデータの収集を第二の目的としている。

さらに、検討を進めていく上で、食事、栄養及び摂食について多職種間の連携を改善するため、摂食、嚥下、栄養ケアマネジメントの見直しが必要となった。この検討結果を付録として収録した。（付録：摂食嚥下栄養ケアマネジメント書式（案）の作成）

### 2. 調査時期と調査内容

本調査研究事業では、老健施設退所者の老健施設在所中から、退所後在宅生活を送るなかでの状態像の変化を把握するため「退所者生活機能調査」を計5回に渡り実施した。なお、調査実施時期と調査内容については、次ページの図表1を参照されたい。

図表 1. 「退所者生活機能調査」の実施時期と調査内容

調査名	第 1 回調査	第 2 回調査	第 3 回調査	第 4 回調査	第 5 回調査
実施時期	老健施設 入所時	老健施設 退所時	退所後 1 週間	退所後 1 ヶ月	退所後 3 ヶ月
調査内容					
記入者	○	○	○	○	○
対象者属性					
性別	○				
年齢（生年月日）	○				
入所時期	○				
過去の入所経験	○				
要介護度	○	○	○	○	○
障害自立度	○	○	○	○	○
認知症自立度	○	○	○	○	○
世帯構成	○	○	○	○	○
主患名	○				
既往歴	○				
老健施設において実施したリハビリテーション					
32 項目 <sup>※1</sup>		○			
利用している介護サービス					
14 項目 <sup>※1</sup>			○	○	○
インフォーマルサービス			○	○	○
日常関連動作（IADL）					
食事機能	○	○	○	○	○
生活機能	○	○	○	○	○
自己管理	○	○	○	○	○
社会機能	○	○	○	○	○
意欲の指標					
起床	○	○	○	○	○
意思疎通	○	○	○	○	○
食事機能	○	○	○	○	○
排泄	○	○	○	○	○
リハビリ・活動	○	○	○	○	○
疼痛					
慢性的な痛みの有無	○	○	○	○	○
定期処方されている鎮痛剤	○	○	○	○	○
頓服で処方されている鎮痛剤	○	○	○	○	○
体動時の状況	○	○	○	○	○
最も痛みの強い部位	○	○	○	○	○
ICF に基づく新指標					
14 項目 <sup>※1</sup>	○	○	○	○	○
ICF ステージング					
20 項目 <sup>※1</sup>	○	○	○	○	○

（実施した項目に○を付した）

※1 詳細な内容については、巻末資料編の「調査票」を参照されたい。

### 3. 事業班員 一覧

介護老人保健施設退所者の在宅療養支援に関する調査研究事業班 名簿

種別	委員名	施設名	役職
班長	大河内 二郎	介護老人保健施設竜間之郷	施設長
班員	安藤 繁	介護老人保健施設若宮苑	副施設長
班員	小川 勝	介護老人保健施設やすらぎ	理事長
班員	折茂 賢一郎	中之条町介護老人保健施設「六合つつじ荘」	常務理事
班員	助川 未枝保	日本介護支援専門員協会	常任理事
班員	鷲見 よしみ	日本介護支援専門員協会	会長
班員	高椋 清	老人保健施設創生園	理事長
班員	田中 和奈	岐阜医療科学大学 保健科学部看護学科	講師
班員	田宮 菜奈子	筑波大学医学医療系 ヘルスサービスリサーチ分野	教授
班員	原田 重樹	日本介護支援専門員協会	副会長
班員	東 憲太郎	介護老人保健施設いこいの森	理事長
班員	本間 達也	介護老人保健施設生愛会ナーシングケアセンター	理事長
班員	水上 直彦	日本介護支援専門員協会	副会長
班員	森山 由香	老人保健施設ひうな荘	リハビリ部長

#### 作業部会

種別	委員名	施設名	役職
部会長	糸田 昌隆	わかくさ竜間リハビリテーション病院	診療部長
部会員	安藤 繁	介護老人保健施設若宮苑	副施設長
部会員	井口 寛弘	東京医科歯科大学 医歯学総合研究科高齢者歯科学分野	医員
部会員	大河内 二郎	介護老人保健施設竜間之郷	施設長
部会員	折茂 賢一郎	中之条町介護老人保健施設「六合つつじ荘」	常務理事
部会員	塩谷 明	介護老人保健施設紀伊の里	管理栄養士
部会員	西脇 恵子	日本歯科大学附属病院 言語聴覚士室	室長

## 第2章 調査結果概要

### 1. 調査結果のまとめ

本調査研究事業においては、3 ページに示したとおり、大きく 2 つの目的を有している。

一つ目の目的は、老健施設利用者が在宅復帰後も、老健施設入所中と共通の状態評価手法を用いた上でケアマネジメントを行うことにより、利用者の状態の変化を観察するとともに、退所時におけるケアの目標をより具体的に、かつ在宅生活維持が可能な目標とすることにより、居宅ケアプランの質の向上につなげることにある。

本調査では昨年度調査に比べ調査対象者数を増やし、同様の調査を実施することにより昨年度把握したデータの再現性について確認するとともに、調査期間を長くとることにより在宅生活期間中の状態像の変化についてより深く把握を行った。その結果、「移動及び ADL」、「食事及びセルフケア」、「認知機能」、「周辺症状」、「社会参加」と 5 つの要約指標を作成し、これらの平均値の差について比較を行ったが、昨年度調査とほぼ同様の結果が得られ、5 つの要約指標の再現性が確認された。また、サンプル数が十分でないため平均値の差が有意でないものも含まれることを前提としつつも、例えば「移動及び ADL」では、第 1 回調査の入所時から第 4 回調査の退所後 1 ヶ月までの期間において要約指標の平均は継続して改善傾向を示すのに対し、第 4 回調査から第 5 回調査（退所後 3 ヶ月）の間に平均値が減少する（悪化の傾向を示す）など、調査期間を長く設定したことにより、さらに老健施設退所後の在宅生活における状態像の変化を捉えることに成功した。

以上の結果より、在宅復帰する老健利用者は入所中に機能の改善をみるが、その後自宅に帰ると機能は少しずつ低下する。従って、在宅復帰後のリハビリテーションにより機能維持に努める必要がある。あるいは、一定期間後に再入所して再びリハビリテーションを行うことで機能改善が期待される。

一方、活動と参加については、自宅に帰ることで余暇や社会交流の可能性が広がるため、改善傾向を示した。在宅復帰は利用者の思いや QOL を高めるために有効であるといえる。

なお、老健施設退所後、在宅生活において状態像の維持もしくは改善に環境要因として考えられる様々な状況がどの程度影響しているのかを把握するため、「移動及び ADL」と「認知機能」の「維持及び改善」に影響を及ぼしうると想定される各項目を説明変数としてロジスティック回帰分析を行ったが、「維持・改善」に影響を及ぼすと考えられる明確な要因は同定できなかった。

また第二の目的である ICF-generic set や ICF disability set に示される各項目の把握のため、「退所者生活機能調査」において「IADL」、「意欲の指標」、「疼痛評価項目」、「ICF に基づく新指標」それぞれについて退所者の状況把握を行った。

このうち、「IADL」及び「意欲の指標」に関しては、それぞれ要約指標を作成し、第 1 回調査から第 5 回調査に至るまでの状態像の変化を把握した。また、「ICF に基づく新指標」の 14 項目についても、それぞれの項目ごとに回答の変化の把握を行った。これら情報収集方法の強化により、在宅復帰後の機能維持要因についての検討をさらに進めることと、国際比較可能なデータ構築に資する基礎資料の収集を行うことができた。

このように、本調査研究事業においては当初設定した目的をおおむね達成したものとする。前回調査との比較においてもデータの再現性は確認されたが、退所後 3 ヶ月間に渡る長期の調査のため、調査の途中段階で入院や再入所など様々な事由により調査を中断しなければならない対象者もいたため、検定において有意とされる結果が得られなかった部分もある。より多くの調査対象を確保し分析を続けることが、より有意義な結果をもたらすものと考えている。

なお、本調査研究事業は、施設入所時から在宅生活期において同一のアセスメント手法を用いて利用者の評価を行っていること、同一人物を対象とした追跡データを退所後 3 ヶ月間という長期に渡り収集していること、さらには公益社団法人全国老人保健施設協会と一般社団法人日本介護支援専門員協会との連携・協力の上で成り立っている事業であるという、他に類をみない特徴を有したものであることを、本調査結果のまとめとして付しておきたい。

## 2. 調査概要

### (1) 調査対象

「退所者生活機能調査」は、事前の調査協力のアンケートで「協力する」と回答した施設を基に150施設を選定し、当該施設を平成27年2月末迄に退所した方を対象として調査を実施した。

### (2) 回収状況

第1回～第4回調査の回収数は207票である。このうち、特定の調査回のみしか回答がないなど、他の調査結果と比較し集計することができない3サンプルを除いた204票を集計の対象とした(60施設からの回答があり施設回答割合40%、1施設平均3.45件の回答)。

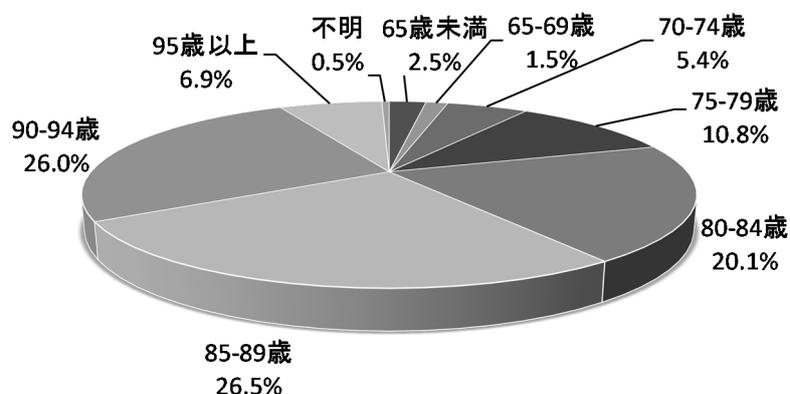
また、第5回調査の回収数は108票である。このうち、第1回～第4回調査と突合できない調査票が1票あり※2、さらに第1回～第4回調査の途中段階において中断された方の調査票が4票あるため、集計対象は103票とした(37施設からの回答があり施設回答割合24.7%、1施設平均2.92件の回答)。

## 3. 調査対象者の基本属性

### (1) 年齢

対象者の属性として、まず年齢階層分布をみると、85～89歳の占める割合が最も高く26.5%であり、次いで90～94歳(26.0%)、80～84歳(20.1%)、75歳～79歳(10.8%)の順となっている。

図表2-3-1. 調査開始時の対象者の年齢構成 (n=204)

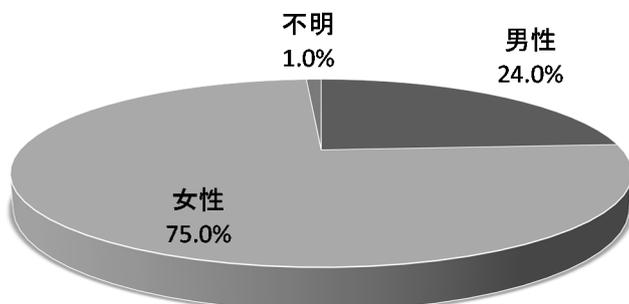


※2 施設名と利用者IDは把握できているが、対象者の第1回～第4回調査票が回収できていない。

(2) 性別

次いで性別をみると、男性が 24.0%、女性が 75.0%となっている。

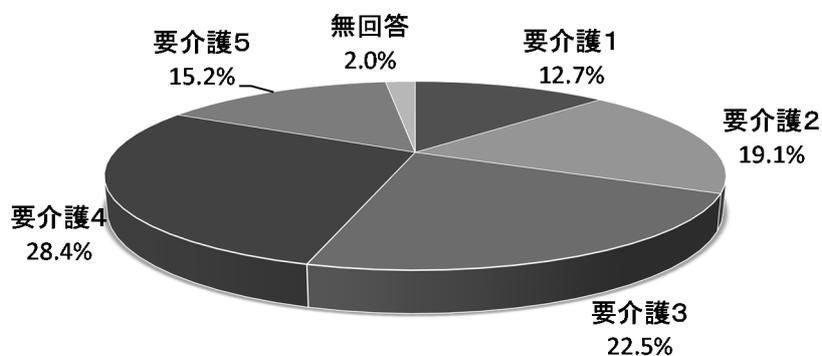
図表 2-3-2. 対象者の性別 (n=204)



(3) 要介護度

老健施設退所時（第 2 回調査時）の要介護度の分布をみると、要介護 4 の占める割合が最も多く 28.4%であり、次いで要介護 3（22.5%）、要介護 2（19.1%）、要介護 5（15.2%）、要介護 1（12.7%）の順となっている。また、第 1 回調査から第 5 回調査までの要介護度分布の推移を図表 2-3-4 に示す。

図表 2-3-3. 調査開始時の対象者の要介護度 (n=204)



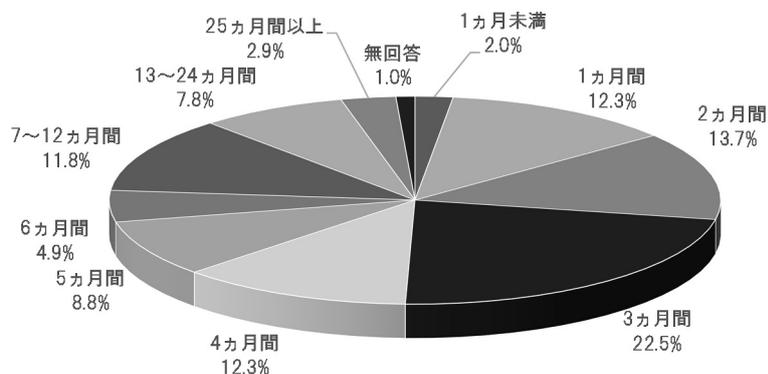
図表 2-3-4. 要介護度分布の推移

	第 1 回調査		第 2 回調査		第 3 回調査		第 4 回調査		第 5 回調査	
	度数	%								
要介護 1	29	14.2%	26	12.7%	23	11.6%	25	12.8%	11	10.7%
要介護 2	39	19.1%	39	19.1%	42	21.1%	40	20.5%	24	23.3%
要介護 3	42	20.6%	46	22.5%	45	22.6%	42	21.5%	23	22.3%
要介護 4	59	28.9%	58	28.4%	55	27.6%	56	28.7%	23	22.3%
要介護 5	32	15.7%	31	15.2%	33	16.6%	31	15.9%	22	21.4%
無回答	3	1.5%	4	2.0%	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

#### (4) 調査対象者の老健施設入所期間

対象者の老健施設入所期間<sup>※3</sup>についてみると、3ヵ月間が22.5%と最も多く、3ヵ月以下（「1ヵ月未満」「1ヵ月間」「2ヵ月間」「3ヵ月間」の計）の方が約半数であった。なお、最長の方は「82ヵ月」であった。

図表2-3-5. 対象者の老健施設入所期間 (n=204)



#### (5) 利用した介護サービス

直近の1ヵ月間に利用した介護保険サービスの状況を第4回調査（退所後1ヵ月）及び第5回調査（退所後3ヵ月）において調べたところ、図表2-3-6のとおりとなる。なお、「従前の老健施設へ入所」している方が29人いることが判明したため、以後の集計はこの29人を除き行うこととした。

図表2-3-6. 直近の1ヵ月間に利用した介護保険サービス（複数回答）

(n=195 (第4回調査)、n=103 (第5回調査))

	第4回調査		第5回調査	
	度数	%	度数	%
訪問介護	48	24.6%	17	16.5%
訪問入浴介護	1	0.5%	2	1.9%
訪問看護	21	10.8%	11	10.7%
訪問リハビリテーション	4	2.1%	2	1.9%
居宅療養管理指導	12	6.2%	5	4.9%
通所介護	67	34.4%	28	27.2%
通所リハビリテーション	89	45.6%	28	27.2%
短期入所生活介護	25	12.8%	12	11.7%
福祉用具貸与	129	66.2%	51	49.5%
短期入所療養介護	100	51.3%	28	27.2%
特定福祉用具販売	1	0.5%	0	0.0%
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	4	2.1%	1	1.0%
夜間対応型訪問介護	1	0.5%	1	1.0%
従前の老健施設へ入所（ショートステイを除く）	7	3.6%	29	28.2%
その他	3	1.5%	4	3.9%

注：入院等の理由により調査途中で中断された方もいるため、対象数(n)は集計対象の204件より少ない。

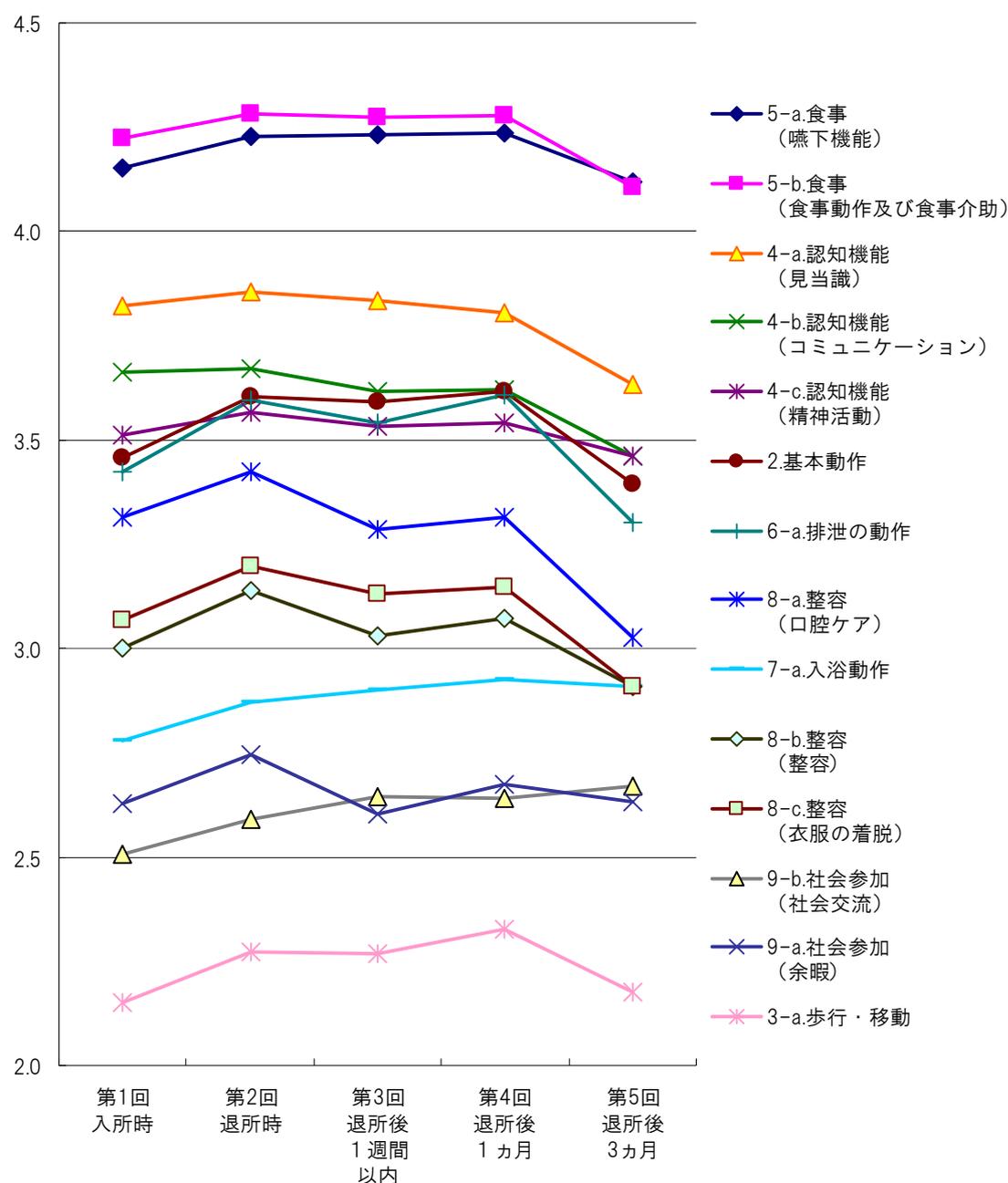
<sup>※3</sup> 入所期間は、老健施設への入所年月（第1回調査一問2(3)）と退所予定日（第1回～第4回調査票の表紙裏に記載）の差を月数でカウントしたもの。

#### 4. 第1回調査から第4回調査までのICFステージング平均スコアの推移

ICFステージングによる対象者のアセスメントについて、5段階評価で把握できる13項目につき、第1回調査（入所時）から第5回調査（退所後3ヵ月）までの推移を、対象者の平均により把握した\*4。

図表2-4-1は13項目すべてを一つのグラフにまとめたものであり、第5回調査時点の平均点が高い順にグラフを描写している。なお、各項目の具体的な数値については、単純集計表を参照されたい。

図表2-4-1. ICFステージング13項目の第1回から第5回にかけての平均スコア\*5



\*4 各調査時点における平均値であり、5回の調査を通じて比較可能な人のみを抽出していないことに留意が必要。

\*5 各項目及び各回毎にサンプル数が異なるため、本グラフのn数は記載しない。

## 5. 要約指標による利用者の状態の変化分析

第1回調査から第5回までのそれぞれの段階における利用者の状態の変化を、より把握しやすくする目的で、別途実施された研究事業<sup>※6※7</sup>において作成された5つの要約指標を用い分析を行った。なお、サンプル数の関係から、第1回調査から第4回調査までの状態の変化と、第1回調査から第5回調査までの状態の変化を、それぞれ分けて把握している。

### 要約指標

1. 移動及びADL	= 歩行+基本動作+排泄+入浴
2. 食事及びセルフケア	= 嚥下+食事動作+セルフケア+衣服+口腔ケア
3. 認知機能	= オリエンテーション+コミュニケーション+精神機能
4. 周辺症状	= 関連12項目の合計（数値が多いほど悪い）
5. 社会参加	= 余暇+社会交流

図表2-5-1は、第1回調査から第4回調査までの各要約指標の平均値の推移をみたものである。これによると、「移動及びADL」については、入所中はもとより退所後も継続的に数値が増加（改善）傾向にあるのに対し、「食事及びセルフケア」、「認知機能」、「周辺症状」、「社会参加」の4つの指標については、施設入所中（入所時から退所時にかけて）はいずれも数値が改善傾向（増加傾向、なお周辺症状については数値が小さいほど状態が良いため減少傾向）にあるのに対し、在宅復帰直後から一時的に悪化し、以後1週間から1ヵ月までの時間の経過とともに再び改善傾向に向かっている。

一方、図表2-5-2は、第1回調査から第5回調査までの各要約指標の平均値の推移をみたものであるが、「移動及びADL」については、第4回調査（退所後1ヵ月）までは改善傾向にあったものが、在宅生活の長期化に伴い、若干悪化する傾向を示している。また、「食事及びセルフケア」及び「周辺症状」は、退所後1週間から退所後1ヵ月にかけて若干の改善傾向がみられたものの、1ヵ月後から3ヵ月後にかけて再び悪化傾向に転じている。

なお、図表2-5-1及び図表2-5-2に用いた各数値の詳細については、図表2-5-3以降を参照されたい。

### （参考）状態の変化分析に用いたサンプル数

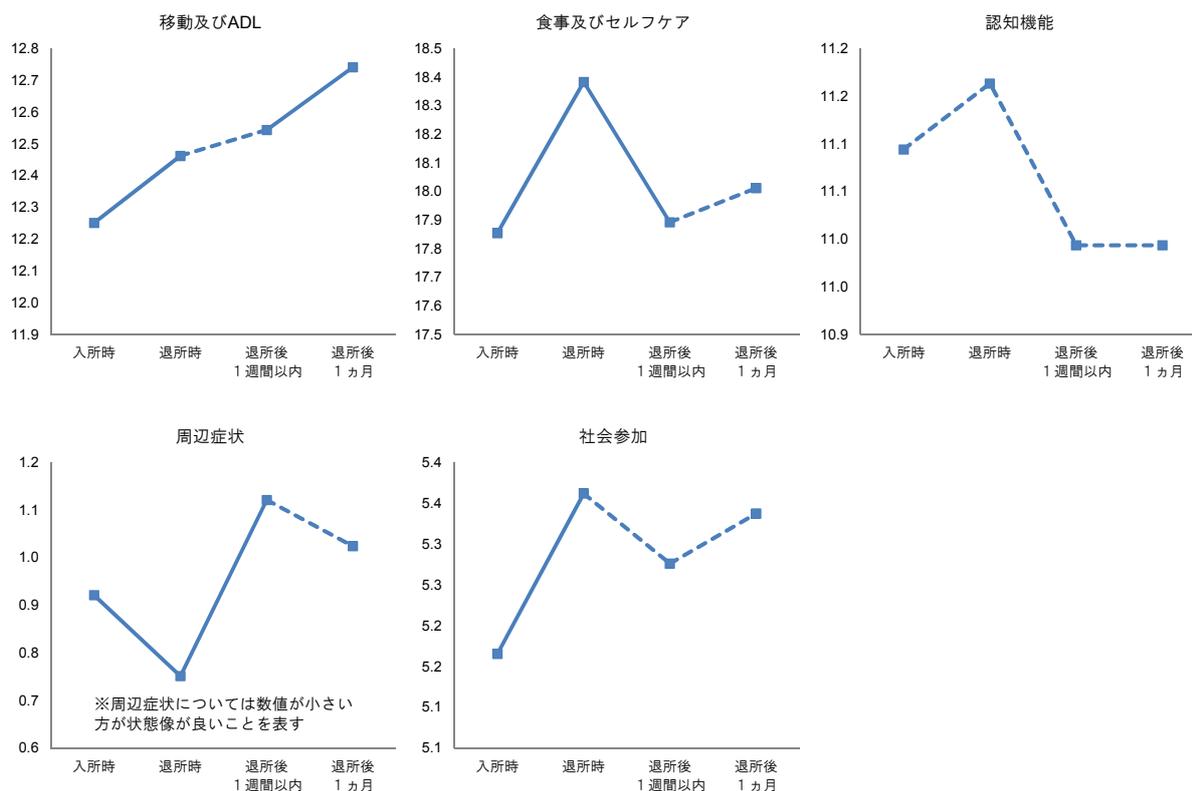
	第1回～第4回調査	第1回～第5回調査
移動及びADL	147	66
食事及びセルフケア	159	73
認知機能	159	72
周辺症状	165	74
社会参加	163	74

※各要約指標の平均値の推移の把握にあたっては、調査回ごとの要約指標作成に用いた各項目の全てが回答されていることが比較対象の条件となるため、サンプル数は上記のとおりとなった

※6 全国老人保健施設協会、ICF ステージングを用いた高齢者の状態の変化についての把握法の検討、厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）分担研究報告書

※7 要約指標は、同研究事業において、「1年間の変化の追跡が可能な3,762名をサンプルとし、ICF ステージングの14指標と周辺症状の変化を分析した結果得られた指標であり、要介護度や障害自立度、認知症自立度と比較して変化に対するの敏感性に優れており、施設内等における介入の効果が可能な指標である」とされている。

図表 2-5-1. 各要約指標の平均値の推移



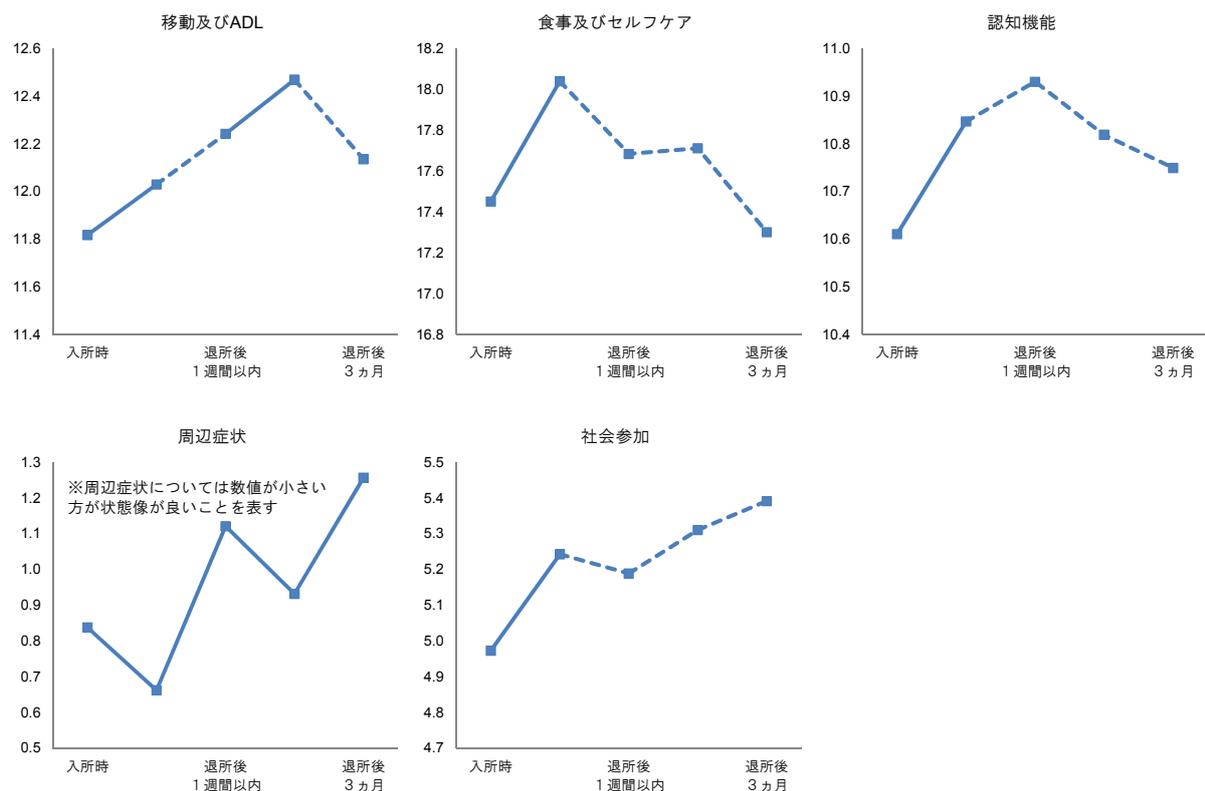
※図中、平均値の差が有意であるものを実線にて表している。

	施設		在宅	
	第1回 (入所時)	第2回 (退所時)	第3回 (退所後1週間以内)	第4回 (退所後1ヵ月)
移動及びADL	12.3	12.5	12.5	12.7
前回調査時からの変化		<u>+0.21</u>	+0.08	<u>+0.20</u>
食事及びセルフケア	17.9	18.4	17.9	18.0
前回調査時からの変化		<u>+0.53</u>	-0.49	+0.12
認知機能	11.1	11.2	11.0	11.0
前回調査時からの変化		+0.07	-0.17	+0.00
周辺症状	0.9	0.8	1.1	1.0
前回調査時からの変化		<u>-0.17</u>	<u>+0.37</u>	-0.10
社会参加	5.2	5.4	5.3	5.3
前回調査時からの変化		<u>+0.20</u>	-0.09	+0.06

※平均値の差につき、有意なものには下線を付した。

※周辺症状については、数値が小さい方が状態が良いことを表す。

図表 2-5-2. 各要約指標の平均値の推移



※図中、平均値の差が有意であるものを実線にて表している。

	施設		在宅		
	第1回 (入所時)	第2回 (退所時)	第3回 (退所後 1週間以内)	第4回 (退所後 1ヵ月)	第5回 (退所後 3ヵ月)
移動及びADL	11.8	12.0	12.2	12.5	12.1
前回調査時からの変化		<u>+0.21</u>	+0.21	<u>+0.23</u>	-0.33
食事及びセルフケア	17.5	18.0	17.7	17.7	17.3
前回調査時からの変化		<u>+0.59</u>	-0.36	+0.03	-0.41
認知機能	10.6	10.8	10.9	10.8	10.8
前回調査時からの変化		<u>+0.24</u>	+0.08	-0.11	-0.07
周辺症状	0.8	0.7	1.1	0.9	1.3
前回調査時からの変化		<u>-0.18</u>	<u>+0.46</u>	<u>-0.19</u>	<u>+0.32</u>
社会参加	5.0	5.2	5.2	5.3	5.4
前回調査時からの変化		<u>+0.27</u>	-0.05	+0.12	+0.08

※平均値の差につき、有意なものには下線を付した。

※周辺症状については、数値が小さい方が状態が良いことを表す。

以下、5つの要約指標それぞれにつき、要約指標の平均値、調査実施時期の平均値の差、及び調査実施時期の平均値の差が有意であるかどうかにつき、統計量等を記載する。

(1) 移動及びADLの変化(歩行+基本動作+排泄+入浴)(第1回~第4回)

要約指標の一つ目である「移動及びADL」について状態の変化をみると、第1回との比較については、第2回、第3回、第4回ともに大きく改善している。

また、第2回との比較についても第3回、第4回で改善が続いていることがわかる。なお、第2回と第3回との比較については、有意差はなかった。

図表2-5-3. 要約指標(移動及びADL)の記述統計量

	平均値	標準偏差	n
第1回(入所時)	12.252	3.592	147
第2回(退所時)	12.463	3.543	147
第3回(退所後1週間以内)	12.544	3.718	147
第4回(退所後1ヵ月)	12.742	3.701	147

図表2-5-4. 要約指標(移動及びADL)平均値の調査回数間の比較

(I)	(J)	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 <sup>b</sup>	95% 平均差信頼区間 <sup>b</sup>	
					下限	上限
第1回 (入所時)	第2回(退所時)	-.211(*)	.065	.001	-.339	-.083
	第3回(退所後1週間以内)	-.293(*)	.123	.018	-.535	-.050
	第4回(退所後1ヵ月)	-.490(*)	.123	.000	-.734	-.246
第2回 (退所時)	第1回(入所時)	.211(*)	.065	.001	.083	.339
	第3回(退所後1週間以内)	-.082	.104	.433	-.287	.123
	第4回(退所後1ヵ月)	-.279(*)	.103	.007	-.482	-.076
第3回 (退所後1週間以内)	第1回(入所時)	.293(*)	.123	.018	.050	.535
	第2回(退所時)	.082	.104	.433	-.123	.287
	第4回(退所後1ヵ月)	-.197(*)	.062	.002	-.320	-.074
第4回 (退所後1ヵ月)	第1回(入所時)	.490(*)	.123	.000	.246	.734
	第2回(退所時)	.279(*)	.103	.007	.076	.482
	第3回(退所後1週間以内)	.197(*)	.062	.002	.074	.320

推定周辺平均に基づいた

\*. 平均の差は .05 水準で有意である。

b. 多重比較の調整: 最小有意差(調整無しに等しい)

注: 調査回の時間軸にそって(例: (I)第1回、(J)第2回というように)平均値の差をみた場合、平均値の差がマイナスの場合は「改善」、プラスの場合は「悪化」を示す。なお、各回の分析を相互に行った為(例: 第1回から第2回、第2回から第1回)、本図表には時間軸を遡った(例: (I)第2回、(J)第1回というように)データも掲載している。

(2) 移動及びADLの変化(歩行+基本動作+排泄+入浴)(第1回~第5回)

「移動及びADL」について、第1回調査から第5回調査までの状態の変化をみると、第1回との比較については、第2回、第3回、第4回、第5回ともに大きく改善している(平均値の差がマイナスとなっている)。また、第2回調査以降も継続して改善傾向にあるが、第4回調査から第5回調査にかけて悪化している(平均値の差がプラス)。

なお、第2回と第3回との比較、第4回と第5回の比較については、有意差はなかった。

図表2-5-5. 要約指標(移動及びADL)の記述統計量

	平均値	標準偏差	n
第1回(入所時)	11.818	3.863	66
第2回(退所時)	12.030	3.847	66
第3回(退所後1週間以内)	12.242	4.243	66
第4回(退所後1ヵ月)	12.470	4.141	66
第5回(退所後3ヵ月)	12.136	4.023	66

図表2-5-6. 要約指標(移動及びADL)平均値の調査回数間の比較

(I)	(J)	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 <sup>b</sup>	95% 平均差信頼区間 <sup>b</sup>	
					下限	上限
第1回 (入所時)	第2回(退所時)	-.212(*)	.102	.042	-.417	-.008
	第3回(退所後1週間以内)	-.424(*)	.212	.049	-.847	-.002
	第4回(退所後1ヵ月)	-.652(*)	.220	.004	-1.090	-.213
	第5回(退所後3ヵ月)	-.318	.261	.227	-.840	.203
第2回 (退所時)	第1回(入所時)	.212(*)	.102	.042	.008	.417
	第3回(退所後1週間以内)	-.212	.173	.226	-.558	.134
	第4回(退所後1ヵ月)	-.439(*)	.176	.015	-.790	-.089
	第5回(退所後3ヵ月)	-.106	.213	.620	-.531	.319
第3回 (退所後1週間以内)	第1回(入所時)	.424(*)	.212	.049	.002	.847
	第2回(退所時)	.212	.173	.226	-.134	.558
	第4回(退所後1ヵ月)	-.227(*)	.103	.031	-.433	-.021
	第5回(退所後3ヵ月)	.106	.193	.585	-.280	.492
第4回 (退所後1ヵ月)	第1回(入所時)	.652(*)	.220	.004	.213	1.090
	第2回(退所時)	.439(*)	.176	.015	.089	.790
	第3回(退所後1週間以内)	.227(*)	.103	.031	.021	.433
	第5回(退所後3ヵ月)	.333	.172	.057	-.010	.677
第5回 (退所後3ヵ月)	第1回(入所時)	.318	.261	.227	-.203	.840
	第2回(退所時)	.106	.213	.620	-.319	.531
	第3回(退所後1週間以内)	-.106	.193	.585	-.492	.280
	第4回(退所後1ヵ月)	-.333	.172	.057	-.677	.010

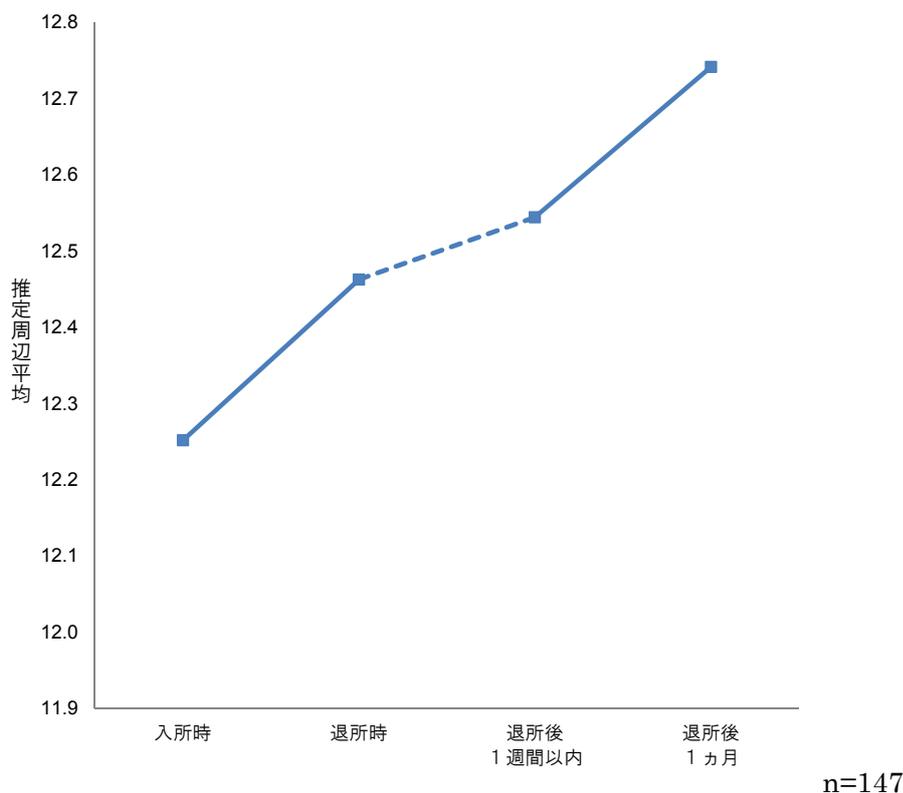
推定周辺平均に基づいた

\*. 平均の差は .05 水準で有意である。

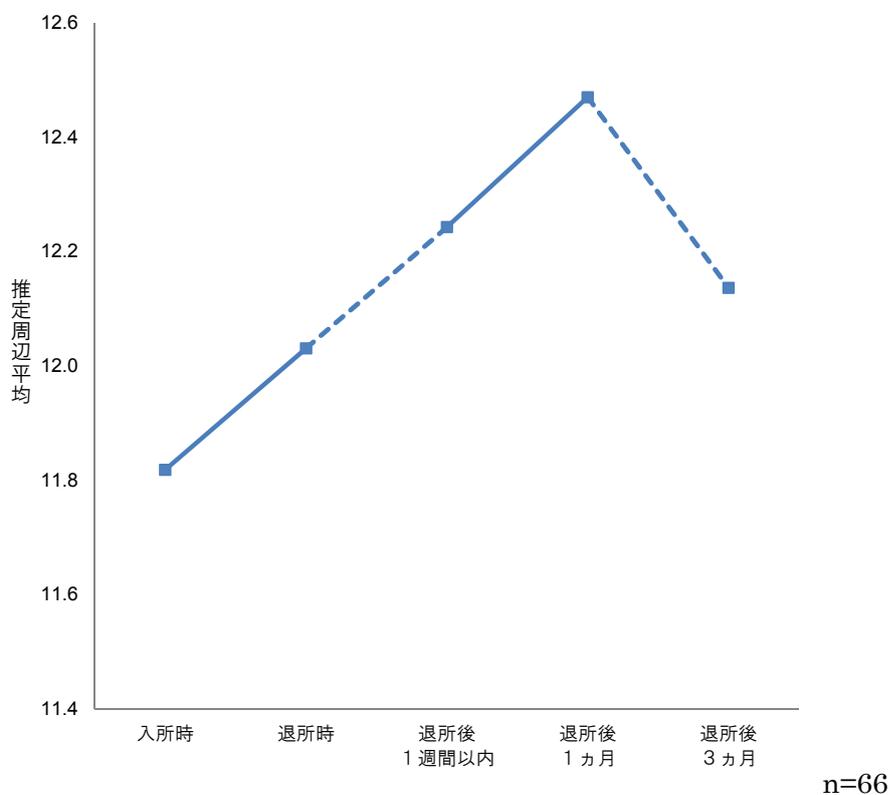
b. 多重比較の調整: 最小有意差(調整無しに等しい)

注: 調査回の時間軸にそって(例: (I)第1回、(J)第2回というように)平均値の差をみた場合、平均値の差がマイナスの場合は「改善」、プラスの場合は「悪化」を示す。なお、各回の分析を相互に行った為(例: 第1回から第2回、第2回から第1回)、本図表には時間軸を遡った(例: (I)第2回、(J)第1回というように)データも掲載している。

図表 2-5-7. 第1回調査から第4回調査にかけての要約指標「移動及びADL」の平均の推移



図表 2-5-8. 第1回調査から第5回調査にかけての要約指標「移動及びADL」の平均の推移



※両図とも、平均値の差が有意であるものを実線にて表している。

(3) 食事及びセルフケア（嚥下＋食事動作＋セルフケア＋衣服＋口腔ケア）（第1回～第4回）  
次いで、要約指標「食事及びセルフケア」について、状態の変化をみる。

まず、第1回との比較については、「移動及びADL」と同様に、第2回、第3回、第4回ともに改善している（平均値の差がマイナスとなっている）。

また、第2回から第3回にかけて、大きく悪化していることがわかる。なお、第3回と第4回の比較については、有意差はなかった。

図表2-5-9. 要約指標（食事及びセルフケア）の記述統計量

	平均値	標準偏差	n
第1回（入所時）	17.855	5.007	159
第2回（退所時）	18.384	5.066	159
第3回（退所後1週間以内）	17.893	5.040	159
第4回（退所後1ヵ月）	18.013	5.062	159

図表2-5-10. 要約指標（食事およびセルフケア）平均値の調査回数間の比較

(I)	(J)	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 <sup>b</sup>	95% 平均差信頼区間 <sup>b</sup>	
					下限	上限
第1回 （入所時）	第2回(退所時)	-.528(*)	.138	.000	-.801	-.256
	第3回(退所後1週間以内)	-.038	.163	.817	-.359	.283
	第4回(退所後1ヵ月)	-.157	.154	.310	-.462	.148
第2回 （退所時）	第1回(入所時)	.528(*)	.138	.000	.256	.801
	第3回(退所後1週間以内)	.491(*)	.130	.000	.234	.747
	第4回(退所後1ヵ月)	.371(*)	.124	.003	.127	.616
第3回 （退所後1週間以内）	第1回(入所時)	.038	.163	.817	-.283	.359
	第2回(退所時)	-.491(*)	.130	.000	-.747	-.234
	第4回(退所後1ヵ月)	-.119	.073	.102	-.263	.024
第4回 （退所後1ヵ月）	第1回(入所時)	.157	.154	.310	-.148	.462
	第2回(退所時)	-.371(*)	.124	.003	-.616	-.127
	第3回(退所後1週間以内)	.119	.073	.102	-.024	.263

推定周辺平均に基づいた

\*. 平均の差は .05 水準で有意である。

b. 多重比較の調整: 最小有意差（調整無しに等しい）

注：調査回の時間軸にそって（例：(I)第1回、(J)第2回というように）平均値の差をみた場合、平均値の差がマイナスの場合は「改善」、プラスの場合は「悪化」を示す。なお、各回の分析を相互に行った為（例：第1回から第2回、第2回から第1回）、本図表には時間軸を遡った（例：(I)第2回、(J)第1回というように）データも掲載している。

(4) 食事及びセルフケア（嚥下＋食事動作＋セルフケア＋衣服＋口腔ケア）（第1回～第5回）

要約指標「食事及びセルフケア」について、第5回調査までの状態の変化をみる。

まず、第1回との比較については、第2回、第3回、第4回ともに改善している（平均値の差がマイナスとなっている）が、第5回調査はやや悪化している。

また、第2回から第3回にかけて、第4回から第5回にかけて、大きく悪化していることがわかる。なお、第3回と第4回の比較については、有意差はなかった。

図表2-5-11. 要約指標（食事及びセルフケア）の記述統計量

	平均値	標準偏差	n
第1回（入所時）	17.452	5.711	73
第2回（退所時）	18.041	5.641	73
第3回（退所後1週間以内）	17.685	5.542	73
第4回（退所後1ヵ月）	17.712	5.404	73
第5回（退所後3ヵ月）	17.301	5.557	73

図表2-5-12. 要約指標（食事およびセルフケア）平均値の調査回数間の比較

(I)	(J)	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 <sup>b</sup>	95% 平均差信頼区間 <sup>b</sup>	
					下限	上限
第1回 (入所時)	第2回(退所時)	-.589(*)	.215	.008	-1.018	-.160
	第3回(退所後1週間以内)	-.233	.258	.369	-.747	.281
	第4回(退所後1ヵ月)	-.260	.232	.265	-.722	.202
	第5回(退所後3ヵ月)	.151	.288	.603	-.424	.726
第2回 (退所時)	第1回(入所時)	.589(*)	.215	.008	.160	1.018
	第3回(退所後1週間以内)	.356	.197	.075	-.037	.750
	第4回(退所後1ヵ月)	.329	.186	.082	-.042	.700
	第5回(退所後3ヵ月)	.740(*)	.223	.001	.295	1.185
第3回 (退所後1週間以内)	第1回(入所時)	.233	.258	.369	-.281	.747
	第2回(退所時)	-.356	.197	.075	-.750	.037
	第4回(退所後1ヵ月)	-.027	.101	.788	-.229	.175
	第5回(退所後3ヵ月)	.384	.227	.096	-.069	.836
第4回 (退所後1ヵ月)	第1回(入所時)	.260	.232	.265	-.202	.722
	第2回(退所時)	-.329	.186	.082	-.700	.042
	第3回(退所後1週間以内)	.027	.101	.788	-.175	.229
	第5回(退所後3ヵ月)	.411	.209	.053	-.006	.828
第5回 (退所後3ヵ月)	第1回(入所時)	-.151	.288	.603	-.726	.424
	第2回(退所時)	-.740(*)	.223	.001	-1.185	-.295
	第3回(退所後1週間以内)	-.384	.227	.096	-.836	.069
	第4回(退所後1ヵ月)	-.411	.209	.053	-.828	.006

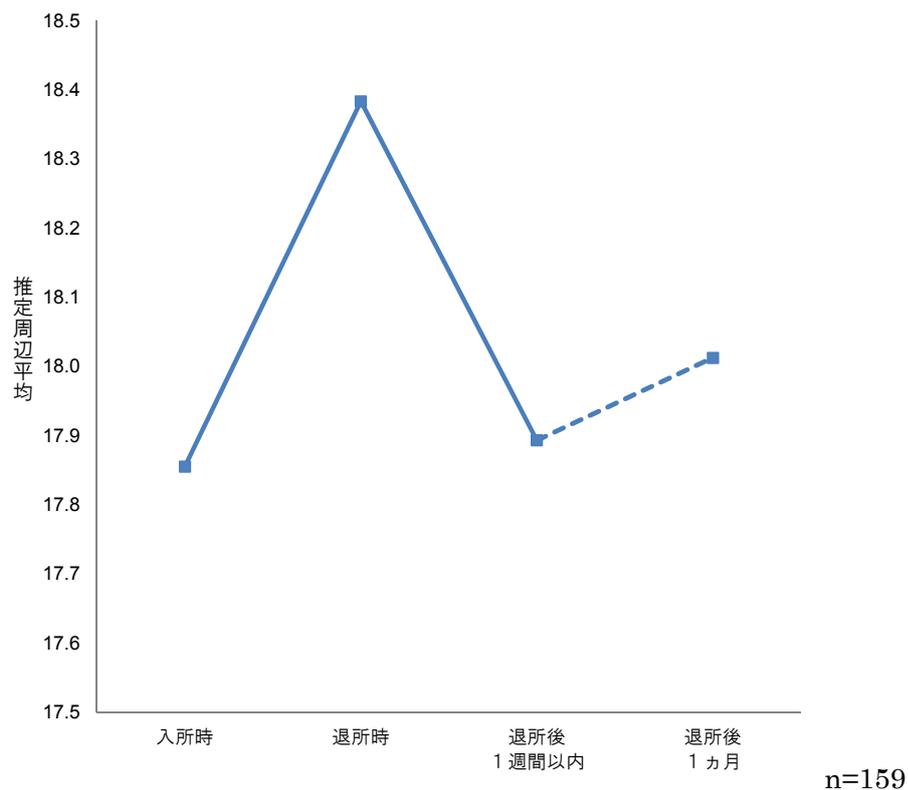
推定周辺平均に基づいた

\*. 平均の差は .05 水準で有意である。

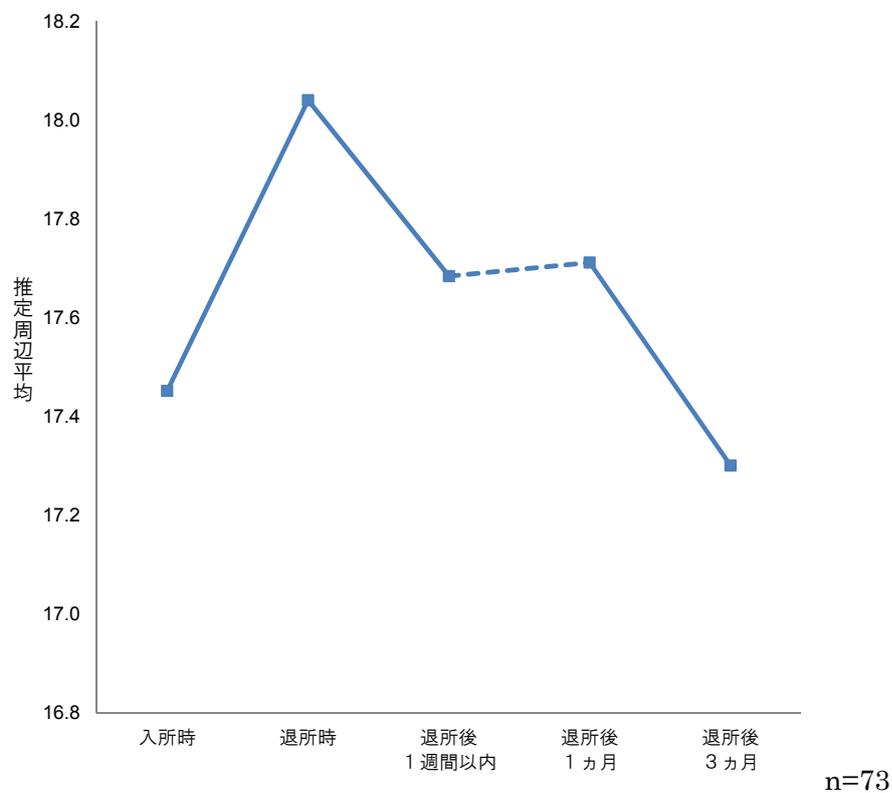
b. 多重比較の調整: 最小有意差 (調整無しに等しい)

注: 調査回の時間軸にそって (例: (I)第1回、(J)第2回というように) 平均値の差をみた場合、平均値の差がマイナスの場合は「改善」、プラスの場合は「悪化」を示す。なお、各回の分析を相互に行った為 (例: 第1回から第2回、第2回から第1回)、本図表には時間軸を遡った (例: (I)第2回、(J)第1回というように) データも掲載している。

図表 2-5-13. 第1回調査から第4回調査にかけての「食事及びセルフケア」の平均の推移



図表 2-5-14. 第1回調査から第5回調査にかけての「食事及びセルフケア」の平均の推移



※両図とも、平均値の差が有意であるものを実線にて表している。

(5) 認知機能（オリエンテーション＋コミュニケーション＋精神機能）（第1回～第4回）

要約指標「認知機能」について、状態の変化をみる。

第1回から第2回にかけて若干の改善が見られるが、その後第3回にかけて大きく悪化している。なお、第1回から第4回調査まで、いずれの平均値の差も有意でなかった。

図表2-5-15. 要約指標（認知機能）の記述統計量

	平均値	標準偏差	n
第1回（入所時）	11.094	3.087	159
第2回（退所時）	11.164	3.136	159
第3回（退所後1週間以内）	10.994	3.181	159
第4回（退所後1ヵ月）	10.994	3.175	159

図表2-5-16. 要約指標（認知機能）平均値の調査回数間の比較

(I)	(J)	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 <sup>b</sup>	95% 平均差信頼区間 <sup>b</sup>	
					下限	上限
第1回 （入所時）	第2回(退所時)	-.069	.088	.435	-.244	.105
	第3回(退所後1週間以内)	.101	.125	.422	-.146	.347
	第4回(退所後1ヵ月)	.101	.112	.371	-.121	.322
第2回 （退所時）	第1回(入所時)	.069	.088	.435	-.105	.244
	第3回(退所後1週間以内)	.170	.108	.116	-.043	.382
	第4回(退所後1ヵ月)	.170	.099	.087	-.025	.365
第3回 （退所後1週間以内）	第1回(入所時)	-.101	.125	.422	-.347	.146
	第2回(退所時)	-.170	.108	.116	-.382	.043
	第4回(退所後1ヵ月)	.000	.072	1.000	-.143	.143
第4回 （退所後1ヵ月）	第1回(入所時)	-.101	.112	.371	-.322	.121
	第2回(退所時)	-.170	.099	.087	-.365	.025
	第3回(退所後1週間以内)	.000	.072	1.000	-.143	.143

推定周辺平均に基づいた

\*. 平均の差は .05 水準で有意である。

b. 多重比較の調整: 最小有意差（調整無しに等しい）

注：調査回の時間軸にそって（例：(I)第1回、(J)第2回というように）平均値の差をみた場合、平均値の差がマイナスの場合は「改善」、プラスの場合は「悪化」を示す。なお、各回の分析を相互に行った為（例：第1回から第2回、第2回から第1回）、本図表には時間軸を遡った（例：(I)第2回、(J)第1回というように）データも掲載している。

(6) 認知機能（オリエンテーション＋コミュニケーション＋精神機能）（第1回～第5回）

要約指標「認知機能」について、第5回調査までの状態の変化をみる。

まず、第1回調査と比べ第2回、第3回はいずれも改善しているが、第3回以降の調査では徐々に改善の度合いが小さくなっている。

なお、平均値の差が有意であったのは第1回と第2回との比較であり、それ以外の比較については、有意差はなかった。

図表2-5-17. 要約指標（認知機能）の記述統計量

	平均値	標準偏差	n
第1回（入所時）	10.611	3.291	72
第2回（退所時）	10.847	3.170	72
第3回（退所後1週間以内）	10.931	3.247	72
第4回（退所後1ヵ月）	10.819	3.277	72
第5回（退所後3ヵ月）	10.750	3.326	72

図表2-5-18. 要約指標（認知機能）平均値の調査回数間の比較

(I)	(J)	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 <sup>b</sup>	95% 平均差信頼区間 <sup>b</sup>	
					下限	上限
第1回 （入所時）	第2回(退所時)	-.236(*)	.111	.037	-.457	-.015
	第3回(退所後1週間以内)	-.319	.164	.056	-.647	.008
	第4回(退所後1ヵ月)	-.208	.157	.189	-.521	.105
	第5回(退所後3ヵ月)	-.139	.211	.513	-.561	.283
第2回 （退所時）	第1回(入所時)	.236(*)	.111	.037	.015	.457
	第3回(退所後1週間以内)	-.083	.152	.584	-.386	.219
	第4回(退所後1ヵ月)	.028	.140	.843	-.251	.307
	第5回(退所後3ヵ月)	.097	.204	.635	-.309	.504
第3回 （退所後1週間以内）	第1回(入所時)	.319	.164	.056	-.008	.647
	第2回(退所時)	.083	.152	.584	-.219	.386
	第4回(退所後1ヵ月)	.111	.126	.381	-.140	.362
	第5回(退所後3ヵ月)	.181	.190	.345	-.198	.560
第4回 （退所後1ヵ月）	第1回(入所時)	.208	.157	.189	-.105	.521
	第2回(退所時)	-.028	.140	.843	-.307	.251
	第3回(退所後1週間以内)	-.111	.126	.381	-.362	.140
	第5回(退所後3ヵ月)	.069	.186	.710	-.301	.440
第5回 （退所後3ヵ月）	第1回(入所時)	.139	.211	.513	-.283	.561
	第2回(退所時)	-.097	.204	.635	-.504	.309
	第3回(退所後1週間以内)	-.181	.190	.345	-.560	.198
	第4回(退所後1ヵ月)	-.069	.186	.710	-.440	.301

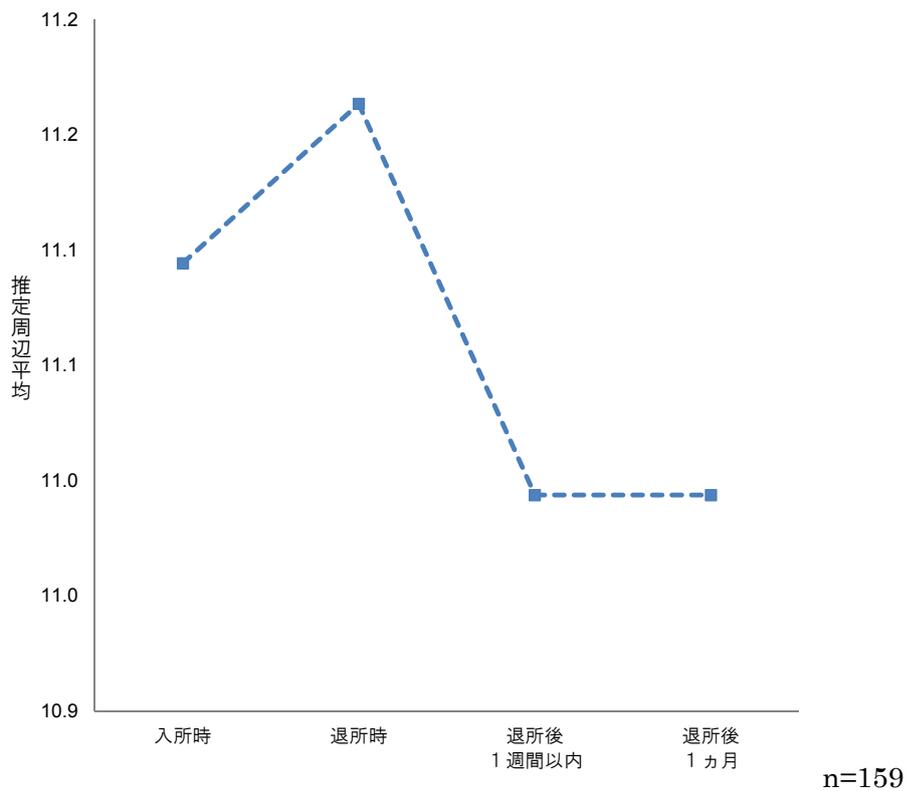
推定周辺平均に基づいた

\*. 平均の差は .05 水準で有意である。

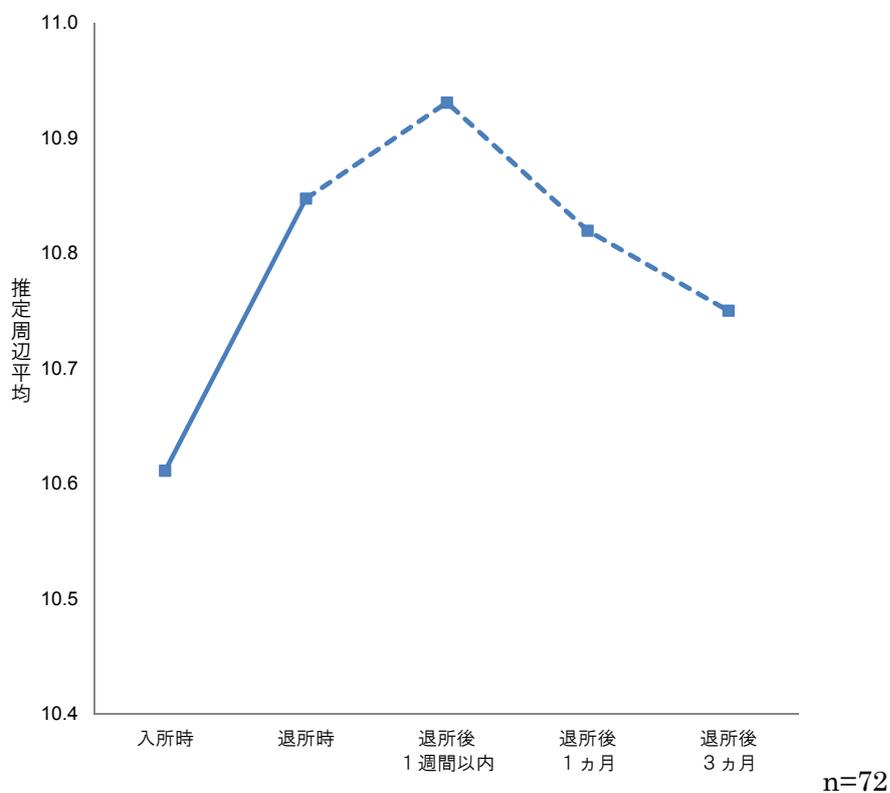
b. 多重比較の調整: 最小有意差（調整無しに等しい）

注：調査回の時間軸にそって（例：(I)第1回、(J)第2回というように）平均値の差をみた場合、平均値の差がマイナスの場合は「改善」、プラスの場合は「悪化」を示す。なお、各回の分析を相互に行った為（例：第1回から第2回、第2回から第1回）、本図表には時間軸を遡った（例：(I)第2回、(J)第1回というように）データも掲載している。

図表 2-5-19. 第1回調査から第4回調査にかけての要約指標（認知機能）の平均の推移



図表 2-5-20. 第1回調査から第5回調査にかけての要約指標（認知機能）の平均の推移



※両図とも、平均値の差が有意であるものを実線にて表している。

(7) 周辺症状（関連 12 項目の合計）（第 1 回～第 4 回）

要約指標「周辺症状」の平均値については、数値が低いほど状態が良いことを指す。

第 1 回から第 2 回にかけて改善しており、その後第 3 回にかけて大きく悪化している。

第 1 回調査と比べ第 2 回、第 3 回調査に有意差があり、また第 2 回調査と比べ第 3 回、第 4 回調査に有意差が認められた。

図表 2-5-21. 要約指標（周辺症状）の記述統計量

	平均値	標準偏差	n
第1回（入所時）	0.921	1.163	165
第2回（退所時）	0.752	1.171	165
第3回（退所後 1 週間以内）	1.121	1.418	165
第4回（退所後 1 ヶ月）	1.024	1.302	165

図表 2-5-22. 要約指標（周辺症状）平均値の調査回数間の比較

（周辺症状については数値が低いほど状態が良いことを表す）

(I)	(J)	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 <sup>b</sup>	95% 平均差信頼区間 <sup>b</sup>	
					下限	上限
第1回 （入所時）	第2回(退所時)	.170(*)	.057	.003	.058	.282
	第3回(退所後 1 週間以内)	-.200(*)	.091	.030	-.381	-.019
	第4回(退所後 1 ヶ月)	-.103	.088	.243	-.277	.071
第2回 （退所時）	第1回(入所時)	-.170(*)	.057	.003	-.282	-.058
	第3回(退所後 1 週間以内)	-.370(*)	.093	.000	-.553	-.187
	第4回(退所後 1 ヶ月)	-.273(*)	.094	.004	-.457	-.088
第3回 （退所後 1 週間以内）	第1回(入所時)	.200(*)	.091	.030	.019	.381
	第2回(退所時)	.370(*)	.093	.000	.187	.553
	第4回(退所後 1 ヶ月)	.097	.063	.128	-.028	.222
第4回 （退所後 1 ヶ月）	第1回(入所時)	.103	.088	.243	-.071	.277
	第2回(退所時)	.273(*)	.094	.004	.088	.457
	第3回(退所後 1 週間以内)	-.097	.063	.128	-.222	.028

推定周辺平均に基づいた

\*. 平均の差は .05 水準で有意である。

b. 多重比較の調整: 最小有意差（調整無しに等しい）

注：調査回の時間軸にそって（例：(I)第1回、(J)第2回というように）平均値の差をみた場合、平均値の差がプラスの場合は「改善」、マイナスの場合は「悪化」を示す。なお、各回の分析を相互に行った為（例：第1回から第2回、第2回から第1回）、本図表には時間軸を遡った（例：(I)第2回、(J)第1回というように）データも掲載している。

(8) 周辺症状（関連 12 項目の合計）（第 1 回～第 5 回）

要約指標「周辺症状」の平均値については、数値が低いほど状態が良いことを指す。

「周辺症状」の平均値の差については、第 1 回と 2 回、2 回と 3 回、3 回と 4 回、4 回と 5 回、といずれにおいても有意である。

第 1 回から第 2 回にかけて改善しているが、第 3 回以降については第 1 回と比較すると悪化している。第 2 回から第 3 回にかけて再び悪化し、また第 3 回から第 4 回にかけて改善するなど、全体として退所後は悪化傾向にあるが、悪化と改善を繰り返し推移している。

図表 2-5-23. 要約指標（周辺症状）の記述統計量

	平均値	標準偏差	n
第1回（入所時）	0.838	1.217	74
第2回（退所時）	0.662	1.208	74
第3回（退所後 1 週間以内）	1.122	1.561	74
第4回（退所後 1 ヶ月）	0.932	1.446	74
第5回（退所後 3 ヶ月）	1.257	1.836	74

図表 2-5-24. 要約指標（周辺症状）平均値の調査回数間の比較  
（周辺症状については数値が低いほど状態が良いことを表す）

(I)	(J)	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 <sup>b</sup>	95% 平均差信頼区間 <sup>b</sup>	
					下限	上限
第1回 （入所時）	第2回(退所時)	.176(*)	.075	.023	.025	.326
	第3回(退所後 1 週間以内)	-.284(*)	.108	.010	-.499	-.068
	第4回(退所後 1 ヶ月)	-.095	.117	.423	-.328	.139
	第5回(退所後 3 ヶ月)	-.419(*)	.176	.020	-.770	-.067
第2回 （退所時）	第1回(入所時)	-.176(*)	.075	.023	-.326	-.025
	第3回(退所後 1 週間以内)	-.459(*)	.131	.001	-.720	-.199
	第4回(退所後 1 ヶ月)	-.270(*)	.134	.047	-.537	-.004
	第5回(退所後 3 ヶ月)	-.595(*)	.185	.002	-.964	-.225
第3回 （退所後 1 週間以内）	第1回(入所時)	.284(*)	.108	.010	.068	.499
	第2回(退所時)	.459(*)	.131	.001	.199	.720
	第4回(退所後 1 ヶ月)	.189(*)	.060	.002	.070	.308
	第5回(退所後 3 ヶ月)	-.135	.165	.415	-.464	.193
第4回 （退所後 1 ヶ月）	第1回(入所時)	.095	.117	.423	-.139	.328
	第2回(退所時)	.270(*)	.134	.047	.004	.537
	第3回(退所後 1 週間以内)	-.189(*)	.060	.002	-.308	-.070
	第5回(退所後 3 ヶ月)	-.324(*)	.155	.040	-.634	-.015
第5回 （退所後 3 ヶ月）	第1回(入所時)	.419(*)	.176	.020	.067	.770
	第2回(退所時)	.595(*)	.185	.002	.225	.964
	第3回(退所後 1 週間以内)	.135	.165	.415	-.193	.464
	第4回(退所後 1 ヶ月)	.324(*)	.155	.040	.015	.634

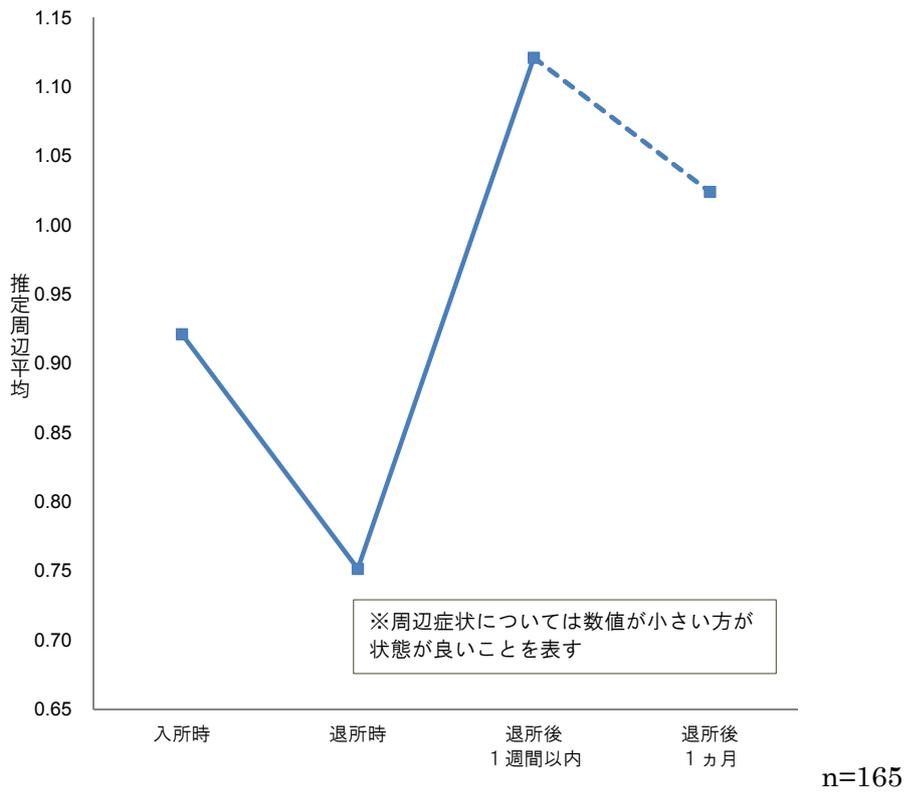
推定周辺平均に基づいた

\*. 平均の差は .05 水準で有意である。

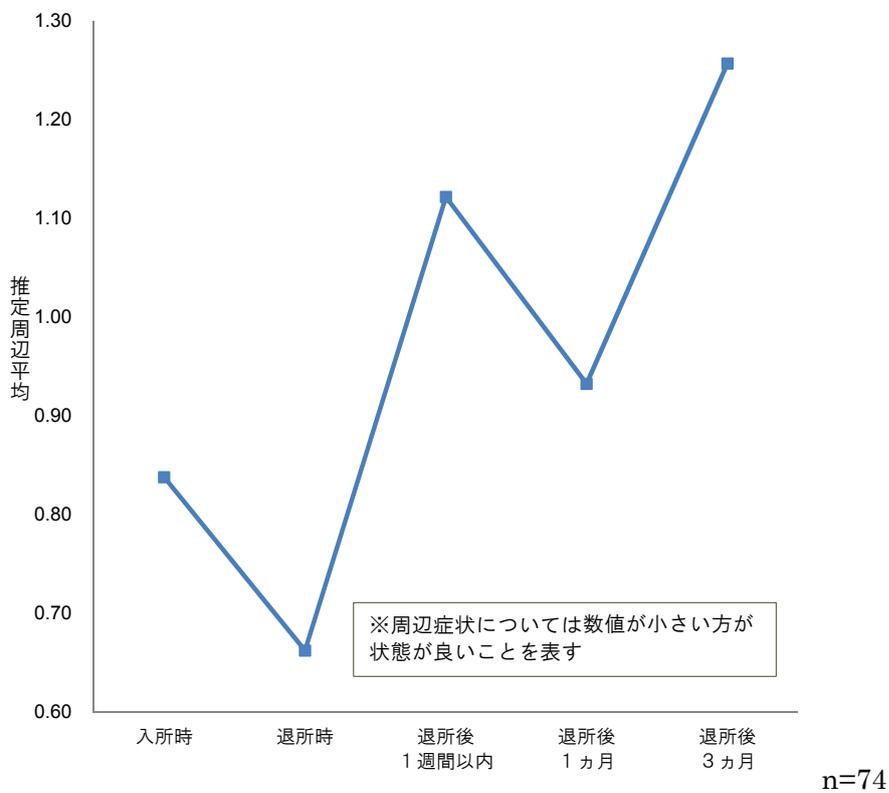
b. 多重比較の調整: 最小有意差（調整無しに等しい）

注：調査回の時間軸にそって（例：(I)第1回、(J)第2回というように）平均値の差をみた場合、平均値の差がプラスの場合は「改善」、マイナスの場合は「悪化」を示す。なお、各回の分析を相互に行った為（例：第1回から第2回、第2回から第1回）、本図表には時間軸を遡った（例：(I)第2回、(J)第1回というように）データも掲載している。

図表 2-5-25. 第1回調査から第4回調査にかけての要約指標「周辺症状」の平均の推移



図表 2-5-26. 第1回調査から第5回調査にかけての要約指標「周辺症状」の平均の推移



※両図とも、平均値の差が有意であるものを実線にて表している。

(9) 社会参加（余暇＋社会交流）（第1回～第4回）

最後の要約指標「社会参加」について、状態の変化をみる。

まず、第1回との比較については、他の要約指標と同様に、第2回、第3回、第4回ともに改善している（平均値の差がマイナスとなっている）。

なお、第1回と第2回との比較において有意差があったが、それ以外の調査回数間の平均値比較に有意差なかった。

図表2-5-27. 要約指標（社会参加）の記述統計量

	平均値	標準偏差	n
第1回（入所時）	5.166	1.302	163
第2回（退所時）	5.362	1.236	163
第3回（退所後1週間以内）	5.276	1.402	163
第4回（退所後1ヵ月）	5.337	1.292	163

図表2-5-28. 要約指標（社会参加）平均値の調査回数間の比較

(I)	(J)	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 <sup>b</sup>	95% 平均差信頼区間 <sup>b</sup>	
					下限	上限
第1回 （入所時）	第2回(退所時)	-.196(*)	.052	.000	-.299	-.093
	第3回(退所後1週間以内)	-.110	.088	.213	-.285	.064
	第4回(退所後1ヵ月)	-.172	.089	.054	-.347	.003
第2回 （退所時）	第1回(入所時)	.196(*)	.052	.000	.093	.299
	第3回(退所後1週間以内)	.086	.082	.295	-.076	.247
	第4回(退所後1ヵ月)	.025	.081	.761	-.135	.184
第3回 （退所後1週間以内）	第1回(入所時)	.110	.088	.213	-.064	.285
	第2回(退所時)	-.086	.082	.295	-.247	.076
	第4回(退所後1ヵ月)	-.061	.051	.226	-.161	.038
第4回 （退所後1ヵ月）	第1回(入所時)	.172	.089	.054	-.003	.347
	第2回(退所時)	-.025	.081	.761	-.184	.135
	第3回(退所後1週間以内)	.061	.051	.226	-.038	.161

推定周辺平均に基づいた

\*. 平均の差は .05 水準で有意である。

b. 多重比較の調整: 最小有意差（調整無しに等しい）

注：調査回の時間軸にそって（例：(I)第1回、(J)第2回というように）平均値の差をみた場合、平均値の差がマイナスの場合は「改善」、プラスの場合は「悪化」を示す。なお、各回の分析を相互に行った為（例：第1回から第2回、第2回から第1回）、本図表には時間軸を遡った（例：(I)第2回、(J)第1回というように）データも掲載している。

(10) 社会参加（余暇＋社会交流）（第1回～第5回）

要約指標「社会参加」の第5回調査までの変化をみる。

まず、第1回との比較については、他の要約指標と同様に、第2回、第3回、第4回、第5回ともに改善している。また、第2回から第3回にかけて一時的に悪化するが、その後第5回にかけて改善しており、退所直後一時的に悪化したものの在宅での生活期間が長くなるにつれ、改善傾向にある。

図表2-5-29. 要約指標（社会参加）の記述統計量

	平均値	標準偏差	n
第1回（入所時）	4.973	1.324	74
第2回（退所時）	5.243	1.191	74
第3回（退所後1週間以内）	5.189	1.449	74
第4回（退所後1ヵ月）	5.311	1.303	74
第5回（退所後3ヵ月）	5.392	1.569	74

図表2-5-30. 要約指標（社会参加）平均値の調査回数間の比較

(I)	(J)	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 <sup>b</sup>	95% 平均差信頼区間 <sup>b</sup>	
					下限	上限
第1回 （入所時）	第2回(退所時)	-.270(*)	.082	.002	-.434	-.106
	第3回(退所後1週間以内)	-.216	.139	.124	-.493	.061
	第4回(退所後1ヵ月)	-.338(*)	.125	.009	-.587	-.089
	第5回(退所後3ヵ月)	-.419(*)	.143	.004	-.703	-.135
第2回 （退所時）	第1回(入所時)	.270(*)	.082	.002	.106	.434
	第3回(退所後1週間以内)	.054	.133	.686	-.211	.319
	第4回(退所後1ヵ月)	-.068	.114	.556	-.296	.160
	第5回(退所後3ヵ月)	-.149	.137	.281	-.422	.124
第3回 （退所後1週間以内）	第1回(入所時)	.216	.139	.124	-.061	.493
	第2回(退所時)	-.054	.133	.686	-.319	.211
	第4回(退所後1ヵ月)	-.122	.084	.151	-.289	.045
	第5回(退所後3ヵ月)	-.203	.154	.192	-.509	.104
第4回 （退所後1ヵ月）	第1回(入所時)	.338(*)	.125	.009	.089	.587
	第2回(退所時)	.068	.114	.556	-.160	.296
	第3回(退所後1週間以内)	.122	.084	.151	-.045	.289
	第5回(退所後3ヵ月)	-.081	.132	.540	-.343	.181
第5回 （退所後3ヵ月）	第1回(入所時)	.419(*)	.143	.004	.135	.703
	第2回(退所時)	.149	.137	.281	-.124	.422
	第3回(退所後1週間以内)	.203	.154	.192	-.104	.509
	第4回(退所後1ヵ月)	.081	.132	.540	-.181	.343

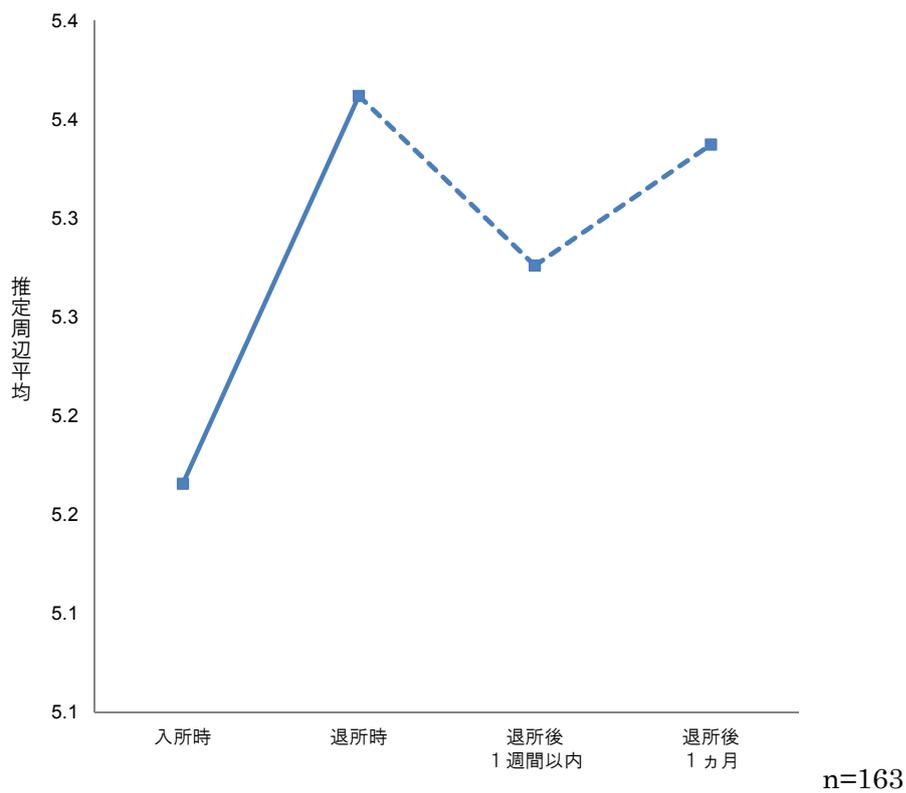
推定周辺平均に基づいた

\*. 平均の差は .05 水準で有意である。

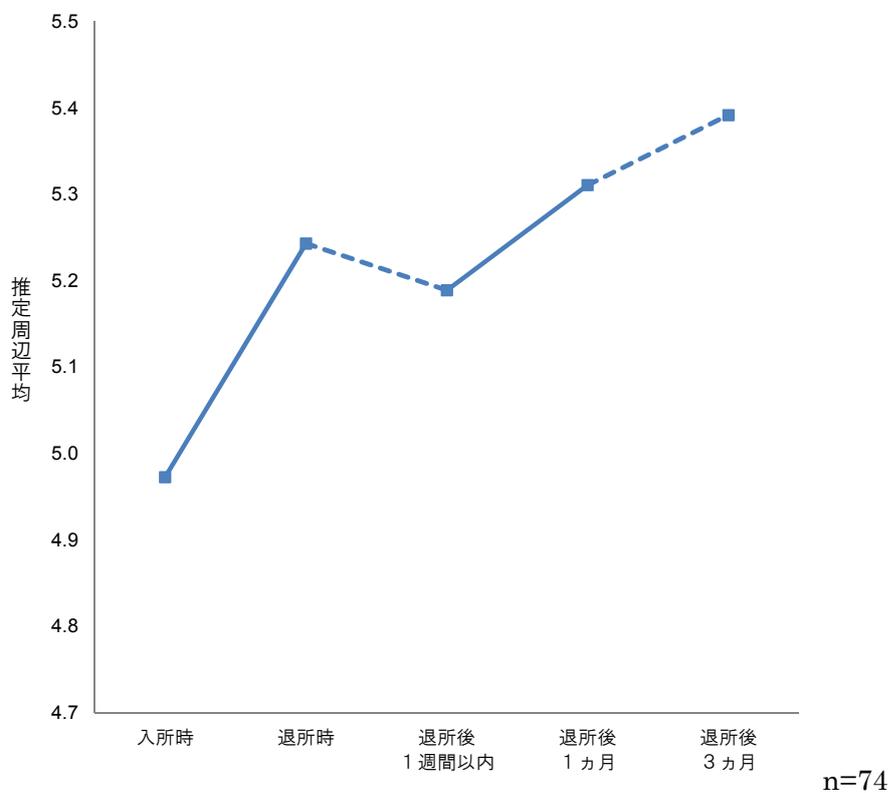
b. 多重比較の調整: 最小有意差（調整無しに等しい）

注：調査回の時間軸にそって（例：(I)第1回、(J)第2回というように）平均値の差をみた場合、平均値の差がマイナスの場合は「改善」、プラスの場合は「悪化」を示す。なお、各回の分析を相互に行った為（例：第1回から第2回、第2回から第1回）、本図表には時間軸を遡った（例：(I)第2回、(J)第1回というように）データも掲載している。

図表 2-5-3 1. 第1回調査から第4回調査にかけての「社会参加」の推定周辺平均の推移



図表 2-5-3 2. 第1回調査から第5回調査にかけての「社会参加」の推定周辺平均の推移

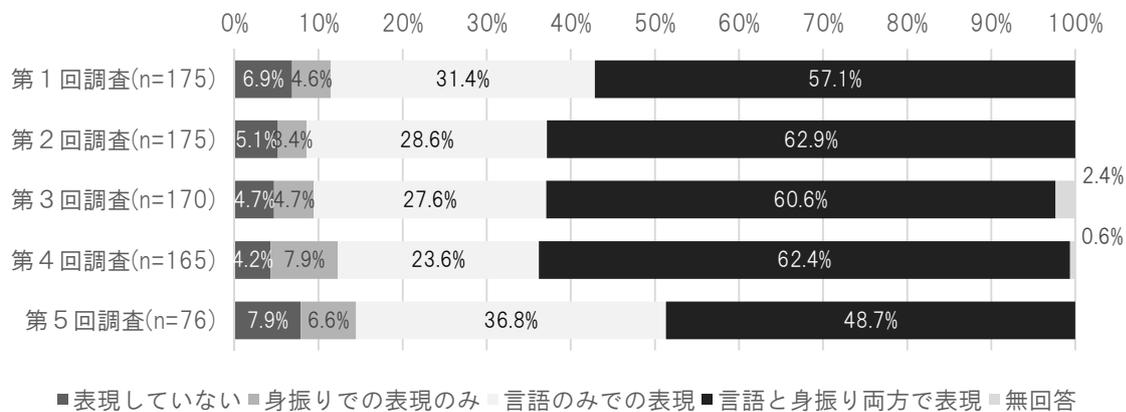


※両図とも、平均値の差が有意であるものを実線にて表している。

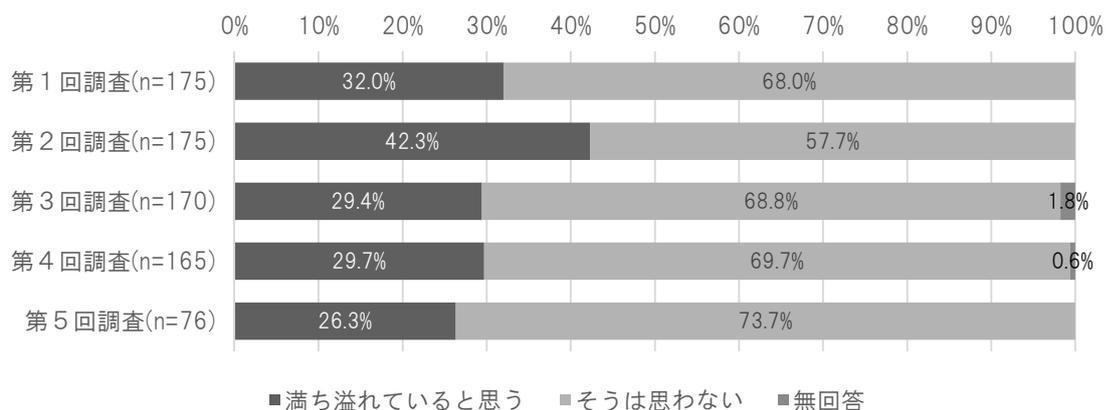
## 6. ICF disability set に基づく新指標として把握した項目の調査回ごとの結果推移

第1回調査から第5回までの、「ICF disability set に基づく新指標」として把握した各項目の、調査結果の分布を図表 2-6-1 から 2-6-14 に示す。

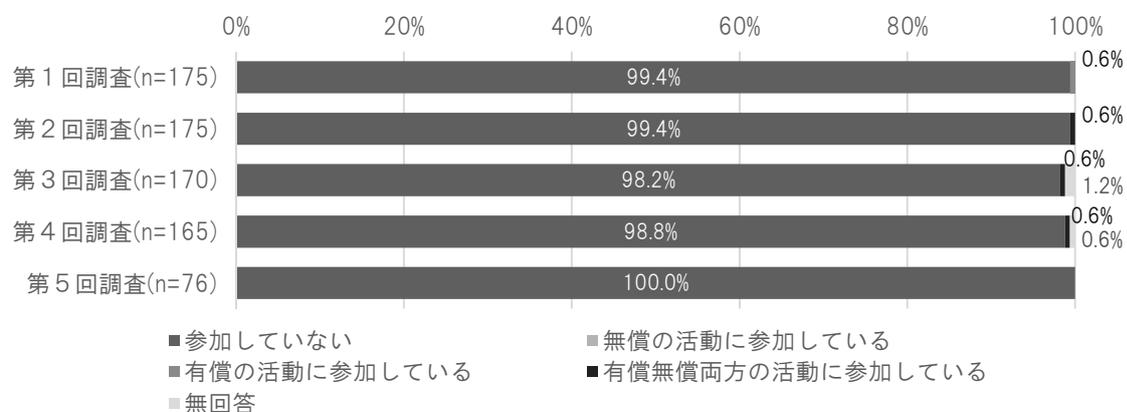
図表 2-6-1. 喜怒哀楽の表現



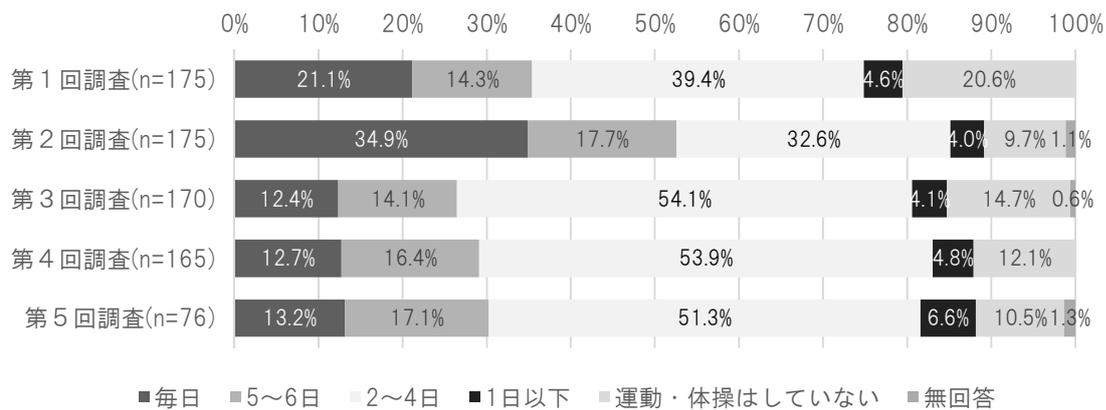
図表 2-6-2. 活力が満ち溢れているか



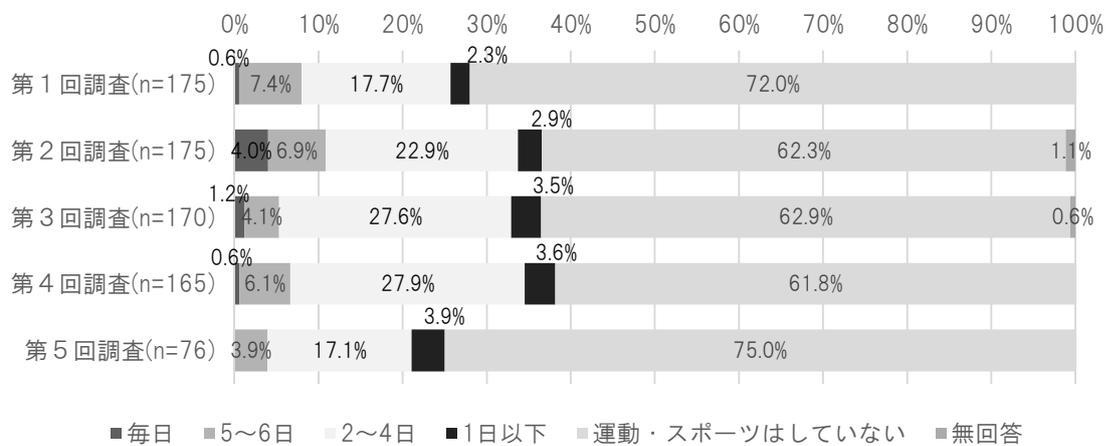
図表 2-6-3. 地域社会におけるボランティア等の活動への参加



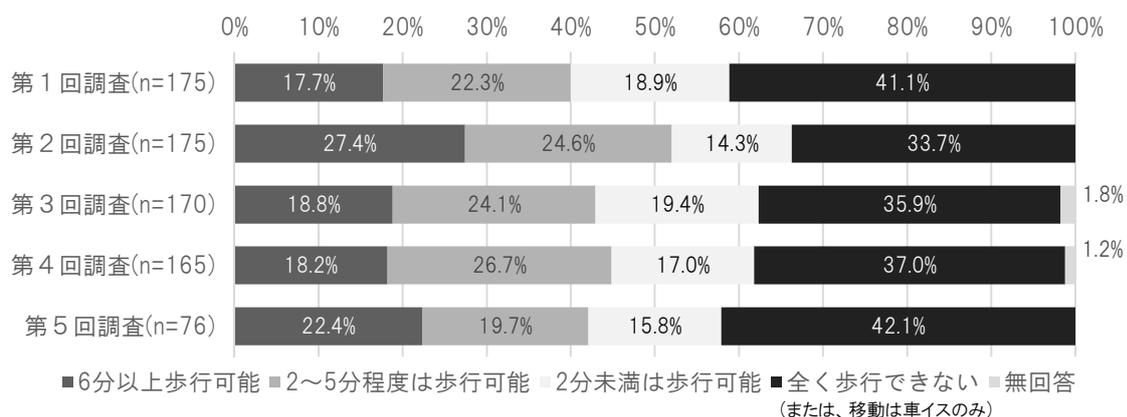
図表 2-6-4. 軽い運動、体操の頻度（一週間）



図表 2-6-5. 定期的な運動・スポーツの頻度（一週間）

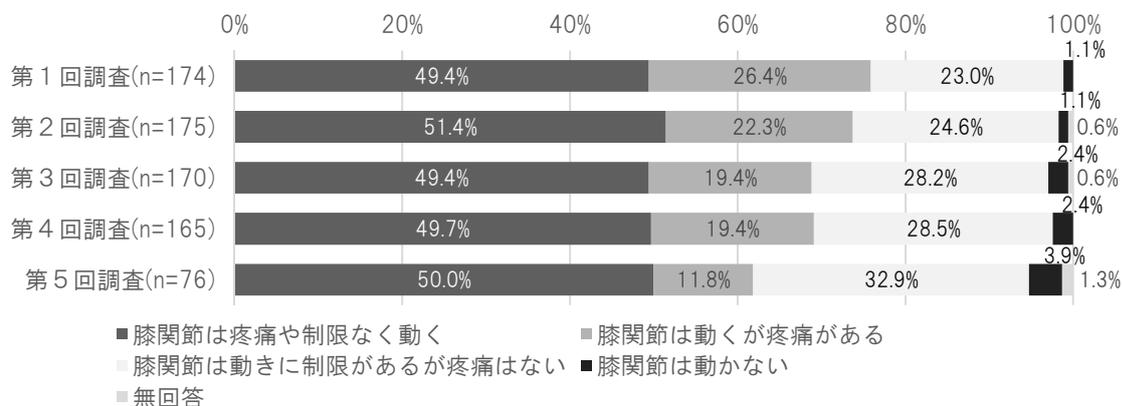


図表 2-6-6. 連続して歩行できる時間

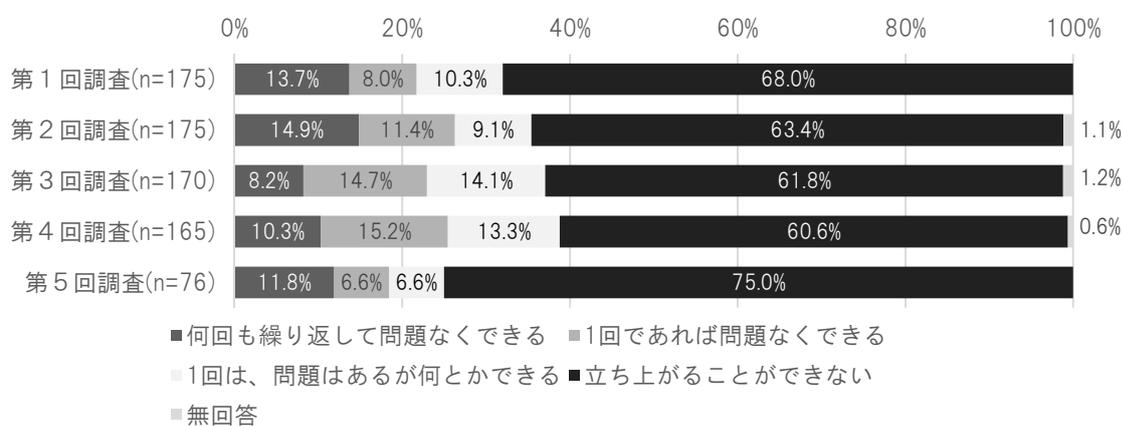


図表 2-6-7. 関節の可動性

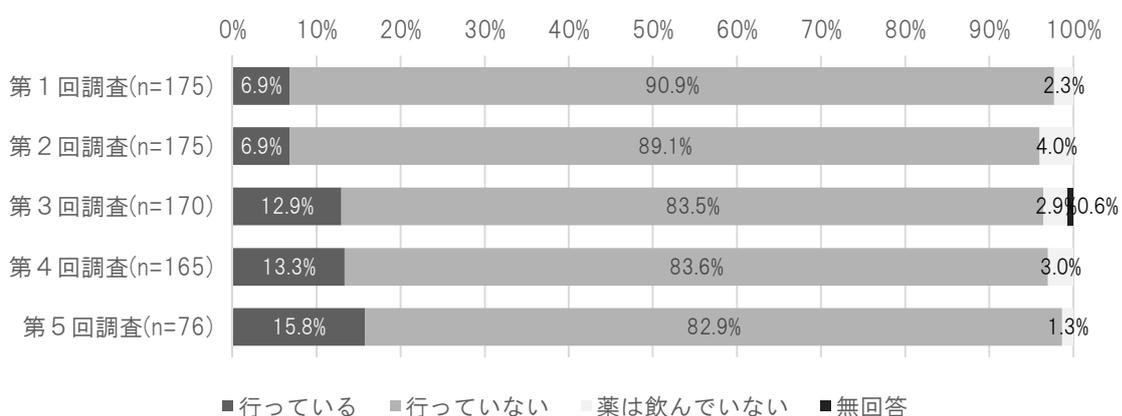
※下記“第1回調査”のn数に関しては、判読不明のデータが検出されたため他と相違している。



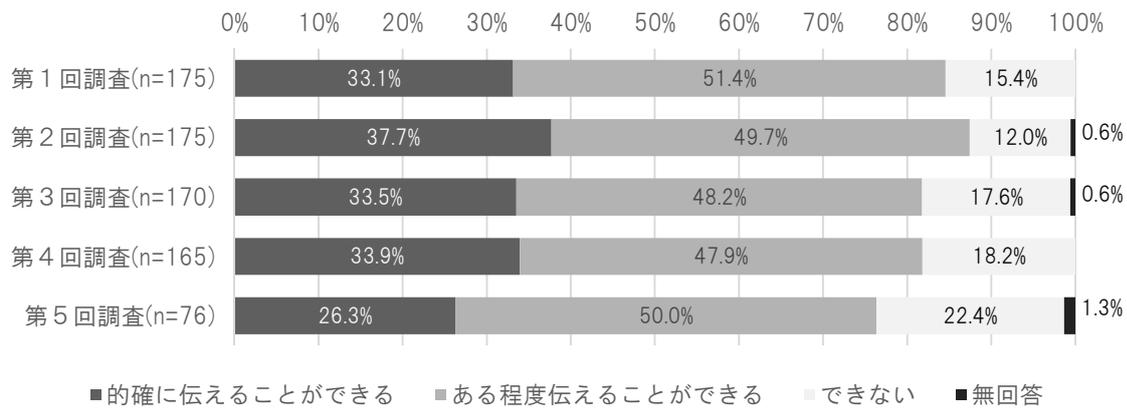
図表 2-6-8. 椅子から手を使わずに立ち上がれるか



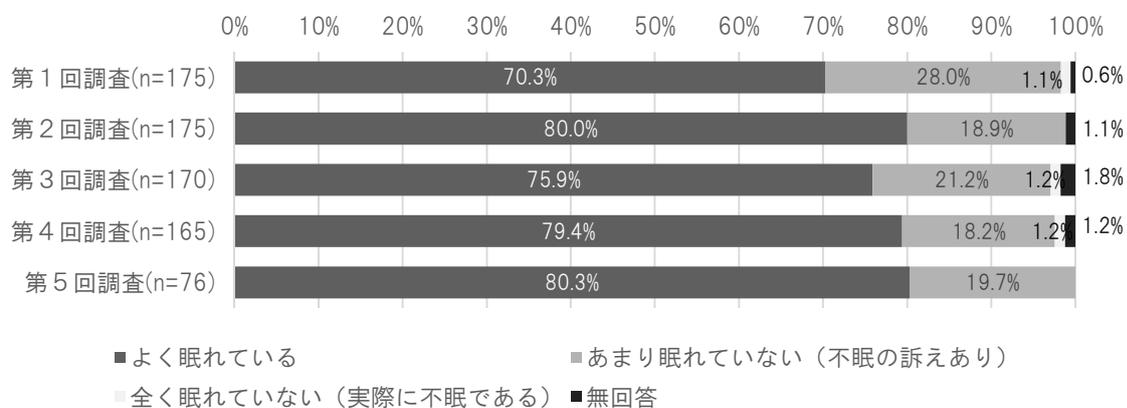
図表 2-6-9. 薬の自己管理を普段から行っているか



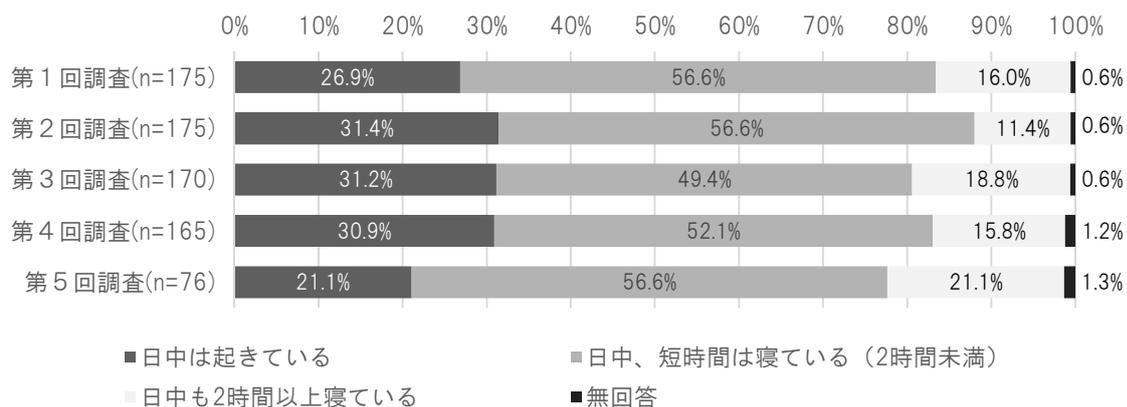
図表 2-6-10. 医師や看護師、介護士に自分の訴えを明確に伝えることができるか



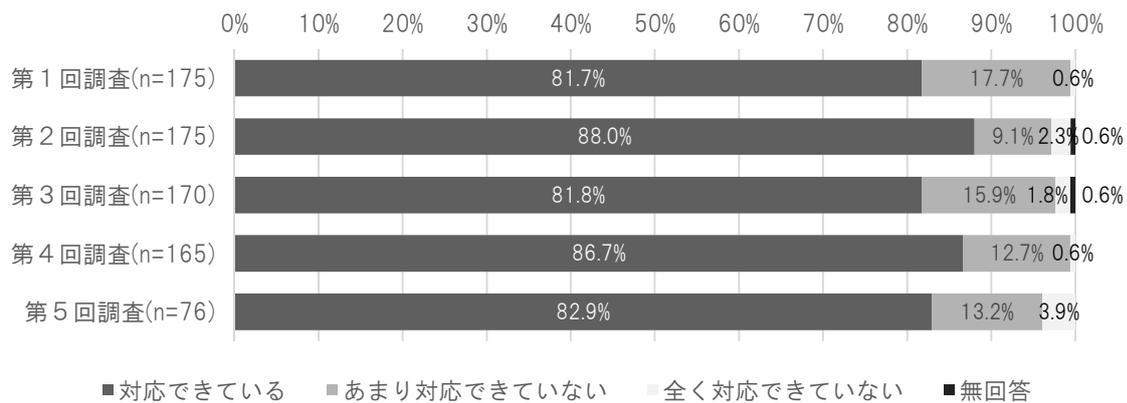
図表 2-6-11. 夜間はよく眠っているか



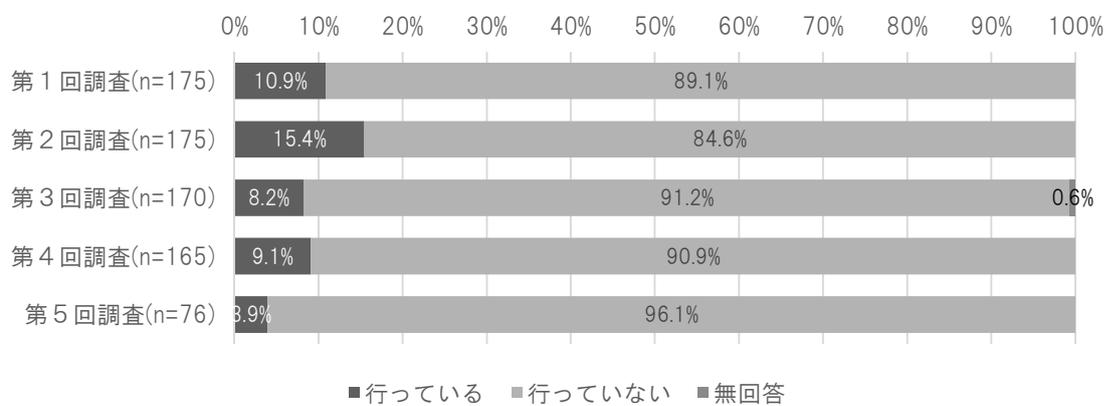
図表 2-6-12. 日中も寝ているか



図表 2-6-13. 施設入所や在宅復帰といった環境の変化に問題なく対応できたか



図表 2-6-14. 普段から他の利用者や近所の人に対しての手伝いをしているか



## 7. 日常関連動作（IADL）の要約指標の作成と、平均値の推移

日常関連動作については、各調査回において、図表 2-7-1 に示す 10 の各項目につき、自分で行っているかどうかを尋ねているが、これら全体を「IADL」として要約指標を作成し、調査回ごとの平均値の変化をみた。

図表 2-7-1. 日常関連動作（IADL）に関する調査項目

	調査項目		
食事機能	準備	片付け	
生活機能	買い物	掃除・洗濯	ゴミ出し
自己管理	お金	電話	郵便・書類
社会機能	交通手段	散歩	

なお、要約指標の作成にあたっては、「自分で行っている（できている）」を 2 点、「手伝っている（一部行っている）」を 1 点、「自分で行っていない（できていない）」を 0 点として、各 10 項目を合計 20 点満点で集計を行った。

(1) 日常関連動作 (IADL) (第1回～第4回)

日常関連動作 (IADL) に関し、要約指標の平均値についてみると、第1回以降、第2回、第3回と時間の経過とともに改善する傾向がみられた。

なお、平均値の調査回数間の比較については、どの調査間にも平均値の差は有意ではなかった。

図表 2-7-2. 要約指標 (日常関連動作) の記述統計量

	平均値	標準偏差	n
第1回 (入所時)	1.315	2.622	165
第2回 (退所時)	1.394	3.868	165
第3回 (退所後1週間以内)	1.521	2.896	165
第4回 (退所後1ヵ月)	1.630	3.190	165

図表 2-7-3. 要約指標 (日常関連動作) 平均値の調査回数間の比較

(I)	(J)	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 <sup>b</sup>	95% 平均差信頼区間 <sup>b</sup>	
					下限	上限
第1回 (入所時)	第2回(退所時)	-.079	.281	.779	-.633	.475
	第3回(退所後1週間以内)	-.206	.160	.200	-.522	.110
	第4回(退所後1ヵ月)	-.315	.178	.078	-.666	.036
第2回 (退所時)	第1回(入所時)	.079	.281	.779	-.475	.633
	第3回(退所後1週間以内)	-.127	.238	.593	-.597	.343
	第4回(退所後1ヵ月)	-.236	.256	.357	-.742	.269
第3回 (退所後1週間以内)	第1回(入所時)	.206	.160	.200	-.110	.522
	第2回(退所時)	.127	.238	.593	-.343	.597
	第4回(退所後1ヵ月)	-.109	.070	.123	-.248	.030
第4回 (退所後1ヵ月)	第1回(入所時)	.315	.178	.078	-.036	.666
	第2回(退所時)	.236	.256	.357	-.269	.742
	第3回(退所後1週間以内)	.109	.070	.123	-.030	.248

推定周辺平均に基づいた

b. 多重比較の調整: 最小有意差 (調整無しに等しい)

注: 調査回の時間軸にそって (例: (I)第1回、(J)第2回というように) 平均値の差をみた場合、平均値の差がマイナスの場合は「改善」、プラスの場合は「悪化」を示す。なお、各回の分析を相互に行った為 (例: 第1回から第2回、第2回から第1回)、本図表には時間軸を遡った (例: (I)第2回、(J)第1回というように) データも掲載している。

(2) 日常関連動作 (IADL) (第1回～第5回)

第5回までの比較については、退所後1ヵ月以内に実施された第4回調査までは改善傾向にあるが、第5回において悪化がみられた。

なお、(1)同様に、調査間の平均値の差に、有意差はなかった。

図表2-7-4. (日常関連動作)の記述統計量

	平均値	標準偏差	n
第1回(入所時)	1.581	3.327	74
第2回(退所時)	1.905	5.520	74
第3回(退所後1週間以内)	1.946	3.519	74
第4回(退所後1ヵ月)	2.149	4.006	74
第5回(退所後3ヵ月)	2.068	3.783	74

図表2-7-5. 要約指標(日常関連動作)平均値の調査回数間の比較

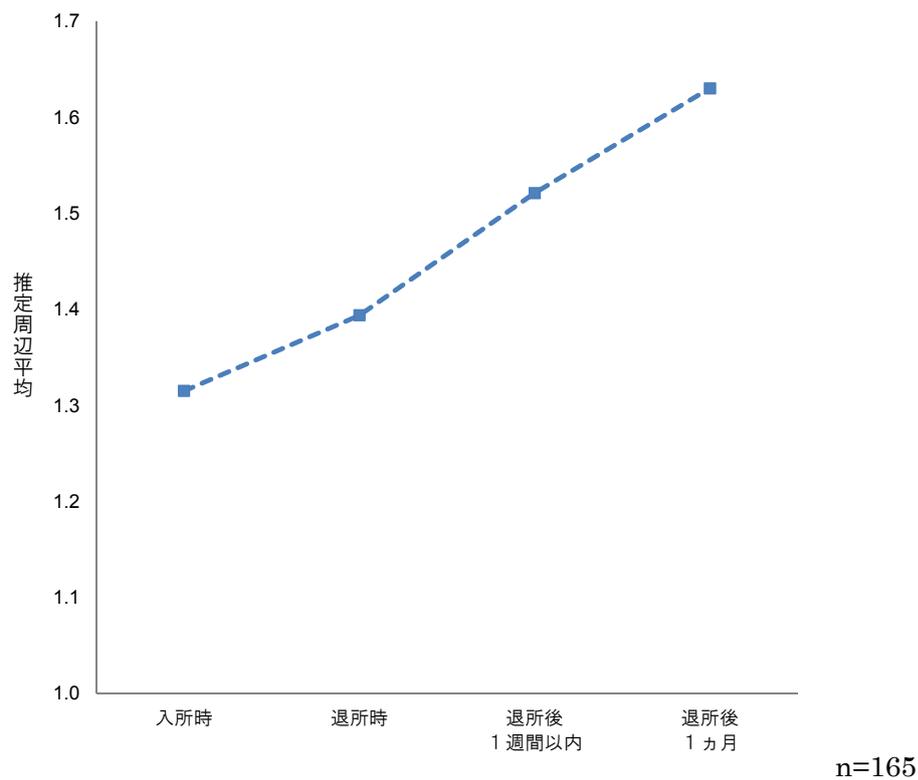
(I)	(J)	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 <sup>b</sup>	95% 平均差信頼区間 <sup>b</sup>	
					下限	上限
第1回 (入所時)	第2回(退所時)	-.324	.591	.585	-1.501	.853
	第3回(退所後1週間以内)	-.365	.281	.199	-.925	.196
	第4回(退所後1ヵ月)	-.568	.324	.084	-1.213	.078
	第5回(退所後3ヵ月)	-.486	.300	.109	-1.085	.112
第2回 (退所時)	第1回(入所時)	.324	.591	.585	-.853	1.501
	第3回(退所後1週間以内)	-.041	.451	.929	-.939	.858
	第4回(退所後1ヵ月)	-.243	.497	.626	-1.234	.748
	第5回(退所後3ヵ月)	-.162	.515	.754	-1.189	.865
第3回 (退所後1週間以内)	第1回(入所時)	.365	.281	.199	-.196	.925
	第2回(退所時)	.041	.451	.929	-.858	.939
	第4回(退所後1ヵ月)	-.203	.112	.075	-.426	.021
	第5回(退所後3ヵ月)	-.122	.144	.401	-.408	.165
第4回 (退所後1ヵ月)	第1回(入所時)	.568	.324	.084	-.078	1.213
	第2回(退所時)	.243	.497	.626	-.748	1.234
	第3回(退所後1週間以内)	.203	.112	.075	-.021	.426
	第5回(退所後3ヵ月)	.081	.158	.610	-.235	.397
第5回 (退所後3ヵ月)	第1回(入所時)	.486	.300	.109	-.112	1.085
	第2回(退所時)	.162	.515	.754	-.865	1.189
	第3回(退所後1週間以内)	.122	.144	.401	-.165	.408
	第4回(退所後1ヵ月)	-.081	.158	.610	-.397	.235

推定周辺平均に基づいた

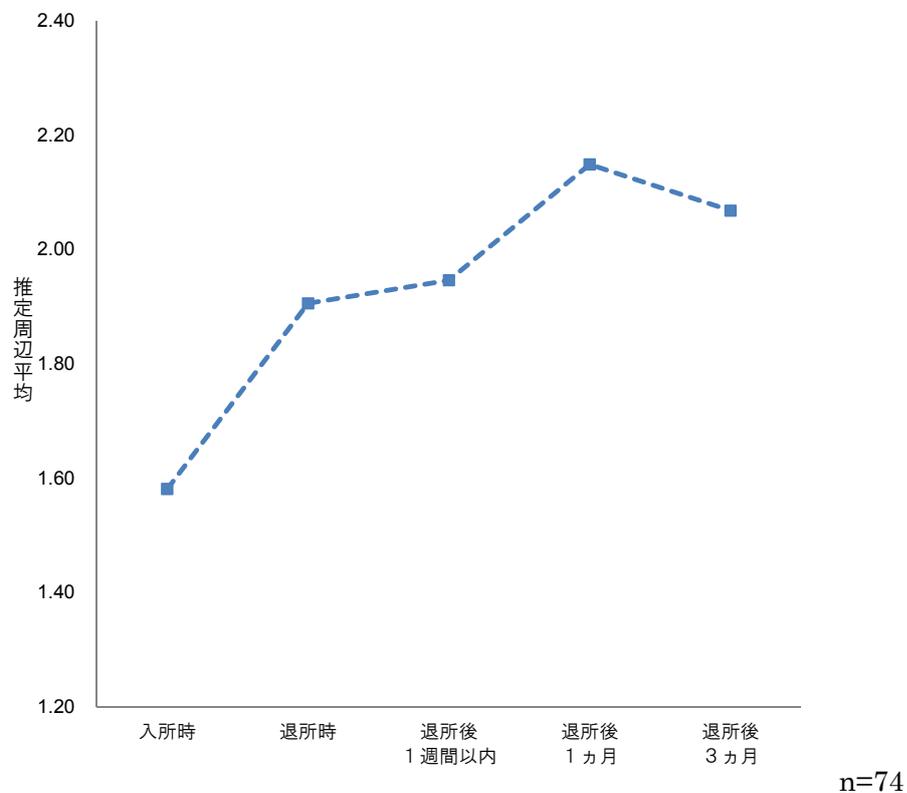
b. 多重比較の調整: 最小有意差(調整無しに等しい)

注: 調査回の時間軸にそって(例: (I)第1回、(J)第2回というように)平均値の差をみた場合、平均値の差がマイナスの場合は「改善」、プラスの場合は「悪化」を示す。なお、各回の分析を相互に行った為(例: 第1回から第2回、第2回から第1回)、本図表には時間軸を遡った(例: (I)第2回、(J)第1回というように)データも掲載している。

図表 2-7-6. 第1回調査から第4回調査にかけての要約指標「日常関連動作」の平均の推移



図表 2-7-7. 第1回調査から第5回調査にかけての要約指標「日常関連動作」の平均の推移



※両図とも、平均値の差が有意であるものを実線にて表している。

## 8. 意欲の指標についての要約指標の作成と、平均値の推移

各調査回において、「意欲の指標」として、「起床」「意思疎通」「食事」「排泄」「リハビリ、活動」の5項目を聞いているが、これらを要約指標として作成し、調査回ごとの平均値の変化を見た。

要約指標

$$\text{意欲の指標} = \text{起床} + \text{意思疎通} + \text{食事} + \text{排泄} + \text{リハビリ、活動}$$

なお、要約指標の作成にあたっては、意欲の指標として最も高いものを2点、中間を1点、最も低いものを0点として、各5項目を合計10点満点で集計を行った。

### (1) 意欲の指標（第1回～第4回）

要約指標「意欲の指標」の平均値についてみると、第1回調査と第2回調査、第2回調査と第3回調査、さらに第3回調査と第4回調査に有意差があり、入所中（第1回調査から第2回調査）に改善傾向がみられるものの、退所後一時的に大きく悪化し、また時間の経過とともに（第3回から第4回）少し改善している。

図表2-8-1. 要約指標（意欲の指標）の記述統計量

	平均値	標準偏差	n
第1回（入所時）	7.473	2.352	165
第2回（退所時）	7.909	2.216	165
第3回（退所後1週間以内）	7.430	2.320	165
第4回（退所後1ヵ月）	7.552	2.288	165

図表2-8-2. 要約指標（意欲の指標）平均値の調査回数間の比較

(I)	(J)	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 <sup>b</sup>	95% 平均差信頼区間 <sup>b</sup>	
					下限	上限
第1回 (入所時)	第2回(退所時)	-.436(*)	.095	.000	-.624	-.249
	第3回(退所後1週間以内)	.042	.138	.759	-.230	.315
	第4回(退所後1ヵ月)	-.079	.118	.504	-.311	.153
第2回 (退所時)	第1回(入所時)	.436(*)	.095	.000	.249	.624
	第3回(退所後1週間以内)	.479(*)	.134	.000	.213	.744
	第4回(退所後1ヵ月)	.358(*)	.116	.002	.128	.587
第3回 (退所後1週間以内)	第1回(入所時)	-.042	.138	.759	-.315	.230
	第2回(退所時)	-.479(*)	.134	.000	-.744	-.213
	第4回(退所後1ヵ月)	-.121	.088	.172	-.296	.053
第4回 (退所後1ヵ月)	第1回(入所時)	.079	.118	.504	-.153	.311
	第2回(退所時)	-.358(*)	.116	.002	-.587	-.128
	第3回(退所後1週間以内)	.121	.088	.172	-.053	.296

推定周辺平均に基づいた

\*. 平均の差は .05 \*水準で有意である。

b. 多重比較の調整: 最小有意差（調整無しに等しい）

注：調査回の時間軸にそって（例：(I)第1回、(J)第2回というように）平均値の差をみた場合、平均値の差がマイナスの場合は「改善」、プラスの場合は「悪化」を示す。なお、各回の分析を相互に行った為（例：第1回から第2回、第2回から第1回）、本図表には時間軸を遡った（例：(I)第2回、(J)第1回というように）データも掲載している。

(2) 意欲の指標 (第1回～第5回)

第5回までの比較についても、基本的には(1)で示した第1回～第4回の結果と大きな変化はないが、第4回から第5回にかけて再び悪化に転じていることがみてとれる。

図表2-8-3. (意欲の指標)の記述統計量

	平均値	標準偏差	n
第1回(入所時)	7.311	2.438	74
第2回(退所時)	7.811	2.206	74
第3回(退所後1週間以内)	7.284	2.279	74
第4回(退所後1ヵ月)	7.378	2.213	74
第5回(退所後3ヵ月)	6.946	2.145	74

図表2-8-4. 要約指標(意欲の指標)平均値の調査回数間の比較

(I)	(J)	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率 <sup>b</sup>	95% 平均差信頼区間 <sup>b</sup>	
					下限	上限
第1回 (入所時)	第2回(退所時)	-.500(*)	.152	.002	-.803	-.197
	第3回(退所後1週間以内)	.027	.253	.915	-.477	.531
	第4回(退所後1ヵ月)	-.068	.194	.728	-.454	.318
	第5回(退所後3ヵ月)	.365(*)	.182	.049	.002	.728
第2回 (退所時)	第1回(入所時)	.500(*)	.152	.002	.197	.803
	第3回(退所後1週間以内)	.527(*)	.236	.028	.057	.997
	第4回(退所後1ヵ月)	.432(*)	.184	.021	.066	.798
	第5回(退所後3ヵ月)	.865(*)	.177	.000	.513	1.217
第3回 (退所後1週間以内)	第1回(入所時)	-.027	.253	.915	-.531	.477
	第2回(退所時)	-.527(*)	.236	.028	-.997	-.057
	第4回(退所後1ヵ月)	-.095	.177	.594	-.446	.257
	第5回(退所後3ヵ月)	.338	.235	.155	-.131	.806
第4回 (退所後1ヵ月)	第1回(入所時)	.068	.194	.728	-.318	.454
	第2回(退所時)	-.432(*)	.184	.021	-.798	-.066
	第3回(退所後1週間以内)	.095	.177	.594	-.257	.446
	第5回(退所後3ヵ月)	.432(*)	.164	.010	.105	.760
第5回 (退所後3ヵ月)	第1回(入所時)	-.365(*)	.182	.049	-.728	-.002
	第2回(退所時)	-.865(*)	.177	.000	-1.217	-.513
	第3回(退所後1週間以内)	-.338	.235	.155	-.806	.131
	第4回(退所後1ヵ月)	-.432(*)	.164	.010	-.760	-.105

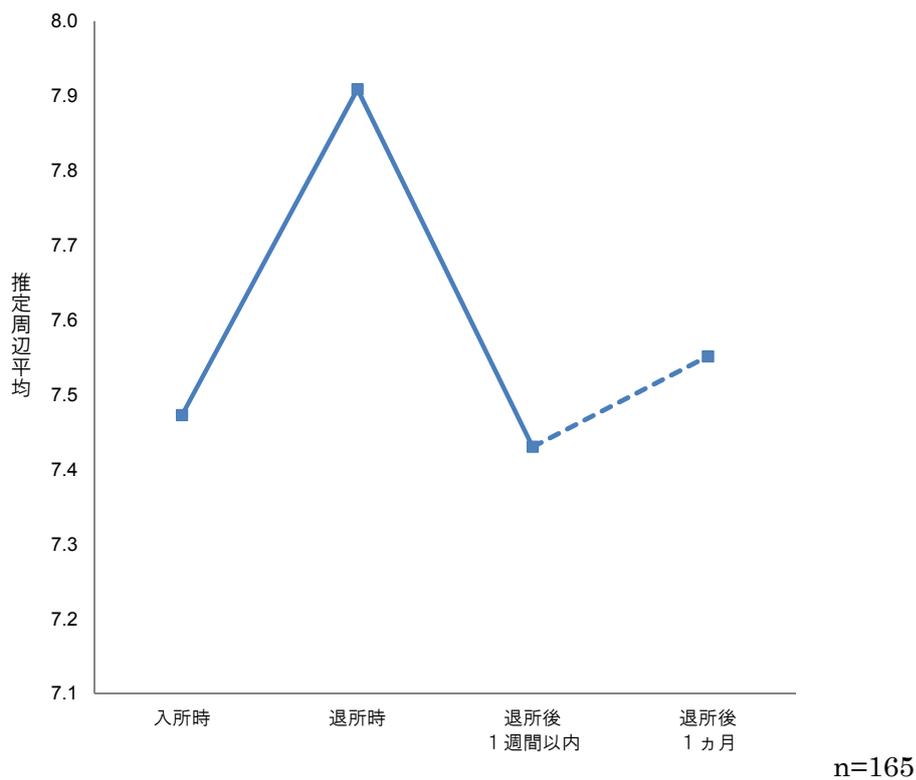
推定周辺平均に基づいた

\*. 平均の差は .05 水準で有意である。

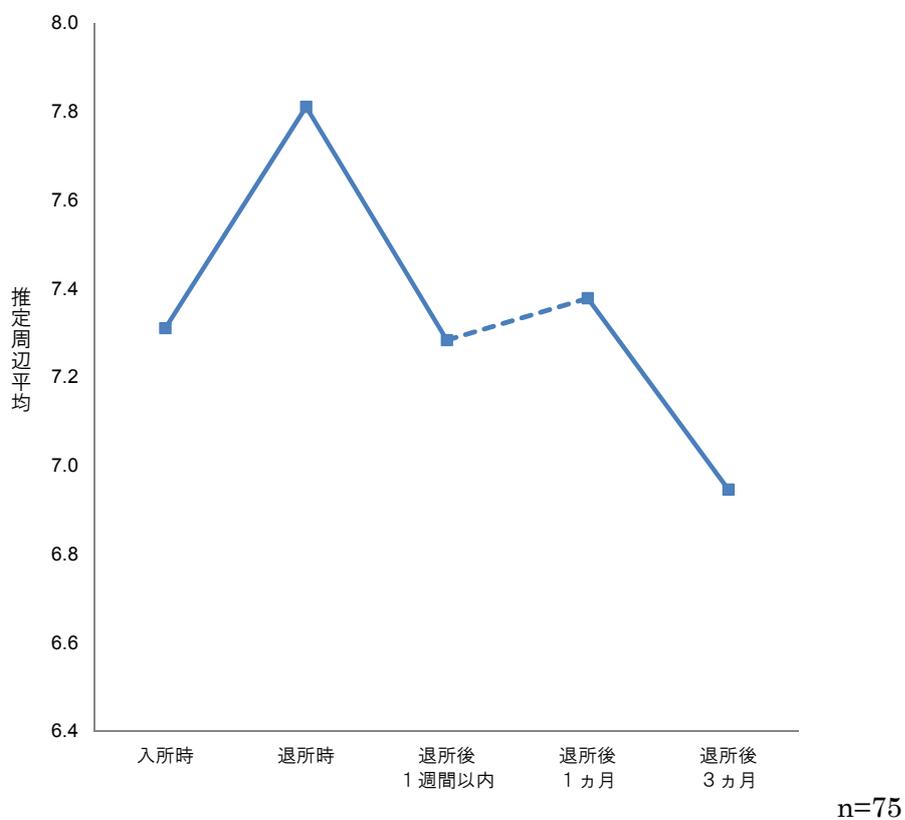
b. 多重比較の調整: 最小有意差 (調整無しに等しい)

注: 調査回の時間軸にそって(例: (I)第1回、(J)第2回というように)平均値の差をみた場合、平均値の差がマイナスの場合は「改善」、プラスの場合は「悪化」を示す。なお、各回の分析を相互に行った為(例: 第1回から第2回、第2回から第1回)、本図表には時間軸を遡った(例: (I)第2回、(J)第1回というように)データも掲載している。

図表 2-8-5. 第1回調査から第4回調査にかけての要約指標「意欲の指標」の平均の推移



図表 2-8-6. 第1回調査から第5回調査にかけての要約指標「意欲の指標」の平均の推移



※両図とも、平均値の差が有意であるものを実線にて表している。

## 9. 改善及び悪化に関する環境要因の影響

老健施設退所後の在宅生活における機能の改善及び悪化に、環境要因として考えられる様々な状況がどの程度影響しているのかを考察する。

具体的には、ICFの要約指標である「移動及びADL」と「認知機能」につき、以下に挙げる環境要因として影響を及ぼしうると想定される各項目を説明変数としてロジスティック回帰分析を行った。なお各説明変数は、ステップワイズ法（変数増加法ステップワイズ（尤度比））により投入を行った。

図表2-9-1. 説明変数として投入した項目

カテゴリ	項目名	備考
本人属性	性別、年齢、世帯構成	
主患名	認知症、関節疾患	認知症については、ICDコード分類の「17 アルツハイマー型認知症」から「23 まだ診断のついていない認知症」までに一つでも該当した場合「0」、それ以外を「1」としてカテゴリ化 また関節疾患については、同「39 脊柱管狭窄症」から「51 関節リウマチ以外の全身性結合組織障害」までに一つでも該当した場合「1」、それ以外を「0」としてカテゴリ化
疼痛	慢性的な痛みの有無	「痛みあり」を「1」、「痛みなし」を「0」としてカテゴリ化
IADL	食事機能から社会機能の各項目（11項目）	「行っている」及び「手伝っている」を「1」、「行っていない」を「0」としてカテゴリ化
実施したりハビリ	老健施設において実施したりハビリテーションの各項目（32項目）	「実施した」を「1」、「実施していない」を「0」としてカテゴリ化

### （1）「移動及びADL」の改善・悪化に影響を及ぼす環境要因

第2回調査（退所時）から第4回調査（退所後1ヵ月）の間に、要約指標「移動及びADL」が「改善」または「維持」した群と、「悪化」した群の2つに分け、ロジスティック回帰分析を行ったところ、「維持・改善」に影響を及ぼすと考えられる要因（有意確率が0.05以下の変数）は2つであり、日常関連動作（IADL）の「(10)社会機能 交通手段」と、実施したりハビリテーションの「3.耐久力向上練習」であり、いずれもB（係数）がマイナスとなっていることから、「交通手段を使って外出している」と、「耐久力向上練習」は、オッズ比はいずれも小さいものの、「維持・改善」にマイナスの影響を与えていると考えることができる。

図表 2-9-2. 方程式中の変数

		B	標準誤差	Wald	自由度	有意確率	Exp(B)
ステップ 1(a)	耐久力向上練習を実施した	-1.064	0.45	5.6	1	0.018	0.345
	定数	2.009	0.321	39.139	1	0	7.455
ステップ 2(b)	交通手段を使って外出している	-1.124	0.58	3.755	1	0.053	0.325
	耐久力向上練習を実施した	-1.17	0.464	6.347	1	0.012	0.31
	定数	2.246	0.363	38.358	1	0	9.45
ステップ 3(c)	交通手段を使って外出している	-1.195	0.6	3.968	1	0.046	0.303
	耐久力向上練習を実施した	-1.427	0.479	8.876	1	0.003	0.24
	運動協調性練習を実施した	7.389	18.462	0.16	1	0.689	1618.66
	定数	2.245	0.37	36.907	1	0	9.445

a ステップ 1: 投入された変数 @2\_Q3\_3

b ステップ 2: 投入された変数 @2\_Q4\_10

c ステップ 3: 投入された変数 @2\_Q3\_5

(2) 「認知機能」の改善・悪化に影響を及ぼす環境要因

また、同様に、第2回調査（退所時）から第4回調査（退所後1ヵ月）の間に、要約指標「認知機能」が「改善」または「維持」した群と、「悪化」した群の2つに分け、ロジスティック回帰分析を行ったところ、「維持・改善」に影響を及ぼすと考えられる要因（有意確率が0.05以下の変数）はなく、明確な因子は同定できなかった。

図表 2-9-3. 方程式中の変数

		B	標準誤差	Wald	自由度	有意確率	Exp(B)
ステップ 1(a)	移動（歩行以外）練習を実施した	8.024	22.858	0.123	1	0.726	3053.61
	定数	1.179	0.202	33.995	1	0	3.25

a ステップ 1: 投入された変数 @2\_Q3\_3

## 付録 摂食嚥下栄養ケアマネジメント書式（案）の作成

本研究事業の作業部会において、摂食嚥下栄養に関するケアマネジメント書式（案）を作成した。施設における摂食・嚥下・栄養のそれぞれが独自の形でのマネジメントが行われていたため、記入項目や設問についてできる限りの集約を行うことで、実情に即した利用者の状態像の把握を、多職種での実施が可能になるよう心掛けた。さらに平成 27 年度介護報酬改定において「口腔・栄養管理に係る取組みの充実」にも着目していることにも考慮しながら作成した書式となっている。各種書式については以下の要約のとおりである。

### インテーク・シート（案）及び摂食嚥下栄養ケアマネジメント評価票（案）について

インテーク・シート（案）では、まず本人の状態像を「ほぼ健常」「低栄養」「胃瘻」と大きく 3 つに判別することで、状態像を分かりやすく把握し、今後のプロセスの認識へとつなげている。状態像を理解しやすくする為の図を交えた、ICF ステージングでの評価項目も網羅している。

摂食嚥下栄養ケアマネジメント評価票（案）では、身長・体重を基準とする低栄養状態のリスクに関する項目、食生活や口腔・身体状況の項目に加え、認知症についての項目を設けた。多職種によるミールラウンド評価、専門職からみた口腔機能や嚥下機能の評価、経口摂取の状況について F O I S の指標を参考としたレベルアセスメントも含まれている。なお、一定の指標を用いての共通の評価につなげるために、「新しい介護食品（スマイルケア食）の選び方」（農林水産省ホームページ URL:<http://www.maff.go.jp/> に掲載）を参考とした食事形態の選択項目を設けている。

### 食事に関する計画書（様式例）（案）について

この書式では、必要エネルギー、提供栄養量、食事内容、食事形態等々の基礎的な項目だけでなく、アレルギーや誤飲・誤嚥等についての記述項目を入れ、リスクマネジメントについて留意できる構成としている。また「栄養ケアの具体的な内容」の項目では、多職種評価の実施内容を記入できるように評価職種の項目を設けた。さらに、「専門職の評価と対応」の項目では、医師・歯科医師・歯科衛生士・言語聴覚士の専門家としての意見が記入できるような書式としている。

本研究事業の開始時は、摂食嚥下栄養ケアマネジメント書式について作業部会で検討を重ねている段階であり、また調査項目の増加による施設の負担の観点からも摂食嚥下栄養ケアマネジメント書式の内容を調査票に記載することは行わなかった。

以降に、摂食嚥下栄養ケアマネジメント書式の最終案と素案を掲載する。最終案は、作業部会で検討した結果に、平成 27 年 3 月 3 日「平成 27 年度介護報酬改定関係資料（全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議資料）【別冊】」で示された経口維持計画（様式例）案を反映させた書式である。また素案については、作業部会での検討を進めていく上でたたき台として作成した書式であり、参考として掲載するものである。

今回作成した書式を参考とし、今後施設内における摂食嚥下栄養に関するケアマネジメントがスムーズかつ有効に行われ、利用者の口腔及び栄養機能のさらなる改善につながることを願っている。



### [質問] 食事動作および食事介助の様子について

食べるときに、どの程度の動作をご自分で行っているか、あるいは、食べる動作を行っている際にどれほどの介助が行われているかどうかを観察し判断して、該当する「ステージ」の数字に○印をつけてください。

		ステージ	状態	状態のイメージ
		5	箸やフォークを使って食べこぼしせず、上手に食べることを行っている。	
食べること	提供された食べ物を、箸やフォーク等を使って、食べこぼしなく上手に食べること。	行っている	↑	
		行っていない	↓	
		4	箸やフォークを使って上手に食べることは行っていないが、食べこぼししながらも、何とか自分で食べることを行っている。	
食べこぼし	提供された食べ物を、“食べこぼしはあるが”、何とか自分で食べること。	行っている	↑	
		行っていない	↓	
		3	自分で食べることを行っていないが、食事の際に特別なセッティングをすれば自分で食べることを行っている。	
食事の際の特別なセッティング	姿勢や食べ物の位置の調整、摂食関連補助具の準備をされて、自分で食べること。	行っている	↑	
		行っていない	↓	
		2	食事の際に特別なセッティングをしても自分で食べることを行っていないが、直接的な介助があれば食べることを行っている。	
食事の直接介助	食事の際に直接的な介助（食べさせる）で食べること。（食事途中からの介助を含む）。	行っている	↑	
		行っていない	↓	
		1	直接的な介助をしても食べることを行っていない。（食べることを行っていない）。	

※「状態判定」は基本的に上から下に難易度ステージ(高→低)を設定しています。

摂食嚥下栄養ケアマネジメント評価票（案）

最終案

ふりがな		<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	<input type="checkbox"/> 明 <input type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> 昭	年	月	日	生まれ	歳
氏名	要介護度・病名・ 特記事項等		記入者名：			作成年月日： 年 月 日		
	身体状況、栄養・食事に関する意向		家族構成と キーパーソン（支援者）			本人		

本人の状態について、  
右の欄に○印を付けてください。

【 ほぼ健常 ・ 低栄養 ・ 胃瘦 】

実施日	年 月 日 (記入者名) (職種)	年 月 日 (記入者名) (職種)	年 月 日 (記入者名) (職種)	年 月 日 (記入者名) (職種)	
実施項目にチェックを入れて下さい。	<input type="checkbox"/> スクリーニング <input type="checkbox"/> アセスメント <input type="checkbox"/> モニタリング				
低栄養状態のリスクレベル	<input type="checkbox"/> 低 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 低 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 低 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 低 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高	
食事介助量	<input type="checkbox"/> 介助なし <input type="checkbox"/> 介助要（内容）				
食事時間	(分)	(分)	(分)	(分)	
低栄養状態のリスク(状況)	身長 (cm)	(cm)	(cm)	(cm)	
	体重 (kg)	(kg)	(kg)	(kg)	
	BMI (kg/m <sup>2</sup> )	(kg/m <sup>2</sup> )	(kg/m <sup>2</sup> )	(kg/m <sup>2</sup> )	
	3%以上の体重減少	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( kg/ ヶ月)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( kg/ ヶ月)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( kg/ ヶ月)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( kg/ ヶ月)
	血清アルブミン値 (g/dl)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( g/dl)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( g/dl)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( g/dl)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( g/dl)
褥瘡(有無・場所・大きさ・写真を添付)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 褥瘡の大きさ ( )	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 褥瘡の大きさ ( )	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 褥瘡の大きさ ( )	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 褥瘡の大きさ ( )	
食生活状況等	栄養補給の状況 食事摂取量 ・主食の摂取量 ・主菜、副菜の摂取量 ・その他(補助食品など)	主食 % 主菜 % 副菜 % ( )	主食 % 主菜 % 副菜 % ( )	主食 % 主菜 % 副菜 % ( )	主食 % 主菜 % 副菜 % ( )
	必要栄養量 (エネルギー・たんぱく質など)	kcal g	kcal g	kcal g	kcal g
	食事の留意事項の有無 (療養食の指示、食事形態、嗜好、禁忌、アレルギーなど)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )
	食事時の摂食・嚥下状況 (姿勢、食べ方等) ※1	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]
食事に対する満足度	・ほぼ満足 ・満足していない (理由)	・ほぼ満足 ・満足していない (理由)	・ほぼ満足 ・満足していない (理由)	・ほぼ満足 ・満足していない (理由)	
口腔・身体状況	下腿周囲長 (CC) (cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)
	□の中の状態 (不具合・衛生状態)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有
	過去3ヶ月間で精神的ストレスや急性疾患を経験しましたか？	<input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> はい
	以下の2項目は、※2よりアルファベットを選択して下さい。				
①自力で歩けますか？	( )	( )	( )	( )	
②過去3ヶ月間で食欲不振、消化器系の問題、そして、嚥下困難などで食事が減少しましたか？	( )	( )	( )	( )	
認知症関連の徴候・症状について問題がありましたか？ (問題の有無)					
認知症関連の徴候・症状について問題がありましたか？	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有				
「有」の場合、具体的な状況 (異食、食べ物と認識しない、人のものを食べる、食べ物を散らかす、食事又はその介助を拒否するなど)					
神経・精神的問題の有無について ※2の③よりアルファベットを選択して下さい。	( )	( )	( )	( )	

ミールラウンド評価				
実施日	年 月 日 (記入者名)	年 月 日 (記入者名)	年 月 日 (記入者名)	年 月 日 (記入者名)
参加職種にチェックを入れて下さい。	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 相談員 <input type="checkbox"/> (管理) 栄養士 <input type="checkbox"/> リハ職 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> ケアマネジャー <input type="checkbox"/> 看護職 <input type="checkbox"/> 介護職 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 相談員 <input type="checkbox"/> (管理) 栄養士 <input type="checkbox"/> リハ職 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> ケアマネジャー <input type="checkbox"/> 看護職 <input type="checkbox"/> 介護職 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 相談員 <input type="checkbox"/> (管理) 栄養士 <input type="checkbox"/> リハ職 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> ケアマネジャー <input type="checkbox"/> 看護職 <input type="checkbox"/> 介護職 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 相談員 <input type="checkbox"/> (管理) 栄養士 <input type="checkbox"/> リハ職 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> ケアマネジャー <input type="checkbox"/> 看護職 <input type="checkbox"/> 介護職 <input type="checkbox"/> その他
①噛むことが困難である	<input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある			
②硬い食べ物を避け、軟らかい食べ物ばかり食べる	<input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある			
③口から食べ物や唾液がこぼれる	<input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある			
④ことが明瞭でない	<input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある			
⑤食べ物をいつまでも飲み込まずに噛んでいる	<input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある			
⑥一口あたり何度も嚥下する	<input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある			
⑦食事中や食後に濁った声に変わる	<input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある			
⑧食べるのが遅くなる	<input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある			
⑨水分や食べ物が口に入るとたんにむせたり、せきこんだりする	<input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある			
⑩義歯の調子について	<input type="checkbox"/> 義歯は使用していない <input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 義歯は使用していない <input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 義歯は使用していない <input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 義歯は使用していない <input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 悪い
⑪口腔の不具合について	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )			
⑫歯科治療の必要性	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑬特記事項(むせのある食事形態など注意点)				
<b>食事中の兆候・症状を観察して、該当した問題がありましたか？</b>				
①円背又は座位保持困難 (例、まっすぐ座ることができない、横・前・後ろにたおれる)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
②クッションなどの支えがあっても座位保持困難	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
③いすやテーブルの高さが合っていない	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
④食べるときに下顎が出る	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
<b>食事中の認知機能低下(高次脳機能障害)の徴候・症状について問題がありましたか？(問題の有無)</b>				
①傾眠(食事中寝てしまう)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
②食事の失認(口腔内の残留)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
③拒食	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
④偏食	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑤失行 (指示で咀嚼しない・飲み込まないなど)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑥切迫摂取 (次々と食事を口に運ぶなど)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑦その他	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			

低栄養（食事が少ない）を選択された方については以下にご記入下さい。

経口摂取の状況について ※4 表（FOIS）より レベルを選択ください		5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
食生活状況等	食事摂取量	・全量 ・残しがち ・ほぼ残す	・全量 ・残しがち ・ほぼ残す	・全量 ・残しがち ・ほぼ残す	・全量 ・残しがち ・ほぼ残す
	食事介助量				
	合計提供カロリー数	kcal	kcal	kcal	kcal
	栄養・食形態について				
	食事の留意事項の有無 （嗜好、アレルギー、 その他禁忌など）	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有  ( )			
	食事への意識について				
目標、目標期間（低栄養関連課題） 多職種による栄養ケアの課題や	多職種での意見が 反映するようにご 記入願います。 また、※5 に留意 しながらご記入く ださい。				
特記事項					

「経口維持加算（Ⅱ）の算定に必要な項目」

※「人員配置基準以外の医師」「歯科医師」「歯科衛生士」「言語聴覚士」のいずれかの職種の方が記入して下さい。

口腔ケアおよびミールラウンド時に観察して記入して下さい。					
実施した摂食・嚥下機能検査 にチェックを入れて下さい。	<input type="checkbox"/> 嚥下内視鏡検査 <input type="checkbox"/> 嚥下造影検査 <input type="checkbox"/> 咀嚼能力・機能の検査 <input type="checkbox"/> 認知機能に課題あり 検査不可 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 嚥下内視鏡検査 <input type="checkbox"/> 嚥下造影検査 <input type="checkbox"/> 咀嚼能力・機能の検査 <input type="checkbox"/> 認知機能に課題あり 検査不可 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 嚥下内視鏡検査 <input type="checkbox"/> 嚥下造影検査 <input type="checkbox"/> 咀嚼能力・機能の検査 <input type="checkbox"/> 認知機能に課題あり 検査不可 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 嚥下内視鏡検査 <input type="checkbox"/> 嚥下造影検査 <input type="checkbox"/> 咀嚼能力・機能の検査 <input type="checkbox"/> 認知機能に課題あり 検査不可 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 嚥下内視鏡検査 <input type="checkbox"/> 嚥下造影検査 <input type="checkbox"/> 咀嚼能力・機能の検査 <input type="checkbox"/> 認知機能に課題あり 検査不可 <input type="checkbox"/> その他
参加職種にチェックを入れて 下さい。	<input type="checkbox"/> 人員配置基準以外の 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 言語聴覚士	<input type="checkbox"/> 人員配置基準以外の 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 言語聴覚士	<input type="checkbox"/> 人員配置基準以外の 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 言語聴覚士	<input type="checkbox"/> 人員配置基準以外の 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 言語聴覚士	<input type="checkbox"/> 人員配置基準以外の 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 言語聴覚士
①口腔乾燥	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有				
②開口	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可				
③うがい	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可				
④口臭	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有				
⑤口腔衛生状態	<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 悪い				
⑥水飲みテストでの「むせ」 「有」の場合は右記に回答	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 1回でむせる <input type="checkbox"/> 2回以上でむせる	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 1回でむせる <input type="checkbox"/> 2回以上でむせる	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 1回でむせる <input type="checkbox"/> 2回以上でむせる	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 1回でむせる <input type="checkbox"/> 2回以上でむせる	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 1回でむせる <input type="checkbox"/> 2回以上でむせる
⑦頸部聴診実施の有無 「有」の場合、誤嚥徴候の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有
⑧暫定食事形態・とろみにつ いて※3の表より分類を選 択してください					
⑨解決すべき課題や目標、 目標期間					
⑩経口による 継続的な食 事の摂取の ための対応	経口維持加 算(Ⅰ)				
	経口維持加 算(Ⅱ)	(評価者氏名・職種)	(評価者氏名・職種)	(評価者氏名・職種)	(評価者氏名・職種)

「経口維持加算」について

経口維持加算は、経口摂取をしている方々の中で誤嚥等のリスクのある方々を対象に、栄養評価や食事観察(ミールラウンド)時の評価に加え、口腔衛生状況や口腔機能、嚥下機能評価(水飲みテスト、反復唾液嚥下テスト、頸部聴診のスクリーニング等)を行い、その評価をもとに継続的に安全な経口摂取を維持する目的で立案される経口維持管理計画である。

※1 1、安定した正しい姿勢が自分でとれない 2、食事に集中することができない 3、食事中に傾眠や意識混濁がある 4、歯(義歯)のない状態で食事をしている 5、食べ物を口腔内に溜め込む 6、固形の食べ物を咀嚼中にむせる 7、食後、頬の内側や口腔内に残渣がある 8、水分でむせる 9、食事中、食後に咳をすることがある 10、その他から[ ]へ該当数字を記入し(あてはまるものすべて)、必要な事項があれば記載して下さい。

- ※2 ① A 寝たきりまたは車椅子を常時使用  
 B ベッドや車椅子を離れられるが、歩いて外出はできない  
 C 自由に歩いて外出できる
- ② A 著しい食事量の減少  
 B 中等度の食事量の減少  
 C 食事量の減少なし
- ③ A 強度認知症またはうつ状態  
 B 中程度の認知症  
 C 精神的問題なし

※3

分類	学会分類 2013	規格				食べる力の目安		形態等	エネルギー・ 栄養素
		硬さ (N/m <sup>2</sup> )	付着性 (J/m <sup>3</sup> )	凝集性	噛む力	飲み込む力			
青D (介護予防のための食品)	-	-	-	-	☺ (問題なし)	☺ (問題なし)	管理栄養士等への相談の結果を受けて、個別に対応。	エネルギーやたんぱく質の1日の推奨量(栄養素等表示基準値エネルギー2,100kcal、たんぱく質75g)に対して、当該食品がどれくらい含まれているのかを表示することが望ましい(食事摂取基準(2015年版)でも、特に高齢者の適切なたんぱく質摂取の重要性を指摘)。表示の際には、棒グラフで1日の推奨量の何%に当たるのかを示すとわかりやすい。また、通常の商品よりたんぱく質の含有量が多いこと等を強調表示する際には、食品表示のルールに従う必要がある。	
黄A (弱い力で噛める食品)	嚥下調整食4	-	-	-	☺ (やや弱い)	☺ (やや弱い)	かたさ・ばらけやすさ・貼りつきやすさなどのないものであって、弱い力で噛める程度のものである。		
黄B (歯ぐきでつぶせる食品)	嚥下調整食4	-	-	-	☹ (弱い)	☺ (やや弱い)	かたさ・ばらけやすさ・貼りつきやすさなどのないものであって、歯ぐきでつぶせる程度のやわらかさのものである。		
黄C (舌でつぶせる食品)	嚥下調整食3	-	-	-	☹☹ (とても弱い)	☹ (弱い)	形はあるが押しつぶしが容易、舌と口蓋間で押しつぶしが可能なもの。離水に配慮した粥など。		
赤A (ペースト状の食品)	嚥下調整食2	3×10 <sup>2</sup> ~ 2×10 <sup>4</sup>	1.5×10 <sup>3</sup> 以下	-	☹☹ (とても弱い)	☹☹ (とても弱い)	スプーンですくって食べることが可能なもの。学会分類の主食の例では、2-1(粒がなく付着性の低いペースト状の粥)、2-2(やや不均質(粒がある)でもやわらかく、離水もなく付着性も低い粥)の2種類ある。		
赤B (ムース状の食品)	嚥下調整食1j	1×10 <sup>3</sup> ~ 1.5×10 <sup>4</sup>	1×10 <sup>3</sup> 以下	0.2~0.9	☹☹ (とても弱い)	☹☹ (とても弱い)	均質で、付着性、凝集性、かたさ、離水に配慮したゼリー・プリン・ムース状のもの。おもゆゼリー、粥のゼリーなど。		
赤C (ゼリー状の食品)	嚥下調整食0j	2.5×10 <sup>3</sup> ~1×10 <sup>4</sup>	4×10 <sup>2</sup> 以下	0.2~0.6	☹☹ (とても弱い)	☹☹ (とても弱い)	均質で、付着性・凝集性・かたさに配慮したゼリー。離水が少なく、スライスゼリー状にすくうことが可能。		

- (1) (一社)日本嚥下摂食リハビリテーション学会嚥下調整食分類2013やその他嚥下調整食分類等を合わせてご参照ください。
- (2) 硬さ、付着性、凝縮性の試験方法は、「特別用途食品の表示許可等について(平成23年6月23日付消費令第277号)」別紙3の4 えん下困難者用食品の試験方法(1)に準ずる。

※4 FOIS (Functional Oral Intake Scale) より一部変更

LEVEL5	特別な準備無く複数の食形態。全ての栄養・水分を経口で摂取。ただし、特定の食べ物は食べられない。
LEVEL4	複数の食形態。全ての栄養・水分を経口で摂取。ただし、特別な準備や代償法が必要。
LEVEL3	一種類の食形態のみ。全ての栄養・水分を経口で摂取。
LEVEL2	補助栄養に依存しているが、継続的に食事や飲み物を経口摂取している。
LEVEL1	補助栄養に依存。少量の経口摂取を試みるのみ。

※5 ①褥瘡 ②口腔及び摂食・嚥下 ③嘔気・嘔吐 ④下痢 ⑤便秘 ⑥浮腫 ⑦脱水 ⑧感染・発熱  
⑧経腸・静脈栄養 ⑩生活機能低下 ⑪閉じこもり ⑫うつ ⑬認知機能 ⑭医薬品 ⑮その他



食事に関する計画書（様式例）（案）				
		入所日	年 月 日	
氏名	殿	計画作成者:	初回作成日: 年 月 日	
			作成(変更)日: 年 月 日	
説明と同意日	平成 年 月 日	サイン(続柄) ( )		
必要エネルギー	kcal	提供栄養量	kcal	
食事内容 (療養食など)		食事形態		
食事の嗜好		食事量の記録		
体重の変動	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( kg/ ヶ月)	褥瘡へのアプローチ	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 褥瘡の大きさなど ( )	
リスクについて	アレルギーについて <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )			
	誤飲・誤嚥について <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )			
	その他のリスク			
経口による継続的な食事の摂取のための支援の観点	①食事の形態	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 変更	
	②食事の環境	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 変更	
	③食事の介助の方法	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 変更	
	④口腔のケアの方法	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 変更	
	⑤医療又は歯科医療受診	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 変更	
栄養ケアの具体的内容(課題や目標、目標期間) 多職種での意見が反映するようにご記入願います。		担当者	頻度	
① 食の楽しみと栄養状態	<b>評価職種</b> <input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 管理栄養士 <input type="checkbox"/> リハ職 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> ケアマネジャー <input type="checkbox"/> 看護職 <input type="checkbox"/> 介護職			
	② 口腔摂食嚥下機能	<b>評価職種</b> <input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 管理栄養士 <input type="checkbox"/> リハ職 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> ケアマネジャー <input type="checkbox"/> 看護職 <input type="checkbox"/> 介護職		
		<b>評価職種</b> <input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 言語聴覚士 (食事形態・誤嚥徴候・今後のVE、VF検査などにもご留意の上ご記入ください)		
特記事項	経口維持加算(Ⅰ) 経口維持加算(Ⅱ)			
<b>栄養ケア提供経過記録</b>				
月 日	サービス提供項目			



摂食嚥下栄養ケアマネジメント インテーク・シート

お名前

これは当施設（介護老人保健施設〇〇〇〇〇）のご利用を希望される皆さまに、より適切な食事・栄養サービスを提供することができるよう、ご要望などをおうかがいするための用紙です。

ご本人、主に介護をされている（今後、介護を予定されている）方、ご親族などの皆さまともよくご相談をなさってください。そのうえで率直なお考えをお書きください。そして次回の面接日にお持ちください。事前にお送りいただいても結構です。

※サービス利用にあたっての「必ず提出しなければならない書類」ではありませんが、できるかぎりご提出をお願いいたします。もちろん、ご記入できるところだけで結構です。**尚、9.の「低栄養状態のリスクレベル」については、医療機関や介護施設などの専門職から説明を受けたことがある場合のみ、ご記入ください。**

該当するものに、○印をつけてください。

1. ご利用者の状態： ほぼ健常 ・ 食事が少ない方（栄養量が少ない方） ・ 胃瘻

上記設問にて、「ほぼ健常」あるいは「食事が少ない方」と回答された方は、以下の①～⑩の各項目の該当するものに、○印をつけてください。特に伝えておきたいことが**ありましたら**、具体的に記述欄にお書きください

①嚥むことが困難である ない・時々ある・いつもある

②硬い食べ物を避け、軟らかい食べ物ばかり食べる ない・時々ある・いつもある

③口から食べ物がこぼれる ない・時々ある・いつもある

④ことばが明瞭でない ない・時々ある・いつもある

⑤食べ物をいつまでも飲み込まずに嚥んでいる ない・時々ある・いつもある

⑥食事中や食後に濁った声に変わる ない・時々ある・いつもある

⑦食べるのが遅くなる ない・時々ある・いつもある

⑧水分や食べ物が口に入ったとたんにむせたり、咳き込んだりする ない・時々ある・いつもある

ご本人

⑨**いわゆる「早食い」である** ない・時々ある・いつもある

⑩その他（ ）

記述欄

[ ]

2. 既往症として以下の症状がありますか。

糖尿病 心不全 腎疾患 高血圧 誤嚥性肺炎 発熱 脱水 その他（ ）

3. 褥瘡  無  有（部位等）

4. アレルギー  無  有（アレルギーがみられる食品：）

5. 習慣として→ 飲酒  無  有 ・ 喫煙  無  有

6. 体重 kg 身長 cm

7. 体重減少  無  有 →「有」の方はどれ位の期間で何kg減（時期 kg/ ヶ月）

8. 義歯  無  有

→「有」の方は義歯の調子について  良い  **あまり良くない**  悪い

9. 低栄養状態のリスクレベル  低リスク  中リスク  高リスク

お書きいただいた方（方々）のお名前と続柄

・ \_\_\_\_\_（ ）      ・ \_\_\_\_\_（ ）  
 ・ \_\_\_\_\_（ ）      ・ \_\_\_\_\_（ ）



# 摂食嚥下栄養ケアマネジメント評価票（案）

素案

ふりがな		<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	<input type="checkbox"/> 明 <input type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> 昭	年	月	日生まれ	歳
氏名		要介護度・病名・ 特記事項等			記入者名：		
					作成年月日： 年 月 日		
身体状況、栄養・食事に関する意向						家族構成と キーパーソン（支援者）	本人 ー

実施日		年 月 日 (記入者名)	年 月 日 (記入者名)	年 月 日 (記入者名)	年 月 日 (記入者名)	
低栄養状態のリスクレベル		<input type="checkbox"/> 低 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 低 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 低 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 低 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高	
インテーク時の情報 ※1		<input type="checkbox"/> 確認済 <input type="checkbox"/> 未確認				
本人の状態 (健康感、生活機能、身体機能など)		<input type="checkbox"/> ほぼ健常 <input type="checkbox"/> 食事が少ない方 <input type="checkbox"/> 胃瘦 <input type="checkbox"/> 看取り	<input type="checkbox"/> ほぼ健常 <input type="checkbox"/> 食事が少ない方 <input type="checkbox"/> 胃瘦 <input type="checkbox"/> 看取り	<input type="checkbox"/> ほぼ健常 <input type="checkbox"/> 食事が少ない方 <input type="checkbox"/> 胃瘦 <input type="checkbox"/> 看取り	<input type="checkbox"/> ほぼ健常 <input type="checkbox"/> 食事が少ない方 <input type="checkbox"/> 胃瘦 <input type="checkbox"/> 看取り	
介助量		<input type="checkbox"/> 全介助 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 介助なし	<input type="checkbox"/> 全介助 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 介助なし	<input type="checkbox"/> 全介助 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 介助なし	<input type="checkbox"/> 全介助 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 介助なし	
「ほぼ健常」を選択した方のみ 回答		飲酒 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 喫煙 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	飲酒 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 喫煙 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	飲酒 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 喫煙 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	飲酒 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 喫煙 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	
「胃瘦」を選択した方のみ回答		量( )回数( ) 使用している栄養剤 ( )				
低栄養状態のリスク(状況)	身長 (cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	
	体重 (kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	
	BMI (kg/m <sup>2</sup> )	(kg/m <sup>2</sup> )	(kg/m <sup>2</sup> )	(kg/m <sup>2</sup> )	(kg/m <sup>2</sup> )	
	3%以上の体重減少	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( kg/ ヶ月)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( kg/ ヶ月)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( kg/ ヶ月)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( kg/ ヶ月)	
	血清アルブミン値 (g/dl)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( (g/dl))				
	褥瘡(有無・場所・大きさ・ 写真を添付)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 褥瘡の大きさ( )				
	栄養補給法	<input type="checkbox"/> 経腸栄養法 <input type="checkbox"/> 静脈栄養法				
	上腕周囲長 (AC) (cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	
	下腿周囲長 (CC) (cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	
	その他					
食生活状況等	栄養補給の状況	食事摂取量 ・主食の摂取量 ・主菜、副菜の摂取量 ・その他(補助食品など)	% 主食 % 主菜 % 副菜 % ( )	% 主食 % 主菜 % 副菜 % ( )	% 主食 % 主菜 % 副菜 % ( )	% 主食 % 主菜 % 副菜 % ( )
	必要栄養量 (エネルギー・たんぱく質など)	kcal g	kcal g	kcal g	kcal g	
	食事の留意事項の有無 (療養食の指示、食事形態、嗜好、 禁忌、アレルギーなど)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )				
	食事時の摂食・嚥下状況(姿勢、 食べ方、むせ等) ※2	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	
	食事満足度	・美味しい ・ふつう ・まずい	・美味しい ・ふつう ・まずい	・美味しい ・ふつう ・まずい	・美味しい ・ふつう ・まずい	
	食事に対する意識	・大いにある ・ややある ・ふつう ・ややない ・全くない	・大いにある ・ややある ・ふつう ・ややない ・全くない	・大いにある ・ややある ・ふつう ・ややない ・全くない	・大いにある ・ややある ・ふつう ・ややない ・全くない	
	その他(食習慣、生活習慣、 食行動などの留意事項など)					
□の中の状態 (不具合・衛生状態)		<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有				
歯科治療の必要性		<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有				

	義歯の調子について	<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 悪い			
	口腔の不具合について	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )			
	疾病に応じた栄養方法の継続について				
	暫定食事形態について ※3の表より分類を選択してください				

**ミールラウンドについて（以下の項目について回答ください）**

医師 歯科医師 歯科衛生士 （管理）栄養士 リハ職 薬剤師 ケアマネジャー 看護職 介護職

①噛むことが困難である	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある
②硬い食べ物を避け、 軟らかい食べ物ばかり食べる	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある
③口から食べ物がこぼれる	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある
④ことばが明瞭でない	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある
⑤食べ物をいつまでも飲み込まずに噛んでいる	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある
⑥食事中や食後に濁った声に変わる	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある
⑦食べるのが遅くなる	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある
⑧水分や食べ物が口に入るとたんにむせたり、せきこんだりする	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある
⑨水分や食べ物を飲み込む時にむせたり、せきこんだりする	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある
⑩水分や食べ物を飲み込んだ後にむせたり、せきこんだりする	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある
⑪水分を飲み込むときにむせる	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある
⑫ご飯を飲み込むときにむせる	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある
⑬口に水をふくむことができない	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある
⑭口に水をふくむことはできるが、口からこぼれる	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある
⑮口に水をふくむことはできるが、口内にためておけない	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある	・ない ・時々ある ・いつもある

**食事の時や口腔ケア時に観察して記入して下さい。（問題の有無）**

⑪口腔乾燥	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑫開口	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑬うがい	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑭咀嚼力	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑮口臭と口の中の問題	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			

**食事時の兆候・症状を観察して、該当した問題がありましたか？（問題の有無）**

⑤座位保持困難（例、まっすぐ座ることができない、横・前・後ろにたおれる）	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑥クッションなどの支えがあっても座位保持困難	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			

⑦いすやテーブルの高さが合っていない	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑧食べるときに下顎が出る	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
<b>認知症関連の徴候・症状について問題がありましたか？</b> （問題の有無）				
⑨傾眠	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑩食事の失認	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑪興奮・大声・暴言・暴力	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑫拒食	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑬偏食	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑭失行	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑮妄想	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑯早食い・詰め込み・丸呑み	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑰徘徊・多動	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑱盗食	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑲異食	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
⑳脱水	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
21 溢水状態 （低ナトリウム血症）	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
22 その他	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			

**本人の状態で、「食事が少ない方」を選択された方は以下の項目のご記入をお願い致します。**

経口摂取の状況について ※4 表（FOIS）より レベルを選択ください	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
食事摂取量	・全量 ・残しがち ・ほぼ残す	・全量 ・残しがち ・ほぼ残す	・全量 ・残しがち ・ほぼ残す	・全量 ・残しがち ・ほぼ残す
食事介助量				
合計提供カロリー数	kcal	kcal	kcal	kcal
栄養・食形態について				
食事の留意事項の有無 （嗜好、アレルギー、 その他禁忌など）	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 〔 〕	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 〔 〕	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 〔 〕	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 〔 〕
食事への意識について				
多職種による栄養ケアの課題 （低栄養関連問題）	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士 <input type="checkbox"/> （管理）栄養士 <input type="checkbox"/> リハ職 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> ケアマネジャー <input type="checkbox"/> 看護職 <input type="checkbox"/> 介護職 多職種での意見が反映 するようにご記入願います。 また、※5 に留意しながらご記入ください。			
特記事項				

※1 インテーク時の情報が「未確認」の場合には、再度インテーク・シートをご確認ください。

※2 1、安定した正しい姿勢が自分でとれない 2、食事に集中することができない 3、食事中に傾眠や意識混濁がある 4、歯（義歯）のない状態で食事をしている 5、食べ物を口腔内に溜め込む 6、固形の食べ物を咀嚼中にむせる 7、食後、頬の内側や口腔内に残渣がある 8、水分でむせる 9、食事中、食後に咳をすることがある 10、その他 から[ ]へ該当数字を記入し（あてはまるものすべて）、必要な事項があれば記載して下さい。

※3

分類	学会分類 2013	規格			食べる力の目安		形態等	エネルギー・ 栄養素
		硬さ (N/m <sup>2</sup> )	付着性 (J/m <sup>3</sup> )	凝集性	噛む力	飲み込む力		
青D (介護予防の ための食品)	—	—	—	—	☺ (問題なし)	☺ (問題なし)	管理栄養士等への相談の結果を受けて、個別に対応。	エネルギーやたんぱく質の1日の推奨量（栄養素等表示基準値エネルギー2,100kcal、たんぱく質75g）に対して、当該食品がどれくらい含まれているのかを表示することが望ましい（食事摂取基準（2015年版）でも、特に高齢者の適切なたんぱく質摂取の重要性を指摘）。表示の際には、棒グラフで1日の推奨量の何%に当たるのかを示す等するとわかりやすい。また、通常の商品よりたんぱく質の含有量が多いこと等を強調表示する際には、食品表示のルールに従う必要がある。
黄A (弱い力で 噛める食品)	嚥下調整 食4	—	—	—	☹ (やや弱い)	☹ (やや弱い)	かたさ・ばらけやすさ・貼りつきやすさなどのないものであって、弱い力で噛める程度のものである。	
黄B (歯ぐきで つぶせる食品)	嚥下調整 食4	—	—	—	⊖ (弱い)	☹ (やや弱い)	かたさ・ばらけやすさ・貼りつきやすさなどのないものであって、歯ぐきでつぶせる程度のやわらかさのものである。	
黄C (舌でつぶせる 食品)	嚥下調整 食3	—	—	—	⊖⊖ (とても弱い)	⊖ (弱い)	形はあるが押しつぶしが容易、舌と口蓋間で押しつぶしが可能なもの。離水に配慮した粥など。	
赤A (ペースト状 の食品)	嚥下調整 食2	3×10 <sup>2</sup> ~ 2×10 <sup>4</sup>	1.5×10 <sup>3</sup> 以下	—	⊖⊖ (とても弱い)	⊖⊖ (とても弱い)	スプーンですくって食べることが可能なもの。学会分類の主食の例では、2-1（粒がなく付着性の低いペースト状の粥）、2-2（やや不均質（粒がある）でもやわらかく、離水もなく付着性も低い粥）の2種類ある。	
赤B (ムース状 の食品)	嚥下調整 食1j	1×10 <sup>3</sup> ~ 1.5×10 <sup>4</sup>	1×10 <sup>3</sup> 以下	0.2~0.9	⊖⊖ (とても弱い)	⊖⊖ (とても弱い)	均質で、付着性、凝集性、かたさ、離水に配慮したゼリー・プリン・ムース状のもの。おもゆゼリー、粥のゼリーなど。	
赤C (ゼリー状 の食品)	嚥下調整 食0j	2.5×10 <sup>3</sup> ~1×10 <sup>4</sup>	4×10 <sup>2</sup> 以下	0.2~0.6	⊖⊖ (とても弱い)	⊖⊖ (とても弱い)	均質で、付着性・凝集性・かたさに配慮したゼリー。離水が少なく、スライスゼリー状にすくうことが可能。	

(1) (一社)日本嚥下摂食リハビリテーション学会嚥下調整食分類2013を合わせてご覧ください。

(2) 硬さ、付着性、凝縮性の試験方法は、「特別用途食品の表示許可等について（平成23年6月23日付消費表第277号）」別紙3の4 えん下困難者用食品の試験方法(1)に準ずる。

※4 FOIS (Functional Oral Intake Scale) より一部変更

LEVEL5	特別な準備無く複数の食形態。全ての栄養・水分を経口で摂取。ただし、特定の食べ物は食べられない。
LEVEL4	複数の食形態。全ての栄養・水分を経口で摂取。ただし、特別な準備や代償法が必要。
LEVEL3	一種類の食形態のみ。全ての栄養・水分を経口で摂取。
LEVEL2	補助栄養に依存しているが、継続的に食事や飲み物を経口摂取している。
LEVEL1	補助栄養に依存。少量の経口摂取を試みるのみ。

※5 ①褥瘡 ②口腔及び摂食・嚥下 ③嘔気・嘔吐 ④下痢 ⑤便秘 ⑥浮腫 ⑦脱水 ⑧感染・発熱 ⑨経腸・静脈栄養 ⑩生活機能低下 ⑪閉じこもり ⑫うつ ⑬認知機能 ⑭医薬品 ⑮その他

食事に関する計画書 (様式例) (案)					
氏名		入所日 : 年 月 日			
		初回作成日 : 年 月 日			
		作成(変更)日 : 年 月 日			
説明と同意日	平成 年 月 日	サイン			
利用者の意向					
食事の課題					
食事の目標					
栄養ケアの具体的内容 多職種での意見が反映するようにご記入願います。			担当者	頻度	期間
① 食の 楽しみ	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 管理栄養士 <input type="checkbox"/> リハ職 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> ケアマネジャー <input type="checkbox"/> 看護職 <input type="checkbox"/> 介護職				
② 嚥下 口腔 機能	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 管理栄養士 <input type="checkbox"/> リハ職 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> ケアマネジャー <input type="checkbox"/> 看護職 <input type="checkbox"/> 介護職				
③ 栄養 状態	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 管理栄養士 <input type="checkbox"/> リハ職 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> ケアマネジャー <input type="checkbox"/> 看護職 <input type="checkbox"/> 介護職				
特記事項					
栄養ケア提供経過記録					
月	日	サービス提供項目			



## 資 料 編

- ・ 調査実施要綱
- ・ 退所者生活機能調査票【第1回調査～第4回調査】
- ・ 退所者生活機能調査票【第5回調査】
- ・ ICF ステージング・マニュアル
- ・ 退所者生活機能調査単純集計表



# 介護老人保健施設退所者の在宅療養支援に関する 調査研究事業

( 退所者生活機能調査 )  
～ 実施要綱 ～

## 1. 事業の目的

本事業は、厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）の交付を受け、下記のため実施される調査事業です。

平成 25 年度実施した「施設退所後の要介護高齢者が在宅生活を継続するための要因に関する調査研究事業」では、介護老人保健施設（以下、老健施設）から在宅復帰された利用者の状態を同じ指標を用いて、入所中から在宅期間中まで継続的に追跡調査しました。

研究事業結果では利用者の移動および ADL、認知機能、食事およびセルフケアの機能は入所中に改善傾向を示し、その後、在宅においてやや低下傾向を示すという結果が得られました。在宅復帰を行っている利用者においては、入所期間中に ADL が改善し、その後居宅に移ってからは、身体機能はゆっくりと低下しつつ、在宅を維持しているという傾向があると考えられます。

そこで、今回の研究事業においては、機能低下の原因や在宅維持の要因の検討を行うとともに、在宅復帰後の在宅生活継続状況の把握と継続するための要因の検討を行います。在宅復帰後も良好な居宅生活が維持できるよう、居宅の介護支援専門員と連携する方策を検討することを目的としています。

昨年度より継続して、公益社団法人全国老人保健施設協会（以下、全老健）は一般社団法人日本介護支援専門員協会との連携・協力のもと、事業を実施致しております。

本事業の趣旨をご理解いただき、ご協力の程よろしくお願い致します。

## 2. 事業実施施設

全国の老健施設のうち、事前調査において本事業の趣旨にご賛同いただき、ご協力いただける旨を表明いただいた施設を対象とします。

## 3. 事業対象者

平成 26 年 10 月 1 日～10 月末に貴老健施設を退所される方全員を対象とします。

なお、添付の「同意書」等を用い、対象者及びそのご家族に本事業の趣旨等をご説明いただくとともに、同意を得られた方を対象に、調査を実施してください。同意を得られない場合には、調査対象から外してください。

同意書は、貴施設にて取りまとめいただき、11 月末までに、全老健へご郵送下さい。

(注) 同意書の取り付けについて

本事業は、利用者ご本人の情報を収集することになりますので、お手数でも添付の「同意書」の書式をご利用頂き、必ず協力同意書の取り付けを行って頂きますようお願い致します。

また、調査対象者が認知症等により有効なインフォームド・コンセントを与えることができないと客観的に判断される場合には、代話者（当該調査対象者の法定代理人等、調査対象者の意思及び利益を代弁できると考えられる方）の同意と署名により、調査への同意取り付けに替えることが可能です。

今回の結果は協力者の個人名暗号化等の対策を行い、個人情報保護を遵守したうえで、一部、全老健が実施する別な調査等で使用する可能性があります。調査データについて、個人が特定されるような公表は一切致しませんので、調査対象者並びに調査実施者のプライバシーは守られます。

なお、途中で調査への協力を撤回されたい場合は、いつでも同意を取り消すことができます。この場合は、添付の「同意撤回書」にご署名頂いたうえ、ご一報ください。

(「同意撤回書」は、同意書の後ろ及び、各調査票の巻末にもついております。)

★ 調査実施期間中は、調査対象者に間違いが起きないよう調査票の表紙裏面にご利用者の氏名をご記入頂きますが、調査票をご返送いただく際には氏名欄を黒く塗りつぶしていただきますようお願い致します。

なお、番号記載のエラーが発生した場合にも判別できるように、別添「対比表」にお名前をご記入（入力）頂き、貴施設にて保管下さいますよう、宜しくお願いいたします。（本調査で知り得た個人情報、調査の目的以外に使用いたしません。）

記載例

調査票標記	利用者 ID	お名前
①	→	老健 太郎

## 【調査票の記入者および協力依頼について】

■ 調査は全 5 回実施します。第 1 回及び第 2 回調査は老健施設の介護支援専門員が、第 3 回～第 5 回調査は居宅の介護支援専門員が実施をお願いします。

■ 第 1 回調査は、施設入所時の状況を、当時の記録等から類推してご記入ください。また、第 2 回は、施設退所前に実施してください。

↓ 【施設側で記入した調査票を居宅の介護支援専門員にお渡しください】

↓ 調査依頼をした居宅の介護支援専門員様の氏名・所属先等を、11 月 17 日(月)までに全老健に FAX (03-3455-3535) でお知らせください。(居宅の介護支援専門員 調査協力依頼先リスト使用)

■ 第 3 回調査は施設退所後 1 週間以内に、また第 4 回は退所 1 か月後のアセスメント時に、さらに第 5 回は退所 3 か月後のアセスメント時に行ってください。

う、居宅の介護支援専門員に協力依頼してください。

※第3回～第5回までの調査期間中に、調査対象の方が貴老健施設に再入所された場合は、お手数ですが、居宅介護支援専門員より調査票を再度お受け取りいただき、老健施設の介護支援専門員により調査を続行くださいませう、お願いいたします。

#### 【居宅の介護支援専門員様へのご依頼について】

本調査票を居宅の介護支援専門員等へ郵送するため、宛先が印字されていない角2封筒を同封しております。調査票を郵送される場合は、こちらをお使いください。なお、居宅の介護支援専門員様へお渡し頂くものは以下の通りです。

- (1) 施設から居宅の介護支援専門員様への依頼状※
- (2) 退所者生活機能調査票（冊子になっており、第1回から第4回調査までで一冊、第5回調査で一冊と、2分冊になっています）
- (3) ICF ステージングマニュアル（冊子になっています）
- (4) 返信用の角2封筒（2部）

⇒封筒は、「第1回～第4回調査結果返信用」と「第5回調査結果返信用」の2種類がありますので、居宅側の介護支援専門員に両方お渡しください。

※（1）の依頼状の雛形を本要綱の4ページに掲載いたします。雛形は当協会HP会員専用サイトよりダウンロード可能です。

会員専用サイト：<http://www.roken.or.jp/member/>

（閲覧にはユーザー名とパスワードが必要です。ご不明な場合は当協会へご連絡ください）

#### 4. 記録用紙等の提出

ご記入いただいた調査票は、居宅の介護支援専門員から直接全老健宛てにご返送いただきます。

第1回から第4回までの調査結果は、同封の返信用封筒で、

**平成26年12月15日（月）まで**にご郵送下さるよう、お願いいたします。

また、第5回調査結果も同様に、同封の返信用封筒で、

**平成27年2月13日（金）まで**にご郵送下さるよう、お願いいたします。

#### 5. 施設から調査協力居宅介護支援事業所への依頼状（雛形）

平成26年 月 日

調査協力指定居宅介護支援事業所

ご担当者 御中

介護老人保健施設〇〇〇〇  
施設長〇〇〇〇

#### 介護老人保健施設退所者の在宅療養支援に関する調査研究事業

「退所者生活機能調査」への御協力をお願い

平素より当施設の運営に際しましては、格別なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、本年度、公益社団法人全国老人保健施設協会（以下、全老健）では厚生労働省の老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）の交付を受け、一般社団法人日本介護支援専門員協会との連携・協力のもと、表記の調査研究事業を実施いたします。

当施設といたしましては、本調査研究事業の主旨を鑑み、事業に協力することといたしました。が、アンケート調査は、当施設を平成26年10月に退所される方を対象としておることから、貴事業所におかれましては、アンケート調査への御協力をお願いいたしたく考えております。

つきましては、ご多用の折大変お手数をおかけしますが、同調査の意義を十分理解頂き、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

【本件照会先】

介護老人保健施設 〇〇〇 担当（〇〇、〇〇）

電話：xx-xxxx-xxxx/Fax：xx-xxxx-xxxx

上記雛形は、会員専用サイト：<http://www.roken.or.jp/member/>からダウンロード可能です。（閲覧にはユーザー名とパスワードが必要です。ご不明な場合は当協会へご連絡ください）

#### 6. 問い合わせ先

公益社団法人全国老人保健施設協会 業務部 業務第一課

〒105-0014 東京都港区芝 2-1-28 成旺ビル 7階

TEL：03-3455-4165 FAX：03-3455-4172

ホームページ：<http://www.roken.or.jp>

メールアドレス：research@roken.or.jp

## ご参考：調査の流れ

**【介護老人保健施設】**  
施設の介護支援専門員が調査を実施



<第1回調査>  
入所時の状況を記入

第1回調査  
回答用紙

<第2回調査>  
退所時(退所前)の状況を記入

第2回調査  
回答用紙

「同意書」を  
全老健へ郵送。  
(※切11月末日まで)  
「調査依頼先リスト」  
を全老健へFAX送信。  
(※切11月17日(月)まで)

退所

**【利用者の御自宅など】**

居宅の介護支援専門員が調査を実施  
※従前の老健施設に再入所した場合のみ  
老健施設の介護支援専門員が調査を実施



<第3回調査>  
退所1週間以内の状況を記入

第3回調査  
回答用紙

第4回調査終了時に  
第1回～4回調査票を全老健  
までご返送ください。  
(※切12月15日(月)まで)

<第4回調査>  
退所1ヶ月後の状況を記入

第4回調査  
回答用紙

調査票を  
全老健へ

<第5回調査>  
退所3ヶ月後の状況を記入

第5回調査  
回答用紙

調査票を  
全老健へ

第5回調査票は、  
調査終了時に  
全老健まで  
ご返送ください。  
(※切2月13日(金)まで)

平成26年度老人保健健康増進事業  
介護老人保健施設退所者の  
在宅療養支援に関する調査研究事業

# 退所者生活機能調査票

【第1回調査～第4回調査】

退所前施設名	
所在地（都道府県）と 電話番号	
利用者ID	

**（第5回調査票にも利用者IDを必ず転記してください）**

公益社団法人全国老人保健施設協会

本調査票は、下記の方を対象とします。

◆第1回調査時に介護老人保健施設の介護支援専門員がご記入ください。

退所（予定）日	平成	年	月	日
利用者氏名※				

※利用者氏名については、プライバシー保護の観点から、返送時に黒塗りにしてご提出ください。

# 介護老人保健施設退所者の在宅療養支援に関する 調査研究事業

( 退所者生活機能調査 )  
～ 実施要綱 ～

## ～ 目 次 ～

調査実施要項	1
調査の流れ	5
第 1 回調査調査票	6
第 2 回調査調査票	14
第 3 回調査調査票	21
第 4 回調査調査票	28
第 5 回調査調査票	(別冊)

### 1. 事業の目的

本事業は、厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）の交付を受け、下記の目的のため実施される調査事業です。

平成 25 年度実施した「施設退所後の要介護高齢者が在宅生活を継続するための要因に関する調査研究事業」では、介護老人保健施設（以下、老健施設）から在宅復帰された利用者の状態を同じ指標を用いて、入所から在宅期間中まで継続的に追跡調査しました。

研究事業結果では利用者の移動および ADL、認知機能、食事およびセルフケアの機能は入所中に改善傾向を示し、その後、在宅においてやや低下傾向を示すという結果が得られました。在宅復帰を行っている利用者においては、入所期間中に ADL が改善し、その後居宅に移ってからは、身体機能はゆっくりと低下しつつ、在宅を維持しているという傾向があると考えられます。

そこで、今回の研究事業においては、機能低下の原因や在宅維持の要因の検討を行うとともに、在宅復帰後の在宅生活継続状況の把握と継続するための要因の検討を行います。在宅復帰後も良好な居宅生活が維持できるよう、居宅の介護支援専門員と連携する方策を検討することを目的としています。

昨年度より継続して、公益社団法人全国老人保健施設協会（以下、全老健）は一般社団法人日本介護支援専門員協会との連携・協力のもと、事業を実施致しております。

本事業の趣旨をご理解いただき、ご協力の程よろしくお願い致します。

### 2. 事業実施施設

全国の老健施設のうち、事前調査において本事業の趣旨にご賛同いただき、ご協力いただける旨を表明いただいた施設を対象とします。

### 3. 事業対象者

平成 26 年 10 月 1 日～10 月末に貴老健施設を退所される方全員を対象とします。

なお、添付の「同意書」等を用い、対象者及びそのご家族に本事業の趣旨等をご説明いただきとともに、同意を得られた方を対象に、調査を実施してください。同意を得られない場合には、調査対象から外してください。

同意書は、貴施設にて取りまとめていただき、11 月末までに、全老健へご郵送下さい。

(注) 同意書の取り付けについて

本事業は、利用者ご本人の情報を収集することになりますので、お手数でも添付の「同意書」の書式をご利用頂戴。必ず協力同意書の取り付けを行って頂きますようお願い致します。

また、調査対象者が認知症等により有効なインフォームド・コンセントを与えることができないと客観的に判断される場合には、代諾者（当該調査対象者の法定代理人等、調査対象者の意思及び利益を代弁できると考えられる方）の同意と署名により、調査への同意取り付けに替えることが可能です。

今回の結果は協力者の個人名暗号化等の対策を行い、個人情報保護の遵守をたうえ、一部、全老健が実施する別な調査等で使用する可能性があります。調査データについて、個人が特定されるような公表は一切致しませんので、調査対象者並びに調査実施者のプライバシーは守られます。

なお、途中で調査への協力を撤回されたい場合は、いつでも同意を取り消すことができます。この場合は、添付の「同意撤回書」にご署名頂いたうえ、ご一報ください。  
（「同意撤回書」は、同意書の後ろ及び、各調査票の巻末にもついております。）

☆ 調査実施期間中は、調査対象者に間違いが起きないよう調査票の表紙裏面にご利用者の氏名をご記入頂きますが、調査票をご返送いただく際には氏名欄を黒く塗りつぶしていただきますようお願い致します。

なお、番号記載のエラーが発生した場合にも判別できるように、別添「対比表」にお名前をご記入（入力）頂き、貴施設にて保管下さいますよう、宜しく願います。

（本調査で知り得た個人情報、調査の目的以外に使用いたしません。）

0

記載例

調査票標記 利用者ID	お名前
①	老健 太郎

#### 【調査票の記入者および協力依頼について】

■ 調査は全5回実施します。第1回及び第2回調査は老健施設の介護支援専門員が、第3回～第5回調査は居宅の介護支援専門員が実施をお願いします。

■ 第1回調査は、施設入所時の状況を、当時の記録等から類推してご記入ください。また、第2回は、施設退所前に実施してください。

↓ 【施設側で記入した調査票を居宅の介護支援専門員にお渡しください】

↓ 調査依頼をした居宅の介護支援専門員様の氏名・所属先等を、11月17日（月）までに全老健にFAX（03-3455-3535）でお知らせください。（居宅の介護支援専門員 調査協力依頼先リスト使用）

■ 第3回調査は施設退所後1週間以内に、また第4回は退所1か月後のアセスメント時に、さらに第5回は退所3か月後のアセスメント時に行っていただくよう、居宅の介護支援専門員に協力依頼してください。

※ 第3回～第5回までの調査期間中に、調査対象者の方が貴老健施設に再入所された場合は、お手数ですが、居宅介護支援専門員より調査票を再度お受け取りいただき、老健施設の介護支援専門員により調査を続行くださいますよう、お願いいたします。

#### 【居宅の介護支援専門員様へのご依頼について】

本調査票を居宅の介護支援専門員等へ郵送するために、宛先が印字されていない角2封筒を同封してあります。調査票を郵送される場合は、こちらをお使いください。なお、居宅の介護支援専門員様へお渡し頂くものは以下の通りです。

- (1) 施設から居宅の介護支援専門員様への依頼状※
- (2) 退所者生活機能調査票（冊子になっており、第1回から第4回調査まで一冊、第5回調査で一冊と、2分冊になっております）
- (3) ICF ステージングマニュアル（冊子になっております）
- (4) 返信用の角2封筒（2部）

⇒封筒は、「第1回～第4回調査結果返信用」と「第5回調査結果返信用」の2種類がありますので、居宅側の介護支援専門員に両方お渡しください。

※ (1) の依頼状の雛形を本要綱の4ページに掲載いたします。雛形は当協会HP 会員専用サイトよりダウンロード可能です。

会員専用サイト： <http://www.roken.or.jp/member/>

（閲覧にはユーザー名とパスワードが必要で、ご不明な場合は当協会へご連絡ください。）

#### 4. 記録用紙等の提出

ご記入いただいた調査票は、居宅の介護支援専門員から直接全老健宛てにご返送いただきます。

第1回から第4回までの調査結果は、同封の返信用封筒で、

平成26年12月15日（月）までにご郵送下さるよう、お願いいたします。

また、第5回調査結果も同様に、同封の返信用封筒で、

平成27年2月13日（金）までにご郵送下さるよう、お願いいたします。

## 5. 施設から調査協力居宅介護支援事業所への依頼状（雛形）

調査協力指定居宅介護支援事業所  
ご担当者 御中  
平成26年 月 日

介護老人保健施設〇〇〇〇  
施設長〇〇〇〇

### 介護老人保健施設退所者の在宅療養支援に関する調査研究事業 「退所者生活機能調査」への御協力をお願い

平素より当施設の運営に際しましては、格別なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、本年度、公益社団法人全国老人保健施設協会（以下、全老健）では厚生労働省の老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）の交付を受け、一般社団法人日本介護支援専門員協会との連携・協力のもと、表記の調査研究事業を実施いたします。

当施設といたしましても、本調査研究事業の主旨を鑑み、事業に協力することといたしました。アンケート調査は、当施設を平成26年10月に退所される方を対象としておることから、貴事業所におかれましても、アンケート調査への御協力をお願いいたしたく考えております。

つきましては、ご多用の折大変お手数をかけますが、同調査の意義を十分理解頂き、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

#### 【本件照会先】

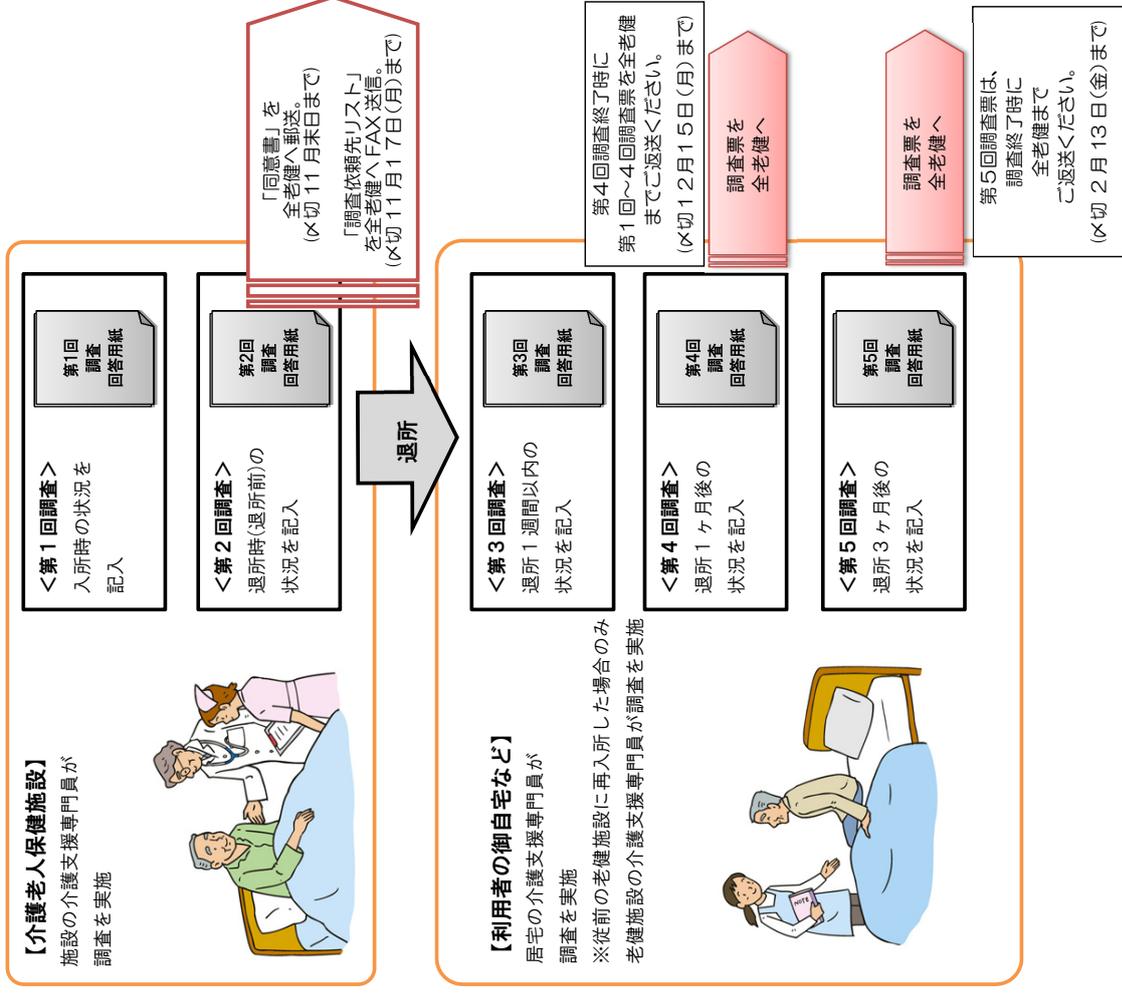
介護老人保健施設 〇〇〇〇 担当（〇〇、〇〇）  
電話：xx-xxxx-xxxx/Fax：xx-xxxx-xxxx

上記雛形は、会員専用サイト：<http://www.roken.or.jp/member/>からダウンロード可能です。（閲覧にはユーザー名とパスワードが必要で、ご不明な場合は当協会へご連絡ください。）

## 6. 問い合わせ先

公益社団法人全国老人保健施設協会 業務部 業務第一課  
〒105-0014 東京都港区芝 2-1-28 成旺ビル7階  
TEL：03-3455-4165 FAX：03-3455-4172  
ホームページ：<http://www.roken.or.jp>  
メールアドレス：research@roken.or.jp

## ご参考：調査の流れ





＜診断名リスト＞ 問2-(9)及び問2-(10)の回答にご利用ください。

ICDコード分類	番号	診断名
	1	脳梗塞
	2	脳出血
	3	多発性脳梗塞
	4	くも膜下出血
	5	硬膜下血腫
	6	硬膜下血腫および脳挫傷
	7	その他の脳血管疾患
循環器系等の疾患	8	高血圧症（認知症や脳血管障害などの病態を伴わない）
	9	慢性心不全
	10	心筋梗塞
	11	狭心症
	12	不整脈
	13	心房細動
	14	その他の心疾患
	15	阿基性動脈硬化症
	16	その他の中枢または末梢血管の疾患
	17	アルツハイマー型認知症
	18	脳血管性認知症
	19	レビー小体型認知症
	20	下記以外の認知症（脳血管性・アルツハイマー型・混合型・レビー小体型・ピック病）
精神及び行動の障害	21	前頭・側頭葉型認知症（ピック病等）
	22	混合型認知症
	23	まだ確定診断のついていない認知症
	24	うつ病
	25	統合失調症
	26	その他の精神疾患
	27	パーキンソン病
神経系の疾患	28	パーキンソン病以外の器質性認知症
	29	症候性てんかん、てんかん
	30	その他の中枢神経疾患
	31	末梢神経疾患
	32	糖尿病（認知症や脳血管障害など他の病態を伴わない）
内分泌、栄養及び代謝疾患	33	栄養障害
	34	肥満
	35	脂質異常症（高脂血症）
	36	甲状腺機能障害
	37	その他の代謝・内分泌疾患

ICDコード分類	番号	診断名
	38	胃腸障害
	39	慢性胃炎
	40	変形性骨椎症
	41	下肢の変形性関節症（股関節・膝関節）
	42	上肢の変形性関節症（肩関節・肘関節）
筋骨格系及び結合組織の疾患	43	大関節の骨折（手術を行った）
	44	大関節以外の骨折（手術を行った）
	45	骨折（保命的治療のみ）
	46	骨粗しょう症
	47	圧迫骨折
	48	後天性骨化症
	49	その他の骨・靭帯疾患
	50	関節リウマチ
	51	関節リウマチ以外の全身性結合組織障害
	52	筋・軟部組織の障害
	53	気管支喘息
呼吸器系の疾患	54	肺気腫等慢性閉塞性肺疾患
	55	誤嚥性・吸入性（不顕性）肺炎などの慢性呼吸器感染症
	56	急性呼吸器感染症
	57	その他肺および胸膜など呼吸器の疾患
	58	腎不全（慢性・急性を含む）
腎尿路系障害の疾患	59	尿路結石症など尿路の疾患
	60	尿路感染症（膀胱炎など）
	61	乳房・女性生殖器・骨盤臓器の疾患
	62	前立腺肥大症などの男性生殖器の疾患
	63	胃・腸疾患
	64	小腸・大腸の疾患
	65	肝胆膵の疾患
消化器系の疾患	66	ヘルニア
	67	肛門の疾患
	68	その他の消化器の疾患（膵臓、口腔、唾液腺、胆嚢等を含む）
新生物	69	悪性新生物
	70	良性新生物およびその他特定されない新生物
眼及び付属器の疾患、耳及び耳鳴、突起の疾患	71	緑内障・白内障などの眼およびその付属器の疾患
	72	耳および乳突突起の疾患
皮膚及び皮下組織の疾患	73	疥癬・蜂窩織炎・白癬等感染症
	74	水疱症（天皰癬・棘天皰癬等）
	75	アレルギー性皮膚疾患
	76	褥創
	77	皮膚の外傷およびその他の皮膚疾患
	78	感染症
血液及び造血器の疾患並びに免疫系の疾患	79	貧血
	80	貧血以外の血液・免疫および凝固系の疾患
周産期に発した病態	81	周産期や小児期の疾患の後遺症（脳性麻痺、精神発達遅滞を含む）
先天奇形、変形及び染色体異常	82	先天奇形、変形および染色体異常
損傷、中毒及びその他の他の外因の影響	83	損傷、中毒及びその他の他の外因の影響

問3. 調査対象者の日常関運動作（IADL）について（それぞれ、番号を一つ選んで○）

(1) 食事機能 (準備)	1. 食事の準備は自分でやっている 2. 食事の準備は手伝っている 3. 食事の準備は自分でやっていない
(2) 食事機能 (片付け)	1. 食事の後片付けは自分でやっている 2. 食事の後片付けは手伝っている 3. 食事の後片付けは自分でやっていない
(3) 生活機能 (買い物)	1. 買い物は自分でやっている 2. 買い物は家族と一緒にやっている 3. 買い物は自分でやっていない
(4) 生活機能 (掃除・洗濯)	1. 掃除・洗濯を自分でやっている 2. 掃除・洗濯を手伝っている 3. 掃除・洗濯を自分でやっていない
(5) 生活機能 (ゴミ出し)	1. ゴミ出しは自分でやっている 2. ゴミ出しは手伝っている 3. ゴミ出しは自分でやっていない
(6) 自己管理 (お金)	1. お金の管理は自分でやっている 2. お金の管理は一部自分でやっている 3. お金の管理は自分でやっていない
(7) 自己管理 (電話)	1. 電話は自分で対応している 2. 電話は家族がいなときは対応している 3. 電話は自分で対応していない
(8) 自己管理 (郵便・書類)	1. 郵便・書類は自分で管理している 2. 郵便・書類は一部自分で管理している 3. 郵便・書類は自分で管理していない
(9) 自己管理 (火の元)	1. 火の元は自分で管理している 2. 火の元は一部自分で管理している 3. 火の元は自分で管理していない
(10) 社会機能 (交通手段)	1. 一人で交通手段を使って外出している 2. 介助者と交通手段を使って外出している 3. 交通手段は利用していない
(11) 社会機能 (散歩)	1. 一人で散歩などに出掛けている 2. 介助者と一緒に散歩などに出掛けている 3. 散歩などには出掛けない

問4. 意欲の指標について（それぞれ、番号を一つ選んで○）

(1) 起床	1. いつも定時に起床している 2. 起こさないと起床しないことがある 3. 自分から起床することがない
(2) 意思疎通	1. 自分から挨拶する、話しかける 2. 挨拶、呼びかけに対し返答や笑顔がみられる 3. 反応がない
(3) 食事	1. 自分で進んで食べようとする 2. 促されると食べようとする 3. 食事に関心がない、全く食べようとしていない
(4) 排泄	1. いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排便、排尿を行う 2. 時々尿意、便意を伝える 3. 排泄に全く関心がない
(5) リハビリ、活動	1. 自らリハビリに向かう、活動を求める 2. 促されて向かう 3. 拒否、無関心

※薬剤の影響（睡眠薬など）を除外。起床できない場合、開眼し覚醒していれば1に○

※言語の合併がある場合、言語以外の表現でよい

※器質的消化器疾患を除外。麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば（口まで運んでやったり場合積極的に食べようとする）1に○

※失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば1に○

※リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する

※例外規定：意識障害、高度の臓器障害、急性疾患（肺炎など発熱）がある場合



問6. ICFに基づき新指標について（それぞれ、番号を一つ選んで○）

(1)喜怒哀楽を普段から言語または身振りなどで表現していますか	1. 表現していない 2. 身振りのみの表現のみ 3. 言語のみでの表現 4. 言語と身振り両方で表現
(2)活力が落ちあふれていると思えますか（落ち溢れているように見えますか）	1. 落ち溢れていると思う 2. そうは思わない
(3)地域社会においてボランティア活動その他の事業に参加していますか	1. 参加していない 2. 無償の活動に参加している 3. 有償の活動に参加している 4. 有償無償両方の活動に参加している
(4)軽い運動、体操を1週間に何日ぐらいしていますか	1. 毎日 2. 5～6日 3. 2～4日 4. 1日以下 5. 運動・体操はしていない
(5)定期的な運動・スポーツを、1週間に何日ぐらいしていますか	1. 毎日 2. 5～6日 3. 2～4日 4. 1日以下 5. 運動・スポーツはしていない
(6)何分間程度連続して歩行が可能ですか	1. 6分以上歩行可能 2. 2～5分程度は歩行可能 3. 2分未満は歩行可能 4. 全く歩行できない(または、移動は車イスのみ)
(7)関節の可動性についてお答えください	1. 膝関節は疼痛や制限なく動く 2. 膝関節は動くが疼痛がある 3. 膝関節は動きに制限があるが疼痛はない 4. 膝関節は動かない
(8)椅子から手や腕を使わずに立ち上がる事ができますか	1. 何回も繰り返して問題なくできる 2. 1回であれば問題なくできる 3. 1回は、問題はあるが何とかできる 4. 立ち上がる事ができない
(9)薬の自己管理を普段から行っていますか	1. 行っている 2. 行っていない 3. 薬は飲んでいない
(10)医師や看護師、介護士に自分の訴えを的確に伝えることができますか	1. 的確に伝えることができる 2. ある程度伝えることができる 3. できない
(11)夜間はよく眠っていますか	1. よく眠れている 2. あまり眠れていない(不眠の訴えあり) 3. 全く眠れていない(実際に不眠である)
(12)日中も寝ていますか	1. 日中は起きている 2. 日中、短時間寝ている(2時間未満) 3. 日中も2時間以上寝ている
(13)施設入所や在宅復帰と言った環境の変化に問題なく対応出来ましたか	1. 対応できている 2. あまり対応できていない 3. 全く対応できていない
(14)普段から、他の利用者や近所の人に対する手伝いを行っていますか	1. 行っている 2. 行っていない

問7. ICF ステージングについて（別紙「IOF ステージングマニュアル」を参照の上ご記入ください。）

2. 基本動作	5	4	3	2	1	
3-a. 歩行・移動	5	4	3	2	1	
3-b. 移動手段	T字杖の利用			0. あり	1. なし	
	器具（短下肢器具等）			0. あり	1. なし	
	歩行器（ウォーカー、シニアカー等）の利用			0. あり	1. なし	
	しかみつき歩行器の利用（サークル歩行）			0. あり	1. なし	
	車椅子の利用			0. あり	1. なし	
リクライニング式車椅子の利用			0. あり	1. なし		
介助者や付添いの必要			0. あり	1. なし		
4-a. 認知機能（見当識）	5	4	3	2	1	
4-b. 認知機能（コミュニケーション）	5	4	3	2	1	
4-c. 認知機能（精神活動）	5	4	3	2	1	
A 群	世話を拒否する			0. あり	1. なし	
	不適切に泣いたり笑ったりする			0. あり	1. なし	
	興奮して手足を動かす			0. あり	1. なし	
	理由なく金切り声を上げる			0. あり	1. なし	
	衣服や器物を破壊する			0. あり	1. なし	
4-d. 周辺症状	食物を投げける			0. あり	1. なし	
	食べ過ぎる			0. あり	1. なし	
	ダンスの全身を全部出す			0. あり	1. なし	
	日中屋外や屋内をうろつきまわる			0. あり	1. なし	
	昼間、寝てばかりいる			0. あり	1. なし	
同じことを何度も聞く			0. あり	1. なし		
尿失禁する			0. あり	1. なし		
5-a. 食事（嚥下機能）	5	4	3	2	1	
5-b. 食事（食事動作及び食事介助）	5	4	3	2	1	
5-c. 食事形態	現在の主食形態	1. 米飯	2. 軟飯	3. 全粥	4. 7分粥-重湯	5. その他
	現在の副食形態	1. 常菜	2. 軟菜	3. さみ	4. ミキサー	5. パスト・ムース
6-a. 排泄の動作	5	4	3	2	1	
6-b. 補助具・器具の使用状況と、尿意の意識	ポータブルトイレの使用			0. あり	1. なし	
	尿カテーテルの使用			0. あり	1. なし	
	人工肛門の使用			0. あり	1. なし	
	おむつの使用			0. あり	1. なし	
	尿意を意識することができるか			0. できる	1. できない	
便意を意識することができるか			0. できる	1. できない		
7-a. 入浴動作	5	4	3	2	1	
7-b. 入浴手段	1. 一般浴	2. 介助浴	3. 座っての機械浴	4. 臥位での機械浴（特殊浴）		
8-a. 整容（口腔ケア）	5	4	3	2	1	
8-b. 整容（整容）	5	4	3	2	1	
8-c. 整容（衣服の着脱）	5	4	3	2	1	
9-a. 社会参加（余暇）	5	4	3	2	1	
9-b. 社会参加（社会交流）	5	4	3	2	1	

# 第2回調査

問1. 記入者について(空欄にご記入ください。)

担当介護支援専門員名
------------

問2. 調査対象者の状況等について(それぞれ、番号を一つ選んで○)

(1)要介護度	1. 要介護1 5. 要介護5	2. 要介護2	3. 要介護3	4. 要介護4
(2)障害自立度	1. J1 5. B1	2. J2 6. B2	3. A1 7. C1	4. A2 8. C2
(3)認知症自立度	1. 非該当 5. IIIa	2. I 6. IIIb	3. IIa 7. IV	4. IIb 8. M
(4)世帯構成	1. 単身 (4)-1. 日中独居の有無	2. 高齢夫婦 高齢夫婦もしくは同居の場合、日中独居ですか(1. はい 2. いいえ)	3. 同居	

問3. 老健施設において実施したリハビリテーションの種類(あてはまるもの全てに○)

1. 筋力増強	2. 関節可動域練習	3. 耐久力向上練習	4. バランス練習
5. 運動協調性練習	6. 呼吸・排便練習	7. 摂食・嚥下練習	8. 失語・構音障害に対する練習
9. 失行・失認に対する練習			
10. 認知に焦点をあてた非薬物療法(例:リアリティオリエンテーションや認知刺激療法等)			
11. 刺激に焦点をあてた非薬物療法(例:活動・レクリエーション・園芸・芸術療法、アロマセラピー、ペットセラピー、マッサージ等)			
12. 行動に焦点をあてた非薬物療法(例:行動異常を観察し評価することに基づいて介入方法を導き出すもの)			
13. 感情に焦点をあてた非薬物療法(例:支持的精神療法、回想法、バリデーション療法、感覚統合、刺激画面療法等)			
14. 疼痛除去・緩和	15. アクティビティ	16. 起居動作練習	17. 移乗動作練習
18. 移動(歩行以外)練習	19. 歩行練習	20. 応用歩行練習	21. 食事動作練習
22. 入浴動作練習	23. 排泄動作練習	24. 整容動作練習	25. 更衣動作練習
26. 家事動作練習	27. 福祉用具(選定・適合調整・指導等)	28. 住宅改修(提案・指導等)	29. レクリエーション
	30. 家族への介護方法指導	31. QOL向上	32. 自主トレーニング指導
33. その他			

○調査対象者の老健施設退所時の状況についてご記入ください。

○老健施設の介護支援専門員がご記入ください。

問4. 調査対象者の日常関連動作 ( I ADL ) について (それぞれ、番号を一つ選んで○)

(1)食事機能 (準備)	1. 食事の準備は自分でやっている 2. 食事の準備は手伝っている 3. 食事の準備は自分でやっていない
(2)食事機能 (片付け)	1. 食事後の片付けは自分でやっている 2. 食事後の片付けは手伝っている 3. 食事後の片付けは自分でやっていない
(3)生活機能 (買い物)	1. 買い物は自分でやっている 2. 買い物は家族と一緒にやっている 3. 買い物は自分でやっていない
(4)生活機能 (掃除・洗濯)	1. 掃除・洗濯を自分でやっている 2. 掃除・洗濯を手伝っている 3. 掃除・洗濯を自分でやっていない
(5)生活機能 (ゴミ出し)	1. ゴミ出しは自分でやっている 2. ゴミ出しは手伝っている 3. ゴミ出しは自分でやっていない
(6)自己管理 (お金)	1. お金の管理は自分でやっている 2. お金の管理は一部自分でやっている 3. お金の管理は自分でやっていない
(7)自己管理 (電話)	1. 電話は自分で対応している 2. 電話は家族がいなくて対応している 3. 電話は自分で対応していません
(8)自己管理 (郵便・書類)	1. 郵便・書類は自分で管理している 2. 郵便・書類は一部自分で管理している 3. 郵便・書類は自分で管理していません
(9)自己管理 (火の元)	1. 火の元は自分で管理している 2. 火の元は一部自分で管理している 3. 火の元は自分で管理していません
(10)社会機能 (交通手段)	1. 一人で交通手段を使って外出している 2. 介助者と交通手段を使って外出している 3. 交通手段は利用していない
(11)社会機能 (散歩)	1. 一人で散歩などに出掛けている 2. 介助者と一緒に散歩などに出掛けている 3. 散歩などには出掛けない

問5. 意欲の指標について (それぞれ、番号を一つ選んで○)

(1)起床	1. いつも定時に起床している 2. 起こさないと起床しないことがある 3. 自分から起床することがない
(2)意思疎通	1. 自分から挨拶する、話しかける 2. 挨拶、呼びかけに対し返答や笑顔がみられる 3. 反応がない
(3)食事	1. 自分で進んで食べようとする 2. 促されると食べようとする 3. 食事に関心がなく、全く食べようとしません
(4)排泄	1. いつも自ら便意を伝える、あるいは自分で排便、排尿を行う 2. 時々尿意、便意を伝える 3. 排泄に全く関心がない
(5)リハビリ、活動	1. 自らリハビリに向かう、活動を求める 2. 促されて向かう 3. 拒否、無関心

※リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。意たぎりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する

※例外規定：意識障害、高度の臓器障害、急性疾患（肺炎など発熱）がある場合

問6. 疼痛評価項目について (本人が痛みを伝えられない場合は、家族等への聞き取りのうえ、ご記入ください)

(1)慢性的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(2)定期的な処方(注射)された いる鎮痛剤	1. NSAIDs 2. (非)麻薬性鎮痛剤 3. その他
(3)他の注射	1. NSAIDs 2. (非)麻薬性鎮痛剤 3. その他
(4)坐薬	1. NSAIDs 2. (非)麻薬性鎮痛剤 3. その他
(5)経皮外用薬	1. NSAIDs 2. (非)麻薬性鎮痛剤 3. その他
(6)その他	ありの場合記入 ( )
(7)経口内服	1. NSAIDs 2. (非)麻薬性鎮痛剤 3. その他
(8)静脈注射	1. NSAIDs 2. (非)麻薬性鎮痛剤 3. その他
(9)その他注射	1. NSAIDs 2. (非)麻薬性鎮痛剤 3. その他
(10)坐薬	1. NSAIDs 2. (非)麻薬性鎮痛剤 3. その他
(11)経皮外用薬	1. NSAIDs 2. (非)麻薬性鎮痛剤 3. その他
(12)その他	ありの場合記入 ( )

※「その他の注射」には、皮下、筋肉、神経ブロック注射を含みます。また、「経皮外用薬」には、軟膏、パップ剤等を含みます。

(説明) ■NSAIDs (非ステロイド性抗炎症薬) とは、抗炎症作用、鎮痛作用、解熱作用を有する薬剤の総称です。広義にはステロイドではない抗炎症薬すべてを含み、一般的には、疼痛、発熱の治療に使用される“解熱鎮痛薬”とほぼ同義語として用いられています。代表的なNSAIDsとしては、アスピリン(バファリンなど)、ロキソプロフェン(ロキソニン)、シクロコキシブタール(ボルタレン)などがあります。

■麻薬性鎮痛剤とは、体内のオピオイド受容体に結合し鎮痛効果を表す薬剤で、我が国で使用できるものとしては、モルヒネ (MS コンチン、カプテンなど)、オキシコドン(オキソコンチン、オキソノムなど)、フエンタニール(デュロップMTパッチなど)があります。また、非麻薬性鎮痛剤は、麻薬性鎮痛剤に比べ鎮痛効果は弱いものの、麻薬性鎮痛剤と同様の働きをします。代表的な非麻薬性鎮痛剤としては、コデイン(リン酸コデイン、リン酸ジヒドロコデインなど)、トラマゾール(トラマール、トラムセットなど)があります。

問6で、「1. 痛みあり」を選択された場合には以下の設問にもご回答ください。

(4)各項目について調査対象者の体動時に状態を観察し、ご回答ください。

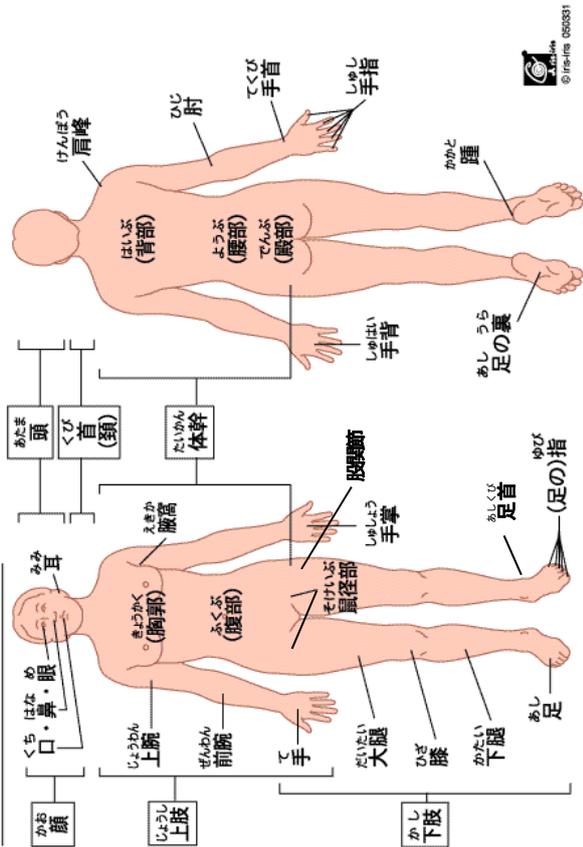
①攻撃的になる (語気が荒くなる、怒りっぽくなる)	1. 症状なし 2. 症状あり
②落ち着きなくなる	1. 症状なし 2. 症状あり
③顔をゆがめる (眉間に皺をよせる、口元をゆがめる、歯をくいしばる)	1. 症状なし 2. 症状あり
④不安そうな顔をする	1. 症状なし 2. 症状あり
⑤泣き声を上げる・大声を上げる	1. 症状なし 2. 症状あり
⑥体を丸める・体に触れると体を硬直させる	1. 症状なし 2. 症状あり
⑦動作の変化がみられる	1. 症状なし 2. 症状あり
⑧体の一部・患部をさす様な動作をする	1. 症状なし 2. 症状あり
⑨顔色の変化(蒼白、紅潮など)	1. 症状なし 2. 症状あり

問6で、「1. 痛みあり」を選択された場合には以下の設問にもご回答ください。

(5)慢性疼痛の疼痛部位について、最も痛みが強い部位一か所のコード番号を、下記人体図の各部位の名称を参考にして、下記から選んで記載してください。

最も痛みが強い部位の番号 ( ) ← 下記からコード番号を一つだけ選んで記入

■人体の各部位の名称



コード番号	部位名称
1	頭頸部
2	首(頸)
3	顔(顔全体)
4	眼
5	鼻
6	口(歯・歯茎・舌)
7	耳
8	上腕
9	前腕
10	手(手全体)
11	手(手のひら)
12	腕(腕)
13	胸(胸部)
14	腰(腰)
15	鼠径部
16	大腿
17	膝
18	下腕
19	足(足の甲)
20	足(足の指)
21	肩(肩)
22	肘
23	手(手の関節)
24	手(手の指)
25	手(手の甲)
26	背(背)
27	腰(腰)
28	股(股)
29	足(足の底)
30	踵
31	足(足の関節)
32	股(股)
33	上肢(上肢全体)
34	下肢(下肢全体)
35	体幹
36	全身

問7. ICFに基づく新指標について(それぞれ、番号を一つ選んで○)

質問	回答
(1)喜怒哀楽を普段から言語または身振りなどで表現していますか	1. 表現していない 2. 身振りの表現のみ 3. 言語のみでの表現 4. 言語と身振り両方で表現
(2)活力が満ちあふれていると思えますか(満ち溢れているように見えますか)	1. 満ち溢れていると思う 2. そうは思わない
(3)地域社会においてボランティア活動その他の事業に参加していますか	1. 参加していない 2. 無償の活動に参加している 3. 有償の活動に参加している 4. 有償無償両方の活動に参加している
(4)軽い運動、体操を1週間に何日ぐらいしていますか	1. 毎日 2. 5~6日 3. 2~4日 4. 1日以下 5. 運動・体操はしていない
(5)定期的な運動・スポーツを、1週間に何日ぐらいしていますか	1. 毎日 2. 5~6日 3. 2~4日 4. 1日以下 5. 運動・スポーツはしていない
(6)何分間程度連続して歩行が可能ですか	1. 6分以上歩行可能 2. 2~5分程度は歩行可能 3. 2分未満は歩行可能 4. 全く歩行できない(または、移動は車イスのみ)
(7)関節の可動性についてお答えください	1. 膝関節は疼痛や制限なく動く 2. 膝関節は動くが疼痛がある 3. 膝関節は動きに制限があるが疼痛はない 4. 膝関節は動かない
(8)椅子から手や腕を使わずに立ち上がることはできますか	1. 何回も繰り返して問題なくできる 2. 1回であれば問題なくできる 3. 1回は、問題はあるが何とかできる 4. 立ち上がることができない
(9)菓の自己管理を普段から行っていますか	1. 行っている 2. 行っていない 3. 菓は飲んでいない
(10)医師や看護師、介護士に自分の訴えを的確に伝えることができますか	1. 的確に伝えることができる 2. ある程度伝えることができる 3. できない
(11)夜間はよく眠っていますか	1. よく眠れている 2. あまり眠れていない(不眠の訴えあり) 3. 全く眠れていない(実際に不眠である)
(12)日中も寝ていますか	1. 日中は起きています 2. 日中、短時間寝ている(2時間未満) 3. 日中も2時間以上寝ている
(13)施設入所や在宅復帰と言った環境の変化に問題なく対応出来ましたか	1. 対応できている 2. あまり対応できていない 3. 全く対応できていない
(14)普段から、他の利用者や近所の人に対しての手伝いをしていますか	1. 行っている 2. 行っていない

問8. ICF ステージングについて (別紙「ICF ステージングマニュアル」を参照の上ご記入ください。)

2. 基本動作	5	4	3	2	1						
3-a. 歩行・移動	5	4	3	2	1						
3-b. 移動手段	T字杖の利用	0.	あり	1.	なし						
	装具 (短下肢装具等)	0.	あり	1.	なし						
	歩行器 (ウォーカー、シニアカー等) の利用	0.	あり	1.	なし						
	しかみつき歩行器の利用 (サークル歩行)	0.	あり	1.	なし						
	車椅子の利用	0.	あり	1.	なし						
リクライニング式車椅子の利用	0.	あり	1.	なし							
介助者や付添いの必要	0.	あり	1.	なし							
4-a. 認知機能 (見当識)	5	4	3	2	1						
4-b. 認知機能 (コミュニケーション)	5	4	3	2	1						
4-c. 認知機能 (精神活動)	5	4	3	2	1						
4-d. 周辺症状	A 群	世話を拒否する	0.	あり	1.	なし					
		不適切に泣いたり笑ったりする	0.	あり	1.	なし					
		興奮して手足を動かす	0.	あり	1.	なし					
		理由なく金切り声を上げる	0.	あり	1.	なし					
		衣服や器物を破壊する	0.	あり	1.	なし					
	B 群	食物を投げる	0.	あり	1.	なし					
		食べ過ぎる	0.	あり	1.	なし					
		タンスの中身を全部出す	0.	あり	1.	なし					
		日中屋外や屋内をうろつきまわる	0.	あり	1.	なし					
		昼間、寝てばかりいる	0.	あり	1.	なし					
同じことを何度も聞く	0.	あり	1.	なし							
尿失禁する	0.	あり	1.	なし							
5-a. 食事 (嚥下機能)	5	4	3	2	1						
5-b. 食事 (食事動作及び食事介助)	5	4	3	2	1						
5-c. 食事形態	現在の主食形態	1.	米飯	2.	軟飯	3.	全粥	4.	7分粥+重湯	5.	その他
	現在の副食形態	2.	常菜	3.	まぜみ	4.	ミキサー	5.	ハースト・ムース	6.	その他
6-a. 排泄の動作	5	4	3	2	1						
6-b. 補助具・器具の使用状況と、尿意の意識	ポータブルトイレの使用	0.	あり	1.	なし						
	尿カテーテルの使用	0.	あり	1.	なし						
	人工肛門の使用	0.	あり	1.	なし						
	おむつの使用	0.	あり	1.	なし						
	尿意を認識することができるか	0.	できる	1.	できない						
便意を認識することができるか	0.	できる	1.	できない							
7-a. 入浴動作	5	4	3	2	1						
7-b. 入浴手段	1.	一般浴	2.	介助浴	3.	座っての機械浴	4.	臥位での機械浴 (特殊浴)			
8-a. 整容 (口腔ケア)	5	4	3	2	1						
8-b. 整容 (整容)	5	4	3	2	1						
8-c. 整容 (衣服の着脱)	5	4	3	2	1						
9-a. 社会参加 (余暇)	5	4	3	2	1						
9-b. 社会参加 (社会交流)	5	4	3	2	1						

## 第3回調査

○調査対象者の老健施設退所後1週間以内の状況をご記入ください。

○居室の介護支援専門員をご記入ください。

⇒従前入所していた老健施設に再入所した場合は、第1回～2回を記入した介護支援専門員にお戻しください。

※以下の事由などにより調査が継続できない場合は、下記にお答えのうえ、回答用紙をご返信ください。

(なお、その他については具体的な理由をご記入ください)

<調査中断理由>

入院 ・ 従前入所の老健施設以外の介護施設への入所 ・ 転居 ・  
死亡 ・ その他 ( )

「従前入所の老健施設以外の介護施設」には、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護、特定施設入居者生活介護、地域密着型特定施設入居者生活介護、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護等を含みます。

第3回調査(退所後1週間以内の状況調査)回答票 (記入日:平成 年 月 日)

問1. 記入者について(空欄にご記入ください。)

(1)事業所類型	1. 居宅介護支援事業所	2. 老健施設
(2)事業所名		
(3)住所と電話番号		
(4)担当介護支援専門員名		

問2. 調査対象者の状況等について(それぞれ、番号を一つ選んで○)

(1)要介護度	1. 要介護1	2. 要介護2	3. 要介護3	4. 要介護4	5. 要介護5			
(2)障害自立度	1. J1	2. J2	3. A1	4. A2	5. B1	6. B2	7. C1	8. C2
(3)認知症自立度	1. 非該当	2. I	3. IIa	4. IIb	5. IIIa	6. IIIb	7. IV	8. M
(4)世帯構成	1. 単身	2. 高齢夫婦	3. 同居	高齡夫婦もしくは同居の場合、日中独居ですか(1. はい 2. いいえ)				

問3. 調査時点で利用している介護サービス等(あてはまるもの全てに○)

(1)介護保険サービス	1. 訪問介護 2. 訪問入浴介護 3. 訪問看護 4. 訪問リハビリテーション 5. 居宅療養管理指導 6. 通所介護 7. 通所リハビリテーション 8. 短期入所生活介護(利用期間 日間) 9. 福祉用具貸与 10. 短期入所療養介護(利用期間 日間) 11. 特定福祉用具販売 12. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 13. 夜間対応型訪問介護 14. 認知症対応型通所介護 15. その他( )
(2)自治体等が実施している インフォーマルサービス	(該当する場合は下記に具体的なサービス名を記入ください)

問4. 調査対象者の日常関連動作(IADL)について(それぞれ、番号を一つ選んで○)

(1)食事機能 (準備)	1. 食事の準備は自分で行っている 2. 食事の準備は手伝っている 3. 食事の準備は自分で行っていない
(2)食事機能 (片付け)	1. 食事の後片付けは自分で行っている 2. 食事の後片付けは手伝っている 3. 食事の後片付けは自分で行っていない
(3)生活機能 (買い物)	1. 買い物は自分で行っている 2. 買い物は家族と一緒にに行っている 3. 買い物は自分で行っていない
(4)生活機能 (掃除・洗濯)	1. 掃除・洗濯を自分で行っている 2. 掃除・洗濯を手伝っている 3. 掃除・洗濯を自分で行っていない
(5)生活機能 (ゴミ出し)	1. ゴミ出しは自分で行っている 2. ゴミ出しは手伝っている 3. ゴミ出しは自分で行っていない
(6)自己管理 (お金)	1. お金の管理は自分で行っている 2. お金の管理は一部自分で行っている 3. お金の管理は自分で行っていない
(7)自己管理 (電話)	1. 電話は自分で対応している 2. 電話は家族がいないときは対応 3. 電話は自分で対応していない
(8)自己管理 (郵便・書類)	1. 郵便・書類は自分で管理している 2. 郵便・書類は一部自分で管理している 3. 郵便・書類は自分で管理していない
(9)自己管理 (火の元)	1. 火の元は自分で管理している 2. 火の元は一部自分で管理している 3. 火の元は自分で管理していない
(10)社会機能 (交通手段)	1. 一人で交通手段を使って外出している 2. 介助者と交通手段を使って外出している 3. 交通手段は利用していない
(11)社会機能 (散歩)	1. 一人で散歩などに外出している 2. 介助者と一緒に散歩などに外出している 3. 散歩などには外出しない

問5. 意欲の指標について(それぞれ、番号を一つ選んで○)

(1)起床	1. いつも定時に起床している 2. 起きないと起床しないことがある 3. 自分から起床することがない ※薬剤の影響(睡眠薬など)を除く。起床できない場合、開眼し覚醒していれば1に○
(2)意思疎通	1. 自分から挨拶する、話しかける 2. 挨拶、呼びかけに対し返答や笑顔がみられる 3. 反応がない ※失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい
(3)食事	1. 自分で進んで食べようとする 2. 促されると食べようとする 3. 食事に関心がない、全く食べようとしていない ※器質的消化器疾患を除く。麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば(口まで運んでやったり場合も積極的に食べようとする)ば1に○
(4)排泄	1. いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排便、排尿を行う 2. 時々尿意、便意を伝える 3. 排泄に全く関心がない ※失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば1に○
(5)リハビリ、活動	1. 自らリハビリに向かう、活動を求める 2. 促されて向かう 3. 拒否、無関心 ※リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する ※除外規定：意識障害、高度の臓器障害、急性疾患(肺炎など発熱)がある場合

問6. 疼痛評価項目について(本人が痛みを伝えられない場合は、家族等への聞き取りのうえ、ご記入ください)

(1)慢性の痛みの有無	1. 痛みあり	2. 痛みなし		
(2)定期処方(注射)されている鎮痛剤	①経口内服	1. NSAIDs	2. (非)麻薬性製剤	3. その他
	②静脈注射	1. NSAIDs	2. (非)麻薬性製剤	3. その他
	③その他注射	1. NSAIDs	2. (非)麻薬性製剤	3. その他
	④坐薬	1. NSAIDs	2. (非)麻薬性製剤	3. その他
	⑤経皮外用薬	1. NSAIDs	2. (非)麻薬性製剤	3. その他
	⑥その他	( )	( )	( )
(3)咽喉で処方(注射)されている鎮痛剤(過去2週間以内で実施)	①経口内服	1. NSAIDs	2. (非)麻薬性製剤	3. その他
	②静脈注射	1. NSAIDs	2. (非)麻薬性製剤	3. その他
	③その他注射	1. NSAIDs	2. (非)麻薬性製剤	3. その他
	④坐薬	1. NSAIDs	2. (非)麻薬性製剤	3. その他
	⑤経皮外用薬	1. NSAIDs	2. (非)麻薬性製剤	3. その他
	⑥その他	( )	( )	( )

※「その他の注射」には、皮下、筋肉、神経ブロック注射を含みます。また、「経皮外用薬」には、軟膏、パップ剤等を含みます。

(説明) ■NSAIDs (非ステロイド性抗炎症薬)とは、抗炎症作用、鎮痛作用、解熱作用を有する薬剤の総称です。広義にはステロイドではない抗炎症薬すべてを含み、一般的には、疼痛、発熱の治療に使用される“解熱鎮痛薬”とほぼ同義語として用いられています。代表的なNSAIDsとしては、アスピリン(バファリンなど)、ロキソプロフェン(ロキソニン)、シクロコフェナク(ボルタレン)などがあります。

■麻薬性製剤とは、体内のオピオイド受容体に結合し鎮痛効果を表す薬剤で、我が国で使用できるものとしては、モルヒネ(NSコンチン、カデアファン、オキシコドン(オキシンコンチン、オキゾームなど)、フエンタニール(デュロップMTパッチなど)があります。また、非麻薬性製剤は、麻薬性製剤に比べ鎮痛効果は弱いものの、麻薬性製剤と同様の働きをします。代表的な非麻薬性製剤としては、コデイン(リン酸コデイン、リン酸ジヒドロコデインなど)、トラマゾール(トラマール、トラムセットなど)があります。

問6で、「1. 痛みあり」を選択された場合には以下の設問にもご回答ください。

(4)各項目について調査対象者の体動時に状態を観察し、ご回答ください。

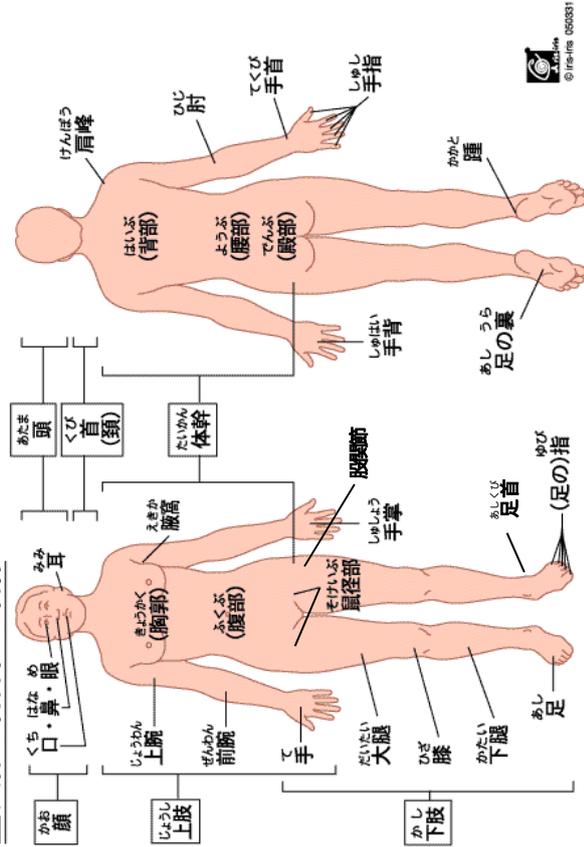
①攻撃的になる(語気が荒くなる、怒りっぽくなる)	1. 症状なし	2. 症状あり
②落ち着きがなくなる	1. 症状なし	2. 症状あり
③顔をゆがめる(周囲に顔をよせる、口元をゆがめる、歯をくいしばる)	1. 症状なし	2. 症状あり
④不安そうな顔をする	1. 症状なし	2. 症状あり
⑤泣き声を上げる・大声を上げる	1. 症状なし	2. 症状あり
⑥体を丸める・体に触れると体を硬直させる	1. 症状なし	2. 症状あり
⑦動作の変化がみられる	1. 症状なし	2. 症状あり
⑧体の一部・患部をさす様な動作をする	1. 症状なし	2. 症状あり
⑨顔色の変化(蒼白、紅潮など)	1. 症状なし	2. 症状あり

問6で、「1. 痛みあり」を選択された場合には以下の設問にもご回答ください。

(6)慢性疼痛の疼痛部位について、最も痛みが強い部位一か所のコード番号を、下記人体図の各部位の名称を参考にして、下記から選んで記載してください。

最も痛みが強い部位の番号 ( ) ← 下記からコード番号を一つだけ選んで記入

■人体の各部位の名称



1	頭(頭部)	10	手(手全体)	19	足(足の甲)	28	股部
2	首(頸)	11	手掌(手のひら)	20	足の指	29	足の裏(足底)
3	顔(顔全体)	12	腋窩	21	肩峰(肩)	30	踵
4	眼	13	胸郭(胸部)	22	肘	31	足首(足関節)
5	鼻	14	腰部	23	手首(手関節)	32	股関節
6	口(歯・歯茎・舌)	15	頸(頸部)	24	手指	33	上肢(上肢全体)
7	耳	16	大腿	25	手背(手の甲)	34	下肢(下肢全体)
8	上腕	17	膝	26	背部	35	体幹
9	前腕	18	下腕	27	腰部	36	全身

問7. ICFに基づく新指標について（それぞれ、番号を一つ選んで○）

(1)喜怒哀楽を普段から言葉または身振りなどで表現していますか	1. 表現していない 2. 身振りのみの表現のみ 3. 言葉のみでの表現 4. 言語と身振り両方で表現
(2)活力が満ちあふれていると思えますか（満ち溢れているように見えますか）	1. 満ち溢れていると思う 2. そうは思わない
(3)地域社会においてボランティア活動その他の事業に参加していますか	1. 参加していない 2. 無償の活動に参加している 3. 有償の活動に参加している 4. 有償無償両方の活動に参加している
(4)軽い運動、体操を1週間に何日ぐらいしていますか	1. 毎日 2. 5～6日 3. 2～4日 4. 1日以下 5. 運動・体操はしていない
(5)定期的な運動・スポーツを、1週間に何日ぐらいしていますか	1. 毎日 2. 5～6日 3. 2～4日 4. 1日以下 5. 運動・スポーツはしていない
(6)何分間程度連続して歩行が可能ですか	1. 6分以上歩行可能 2. 2～5分程度は歩行可能 3. 2分未満は歩行可能 4. 全く歩行できない(または、移動は車イスのみ)
(7)関節の可動性についてお答えください	1. 膝関節は疼痛や制限なく動く 2. 膝関節は動くが疼痛がある 3. 膝関節は動きに制限があるが疼痛はない 4. 膝関節は動かない
(8)椅子から手や腕を使わずに立ち上がる事ができますか	1. 何回も繰り返して問題なくできる 2. 1回であれば問題なくできる 3. 1回は、問題はあるが何とかできる 4. 立ち上がる事ができない
(9)菓の自己管理を普段から行っていますか	1. 行っている 2. 行っていない 3. 菓は飲んでいない
(10)医師や看護師、介護士に自分の訴えを的確に伝えることができますか	1. 的確に伝えることができる 2. ある程度伝えることができる 3. できない
(11)夜間はよく眠っていますか	1. よく眠れている 2. あまり眠れていない(不眠の訴えあり) 3. 全く眠れていない(実際に不眠である)
(12)日中も寝ていますか	1. 日中は起きています 2. 日中、短時間以上寝ている(2時間未満) 3. 日中も2時間以上寝ている
(13)施設入所や在宅復帰と言った環境の変化に問題なく対応出来ましたか	1. 対応できている 2. あまり対応できていない 3. 全く対応できていない
(14)普段から、他の利用者や近所の人に対する手伝いを行っていますか	1. 行っている 2. 行っていない

問8. ICF ステージングについて（別紙「IOF ステージングマニュアル」を参照の上ご記入ください。）

2. 基本動作	5	4	3	2	1		
3-a. 歩行・移動	5	4	3	2	1		
3-b. 移動手段	T字杖の利用			0. あり	1. なし		
	器具（短下肢器具等）			0. あり	1. なし		
	歩行器（ウォーカー、シニアカー等）の利用			0. あり	1. なし		
	しかみつき歩行器の利用（サークル歩行）			0. あり	1. なし		
	車椅子の利用			0. あり	1. なし		
リクライニング式車椅子の利用			0. あり	1. なし			
介助者や付添いの必要			0. あり	1. なし			
4-a. 認知機能（見当識）	5	4	3	2	1		
4-b. 認知機能（コミュニケーション）	5	4	3	2	1		
4-c. 認知機能（精神活動）	5	4	3	2	1		
A 群	世話を拒否する			0. あり	1. なし		
	不適切に泣いたり笑ったりする			0. あり	1. なし		
	興奮して手足を動かす			0. あり	1. なし		
	理由なく金切り声を上げる			0. あり	1. なし		
	衣服や器物を破壊する			0. あり	1. なし		
4-d. 周辺症状	食物を投げる			0. あり	1. なし		
	食べ過ぎる			0. あり	1. なし		
	ダンスの全身を全部出す			0. あり	1. なし		
	日中屋外や屋内をうろつきまわる			0. あり	1. なし		
	昼間、寝てばかりいる			0. あり	1. なし		
同じことを何度も聞く			0. あり	1. なし			
尿失禁する			0. あり	1. なし			
5-a. 食事（嚥下機能）	5	4	3	2	1		
5-b. 食事（食事動作及び食事介助）	5	4	3	2	1		
5-c. 食事形態	現在の主食形態	1. 米飯	2. 軟飯	3. 全粥	4. 7分粥-重湯	5. その他	
	現在の副食形態	3. 常菜	2. 軟菜	3. さみ	4. ミキサー	5. パース・ムース	6. その他
	6-a. 排泄の動作	5	4	3	2	1	
6-b. 補助具・器具の使用状況と、尿意の意識	ポータブルトイレの使用			0. あり	1. なし		
	尿カテーテルの使用			0. あり	1. なし		
	人工肛門の使用			0. あり	1. なし		
	おむつの使用			0. あり	1. なし		
	尿意を意識することができるか			0. できる	1. できない		
便意を意識することができるか			0. できる	1. できない			
7-a. 入浴動作	5	4	3	2	1		
7-b. 入浴手段	1. 一般浴	2. 介助浴	3. 座っての機械浴	4. 臥位での機械浴（特殊浴）			
8-a. 整容（口腔ケア）	5	4	3	2	1		
8-b. 整容（整容）	5	4	3	2	1		
8-c. 整容（衣服の着脱）	5	4	3	2	1		
9-a. 社会参加（余暇）	5	4	3	2	1		
9-b. 社会参加（社会交流）	5	4	3	2	1		

問1. 記入者について(空欄にご記入ください。)

(1)事業所類型	1. 居宅介護支援事業所	2. 老健施設
(2)事業所名		
(3)住所と電話番号		
(4)担当介護支援専門員名		

問2. 調査対象者の状況等について(それぞれ、番号を一つ選んで○)

(1)要介護度	1. 要介護1 5. 要介護5	2. 要介護2	3. 要介護3	4. 要介護4
(2)障害自立度	1. J1 5. B1	2. J2 6. B2	3. A1 7. C1	4. A2 8. C2
(3)認知症自立度	1. 非該当 5. IIIa	2. I 6. IIIb	3. IIa 7. IV	4. IIb 8. M
(4)世帯構成	1. 単身 2. 高齢夫婦 3. 同居 (4)-1. 日中独居の有無 高齢夫婦もしくは同居の場合、日中独居ですか(1. はい 2. いいえ)			

問3. 直近の1ヶ月間に利用した介護サービス等(あてはまるもの全てに○)

(1)介護保険サービス	1. 訪問介護 3. 訪問看護 5. 居宅療養管理指導 7. 通所リハビリテーション 9. 福祉用具貸与 11. 特定福祉用具販売 13. 夜間対応型訪問介護 15. 従前の老健施設へ入所(ショートステイを除く)(利用日数 日間)	2. 訪問入浴介護 4. 訪問リハビリテーション 6. 通所介護 8. 短期入所生活介護(利用期間 日間) 10. 短期入所療養介護(利用期間 日間) 12. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 14. 認知症対応型通所介護	16. その他( )
(2)自治体等が実施しているインフォーマルサービス	(該当ある場合は下記に具体的なサービス名をご記入ください)		

# 第4回調査

○調査対象者の老健施設退所後1ヶ月後の状況をご記入ください。

○居宅の介護支援専門員をご記入ください。

⇒従前入所していた老健施設に再入所した場合は、第1回～2回を記入した介護支援専門員にお渡しください。

⇒第4回調査が終了しましたら、事務局まで調査票をご送付ください

(必切12/15(月))

⇒調査票をご提出して頂く前に、第5回調査票に利用者IDが記載されているかご確認をお願い致します。

※以下の事由などにより調査が継続できない場合は、下記にお答えのうえ、回答用紙をご返送ください。

(なお、その他については具体的な理由をご記入ください)

<調査中断理由>

入院 ・ 従前入所の老健施設以外の介護施設への入所 ・ 転居 ・  
死亡 ・ その他 ( )

「従前入所の老健施設以外の介護施設」には、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護、特定施設入居者生活介護、地域密着型特定施設入居者生活介護、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護等を含みます。

※ 調査票提出〆切 12/15(月)

問4. 調査対象者の日常関連動作 ( I ADL ) について (それぞれ、番号を一つ選んで○)

(1)食事機能 (準備)	1. 食事の準備は自分で行っている 3. 食事の準備は自分で行っていない	2. 食事の準備は手伝っている
(2)食事機能 (片付け)	1. 食事後の後片付けは自分で行っている 3. 食事後の後片付けは自分で行っていない	2. 食事後の後片付けは手伝っている
(3)生活機能 (買い物)	1. 買い物は自分で行っている 3. 買い物は自分で行っていない	2. 買い物は家族と一緒にに行っている
(4)生活機能 (掃除・洗濯)	1. 掃除・洗濯を自分で行っている 3. 掃除・洗濯を自分で行っていない	2. 掃除・洗濯を手伝っている
(5)生活機能 (ゴミ出し)	1. ゴミ出しは自分で行っている 3. ゴミ出しは自分で行っていない	2. ゴミ出しは手伝っている
(6)自己管理 (お金)	1. お金の管理は自分で行っている 3. お金の管理は自分で行っていない	2. お金の管理は一部自分で行っている
(7)自己管理 (電話)	1. 電話は自分で対応している 3. 電話は自分で対応していない	2. 電話は家族がいないときは対応
(8)自己管理 (郵便・書類)	1. 郵便・書類は自分で管理している 3. 郵便・書類は自分で管理していない	2. 郵便・書類は一部自分で管理している
(9)自己管理 (火の元)	1. 火の元は自分で管理している 3. 火の元は自分で管理していない	2. 火の元は一部自分で管理している
(10)社会機能 (交通手段)	1. 一人で交通手段を使って外出している 3. 交通手段は利用していない	2. 介助者と交通手段を使って外出している
(11)社会機能 (散歩)	1. 一人で散歩などに出掛けている 3. 散歩などには出掛けない	2. 介助者と一緒に散歩などに出掛けている

問5. 意欲の指標について (それぞれ、番号を一つ選んで○)

(1)起床	1. いつも定時に起床している 3. 自分から起床することがない	2. 起こさないと起床しないことがある
(2)意思疎通	1. 自分から挨拶する、話しかける 3. 反応がない	2. 挨拶、呼びかけに対し返答や笑顔がみられる
(3)食事	1. 自分で進んで食べようとする 3. 食事に関心がない、全く食べようとしな	2. 促されると食べようとする
(4)排泄	1. いつも自ら便意を伝える、あるいは自分で排便、排尿を行う 2. 時々尿意、便意を伝える	3. 排泄に全く関心がない
(5)リハビリ、活動	1. 自らリハビリに向かう、活動を求める 2. 促されて向かう	3. 拒否、無関心

※リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。意たぎりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する  
※除外規定：意識障害、高度の臓器障害、急性疾患 (肺炎など発熱) がある場合

問6. 疼痛評価項目について (本人が痛みを伝えられない場合は、家族等への聞き取りのうえ、ご記入ください)

(1)典型的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(2)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(3)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(4)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(5)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(6)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(7)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(8)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(9)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(10)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(11)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(12)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(13)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(14)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(15)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(16)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(17)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(18)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(19)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(20)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(21)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(22)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(23)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(24)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(25)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(26)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(27)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(28)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(29)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(30)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(31)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(32)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(33)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(34)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(35)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(36)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(37)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(38)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(39)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(40)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(41)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(42)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(43)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(44)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(45)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(46)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(47)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(48)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(49)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(50)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(51)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(52)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(53)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(54)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(55)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(56)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(57)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(58)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(59)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(60)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(61)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(62)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(63)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(64)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(65)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(66)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(67)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(68)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(69)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(70)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(71)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(72)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(73)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(74)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(75)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(76)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(77)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(78)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(79)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(80)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(81)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(82)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(83)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(84)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(85)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(86)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(87)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(88)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(89)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(90)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(91)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(92)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(93)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(94)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(95)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(96)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(97)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(98)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(99)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし
(100)定期的な痛みの有無	1. 痛みあり 2. 痛みなし

※「その他の注射」には、皮下、筋肉、神経ブロック注射を含みます。また、「経皮外用薬」には、軟膏、パッチ剤等を含みます。  
 (説明) ■NSAIDs (非ステロイド性抗炎症薬) とは、抗炎症作用、鎮痛作用、解熱作用を有する薬剤の総称です。広義にはステロイドではない抗炎症薬すべてを含み、一般的には、疼痛、発熱の治療に使用される“解熱鎮痛薬”とほぼ同義語として用いられています。代表的な NSAIDs としては、アスピリン (バファリンなど)、ロキソプロフェン (ロキソニン)、シクロオキシゲナーゼ (ホルタレン) などがあります。  
 ■麻薬性製剤とは、体内のオピオイド受容体に結合し鎮痛効果を表す薬剤で、我が国で使用できるものとしては、モルヒネ (MS コンチン、カプテンなど)、オキシコドン (オキソコンチン、オキソームなど)、フエンタニール (デュロップMT パッチなど) があります。また、非麻薬性製剤は、麻薬性製剤に比べ鎮痛効果は弱いものの、麻薬性製剤と同様の働きをします。代表的な非麻薬性製剤としては、コデイン (リン酸コデイン)、リン酸ジヒドロコデインなど、トラマゾール (トラマール、トラムセットなど) があります。

問6で、「1. 痛みあり」を選択された場合には以下の設問にもご回答ください。

(4)各項目について調査対象者の体動時に状態を観察し、ご回答ください。

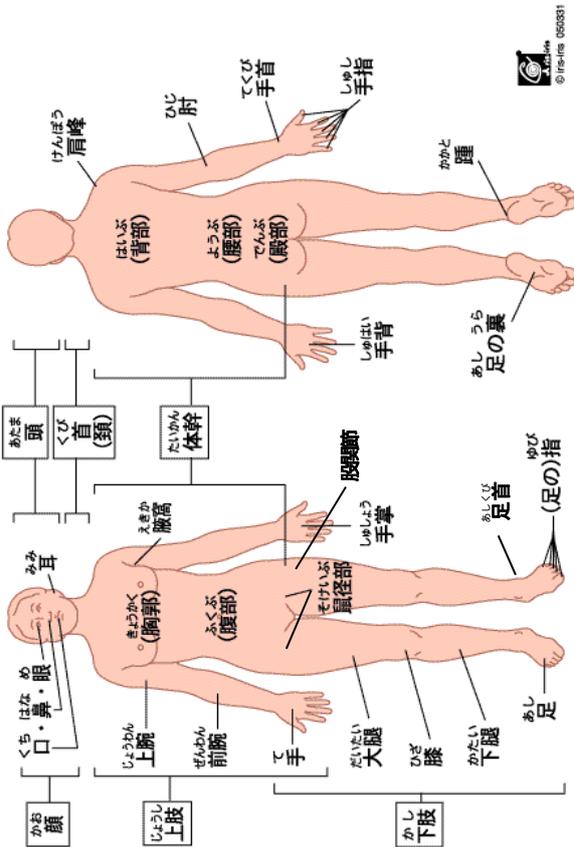
①攻撃的になる (屈気が荒くなる)	1. 症状なし	2. 症状あり
②落ち着きなくなる	1. 症状なし	2. 症状あり
③顔をゆがめる (眉間に皺をよせる、口元をゆがめる、歯をくいしばる)	1. 症状なし	2. 症状あり
④不安そうな顔をする	1. 症状なし	2. 症状あり
⑤泣き声を上げる・大声を上げる	1. 症状なし	2. 症状あり
⑥体を丸める・体に触れると体を硬直させる	1. 症状なし	2. 症状あり
⑦動作の変化がみられる	1. 症状なし	2. 症状あり
⑧体の一部・患部をさす様な動作をする	1. 症状なし	2. 症状あり
⑨顔色の変化 (蒼白、紅潮など)	1. 症状なし	2. 症状あり

問6で、「1. 痛みあり」を選択された場合には以下の設問にもご回答ください。

(5)慢性疼痛の疼痛部位について、最も痛みが強い部位一か所のコード番号を、下記人体図の各部位の名称を参考にして、下記から選んで記載してください。

最も痛みが強い部位の番号 ( ) ← 下記からコード番号を一つだけ選んで記入

■人体の各部位の名称



部位	コード番号
1 頭(頭部)	10
2 首(頸)	11
3 顔(顔全体)	12
4 眼	13
5 鼻	14
6 口(歯・歯茎・舌)	15
7 耳	16
8 上腕	17
9 前腕	18
10 手(手全体)	19
11 手背(手のひら)	20
12 腕(腕)	21
13 肘	22
14 手首(手関節)	23
15 手指(手の甲)	24
16 大腕	25
17 膝	26
18 下腕	27
28 足(足の甲)	28
29 足の裏(足底)	29
30 踵	30
31 足首(足関節)	31
32 股関節	32
33 上肢(上肢全体)	33
34 下肢(下肢全体)	34
35 体幹	35
36 全身	36

問7. ICFに基づく新指標について(それぞれ、番号を一つ選んで○)

(1)喜怒哀楽を普段から言語または身振りなどで表現していますか	1. 表現していない 2. 身振りの表現のみ 3. 言語のみでの表現 4. 言語と身振り両方で表現
(2)活力が満ちあふれていると思えますか(満ち溢れているように見えますか)	1. 満ち溢れていると思う 2. そうは思わない
(3)地域社会においてボランティア活動その他の事業に参加していますか	1. 参加していない 2. 無償の活動に参加している 3. 有償の活動に参加している 4. 有償無償両方の活動に参加している
(4)軽い運動、体操を1週間に何日ぐらいしていますか	1. 毎日 2. 5~6日 3. 2~4日 4. 1日以下 5. 運動・体操はしていない
(5)定期的な運動・スポーツを、1週間に何日ぐらいしていますか	1. 毎日 2. 5~6日 3. 2~4日 4. 1日以下 5. 運動・スポーツはしていない
(6)何分間程度連続して歩行が可能ですか	1. 6分以上歩行可能 2. 2~5分程度は歩行可能 3. 2分未満は歩行可能 4. 全く歩行できない(または、移動は車イスのみ)
(7)関節の可動性についてお答えください	1. 膝関節は疼痛や制限なく動く 2. 膝関節は動くが疼痛がある 3. 膝関節は動きに制限があるが疼痛はない 4. 膝関節は動かない
(8)椅子から手や腕を使わずに立ち上がることはできますか	1. 何回も繰り返して問題なくできる 2. 1回であれば問題なくできる 3. 1回は、問題はあるが何とかできる 4. 立ち上がることはできない
(9)菓の自己管理を普段から行っていますか	1. 行っている 2. 行っていない 3. 菓は飲んでいない
(10)医師や看護師、介護士に自分の訴えを的確に伝えることができますか	1. 的確に伝えることができる 2. ある程度伝えることができる 3. できない
(11)夜間はよく眠っていますか	1. よく眠れている 2. あまり眠れていない(不眠の訴えあり) 3. 全く眠れていない(実際に不眠である)
(12)日中も寝ていますか	1. 日中は起きています 2. 日中、短時間寝ている(2時間未満) 3. 日中も2時間以上寝ている
(13)施設入所や在宅復帰と言った環境の変化に問題なく対応出来ましたか	1. 対応できている 2. あまり対応できていない 3. 全く対応できていない
(14)普段から、他の利用者や近所の人に対しての手伝いを行っていますか	1. 行っている 2. 行っていない

問8. ICF ステージングについて (別紙「ICF ステージングマニュアル」を参照の上ご記入ください。)

2. 基本動作	5	4	3	2	1			
3-a. 歩行・移動	5	4	3	2	1			
3-b. 移動手段	T字杖の利用			0. あり	1. なし			
	装具 (短下肢装具等)			0. あり	1. なし			
	歩行器 (ウォーカー、シニアカー等) の利用			0. あり	1. なし			
	しかみつき歩行器の利用 (サークル歩行)			0. あり	1. なし			
	車椅子の利用			0. あり	1. なし			
4-d. 周辺症状	リクライニング式車椅子の利用			0. あり	1. なし			
	介助者や付添いの必要			0. あり	1. なし			
4-a. 認知機能 (見当識)	5	4	3	2	1			
4-b. 認知機能 (コミュニケーション)	5	4	3	2	1			
4-c. 認知機能 (精神活動)	5	4	3	2	1			
A 群	世話を拒否する			0. あり	1. なし			
	不適切に泣いたり笑ったりする			0. あり	1. なし			
	興奮して手足を動かす			0. あり	1. なし			
	理由なく金切り声を上げる			0. あり	1. なし			
	衣服や器物を破壊する			0. あり	1. なし			
	食物を投げる			0. あり	1. なし			
	食べ過ぎる			0. あり	1. なし			
	タンスの中身を全部出す			0. あり	1. なし			
	日中屋外や屋内をうろつきまわる			0. あり	1. なし			
	昼間、寝てばかりいる			0. あり	1. なし			
B 群	同じことを何度も聞く			0. あり	1. なし			
	尿失禁する			0. あり	1. なし			
	5-a. 食事 (嚥下機能)	5	4	3	2	1		
	5-b. 食事 (食事動作及び食事介助)	5	4	3	2	1		
	5-c. 食事形態	現在の主食形態	1. 米飯	2. 軟飯	3. 全粥	4. 7分粥+重湯	5. その他	
		現在の副食形態	4. 常菜	2. 軟菜	3. まさみ	4. ミキサー	5. ハースト・ムース	6. その他
		6-a. 排泄の動作	5	4	3	2	1	
	6-b. 補助具・器具の使用状況と、尿意の意識	ポータブルトイレの使用			0. あり	1. なし		
		尿カテテルの使用			0. あり	1. なし		
		人工肛門の使用			0. あり	1. なし		
おむつの使用				0. あり	1. なし			
尿意を意識することができるか				0. できる	1. できない			
便意を意識することができるか			0. できる	1. できない				
7-a. 入浴動作	5	4	3	2	1			
7-b. 入浴手段	1. 一般浴	2. 介助浴	3. 座っての機械浴	4. 臥位での機械浴 (特殊浴)				
	5	4	3	2	1			
8-a. 整容 (口腔ケア)	5	4	3	2	1			
8-b. 整容 (整容)	5	4	3	2	1			
8-c. 整容 (衣服の着脱)	5	4	3	2	1			
9-a. 社会参加 (余暇)	5	4	3	2	1			
9-b. 社会参加 (社会交流)	5	4	3	2	1			

12/15 (月) 迄にご提出をお願い致します。第5回調査票表紙にも利用者IDが記載されているかご確認をお願いします。引き続き第5回調査にもご協力をお願いします。

平成26年度老人保健健康増進事業  
**介護老人保健施設退所者の  
 在宅療養支援に関する調査研究事業**

# 退所者生活機能調査票

【第5回調査】

退所前施設名	
所在地（都道府県）と 電話番号	
利用者ID	

**（第1回調査～第4回調査票の利用者IDを必ず転記してください）**

公益社団法人全国老人保健施設協会

本調査票は、下記の方を対象とします。

◆第1回調査時に介護老人保健施設の介護支援専門員がご記入ください。

退所（予定）日	平成	年	月	日
利用者氏名※				

※利用者氏名については、プライバシー保護の観点から、返送時に黒塗りにしてご提出ください。

## ～ 目 次 ～

調査実施要領.....	1
調査の流れ.....	2
第5回調査調査票.....	3

## 調査実施要項

### 1. 調査対象者

- ◆ 退所者生活機能調査は、介護老人保健施設（以下、老健施設）を平成26年10月1日～10月末に退所される（退所された）方を対象とします。

### 2. 調査票の記入者及び協力依頼について

- ◆ 調査は全5回実施します。
- ◆ 調査票は第1回から第4回調査までで一冊となり、第5回調査は別冊となります。
- ◆ 第1回及び第2回調査は、老健施設の介護支援専門員が実施していただいた後、その調査票を居宅の介護支援専門員にお渡しください。
- ◆ 第3回、第4回、及び第5回調査は、居宅の介護支援専門員に実施していただきます。
- ◆ 第2回までの老健施設において使用した調査票を居宅側の介護支援専門員がお受け取りいただき、第3回以降を、同じ調査票を用いて実施してください。
- ◆ 調査対象者の方が、入院や調査開始時に入所されていた施設以外への入所、転居、もしくは死亡された場合は、調査は中断となります。その際は、各回調査票の表紙にある「調査中断理由」にご記入いただき、ご返送ください。

※なお上記の場合においても、調査開始時に入所されていた老健施設へ再入所された場合のみ調査は継続しますので、老健施設の介護支援専門員に全ての調査票をお渡しくください。

- ◆ 調査票の記入方法がわからない場合は、下記「4. 問い合わせ先」までご相談ください。

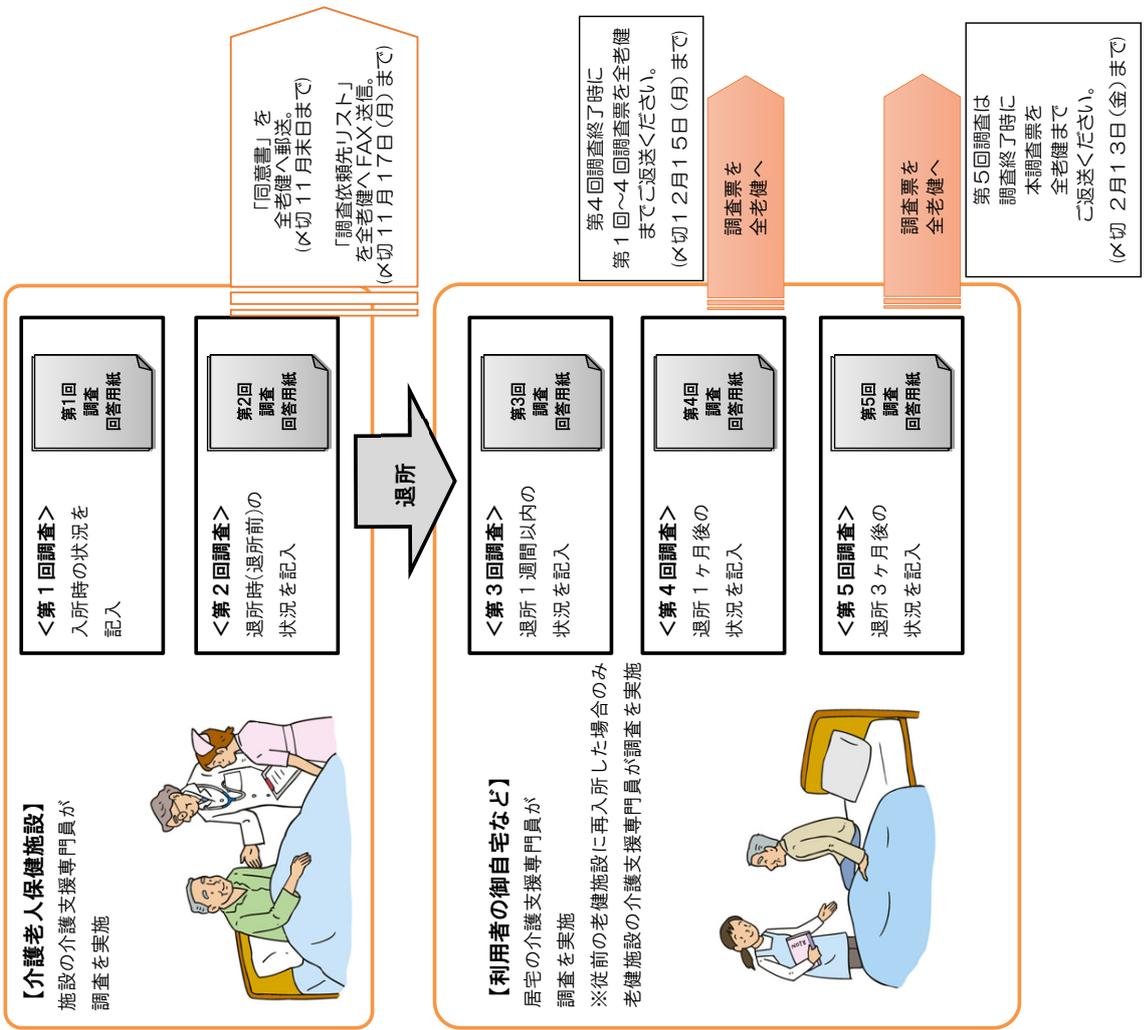
### 3. 回答紙の提出

- ◆ ご記入いただいた調査回答紙は、一緒にお渡しいました封筒に入れ、直接老健施設にご返送ください。
- ◆ 第1回調査から第4回調査までは、第4回調査終了時にご返送ください。  
（※切12/15（月））
- ◆ 第5回調査は、調査終了時にご返送ください。（※切2/13（金））

### 4. 問い合わせ先

公益社団法人全国老人保健施設協会 業務部 業務第一課  
〒105-0014 東京都港区芝2-1-28 成旺ビル7階  
TEL：03-3455-4165 / FAX：03-3455-4172  
ホームページ：http://www.roken.or.jp メールアドレス：research@roken.or.jp

ご参考：調査の流れ



# 第5回調査

○調査対象者の老健施設退所後3ヶ月後の状況をご記入ください。

○居室の介護支援専門員がご記入ください。

⇒従前入所していた老健施設に再入所した場合は、第1回～2回を記入した介護支援専門員にお渡しください。

※以下の事由などにより調査が継続できない場合は、下記にお答えのうえ、回答用紙をご返送ください。

(なお、その他については具体的な理由をご記入ください)

＜調査中断理由＞

- 入院 ・ 従前入所の老健施設以外の介護施設への入所 ・ 転居 ・
- 死亡 ・ その他 ( )

「従前入所の老健施設以外の介護施設」には、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護、特定施設入居者生活介護、地域密着型特定施設入居者生活介護、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護等を含みます。

※調査票提出締切 2 / 1 3 (金)

第5回調査（退所3ヶ月後の状況調査）回答票

（記入日：平成 年 月 日）

問1. 記入者について（空欄にご記入ください。）

(1)事業所類型	1. 居宅介護支援事業所	2. 老健施設
(2)事業所名		
(3)住所と電話番号		
(4)担当介護支援専門員名		

問2. 調査対象者の状況等について（それぞれ、番号を一つ選んで○）

(1)要介護度	1. 要介護1	2. 要介護2	3. 要介護3	4. 要介護4
(2)障害自立度	1. J1	2. J2	3. A1	4. A2
(3)認知症自立度	5. B1	6. B2	7. C1	8. C2
(4)世帯構成	1. 非該当	2. I	3. II a	4. II b
	5. III a	6. III b	7. IV	8. M
(4)-1. 日中独居の有無	1. 単身	2. 高齢夫婦	3. 同居	
	高齢夫婦もしくは同居の場合、日中独居ですか（1. はい 2. いいえ）			

問3. 直近の1ヶ月間に利用した介護サービス等（あてはまるもの全てに○）

(1)介護保険サービス	1. 訪問介護 2. 訪問入浴介護 3. 訪問看護 4. 訪問リハビリテーション 5. 居宅療養管理指導 6. 通所介護 7. 通所リハビリテーション 8. 短期入所生活介護（利用期間 日間） 9. 福祉用具貸与 10. 短期入所療養介護（利用期間 日間） 11. 特定福祉用具販売 12. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 13. 夜間対応型訪問介護 14. 認知症対応型通所介護 15. 従前の老健施設へ入所（ショートステイを除く）（利用日数 日間） 16. その他（ ）
(2)自治体等が実施している インフォーマルサービス	(該当する場合は下記に具体的なサービス名をご記入ください)

問4. 調査対象者の日常関連動作（IADL）について（それぞれ、番号を一つ選んで○）

(1)食事機能 (準備)	1. 食事の準備は自分でやっている 2. 食事の準備は手伝っている 3. 食事の準備は自分でやっていない
(2)食事機能 (片付け)	1. 食事の後片付けは自分でやっている 2. 食事の後片付けは手伝っている 3. 食事の後片付けは自分でやっていない
(3)生活機能 (買い物)	1. 買い物は自分でやっている 2. 買い物は家族と一緒にやっている 3. 買い物は自分でやっていない
(4)生活機能 (掃除・洗濯)	1. 掃除・洗濯を自分でやっている 2. 掃除・洗濯を手伝っている 3. 掃除・洗濯を自分でやっていない
(5)生活機能 (ゴミ出し)	1. ゴミ出しは自分でやっている 2. ゴミ出しは手伝っている 3. ゴミ出しは自分でやっていない
(6)自己管理 (お金)	1. お金の管理は自分でやっている 2. お金の管理は一部自分でやっている 3. お金の管理は自分でやっていない
(7)自己管理 (電話)	1. 電話は自分で対応している 2. 電話は家族がいなくとも対応している 3. 電話は自分で対応していない
(8)自己管理 (郵便・書類)	1. 郵便・書類は自分で管理している 2. 郵便・書類は一部自分で管理している 3. 郵便・書類は自分で管理していない
(9)自己管理 (火の元)	1. 火の元は自分で管理している 2. 火の元は一部自分で管理している 3. 火の元は自分で管理していない
(10)社会機能 (交通手段)	1. 一人で交通手段を使って外出している 2. 介助者と交通手段を使って外出している 3. 交通手段は利用していない
(11)社会機能 (散歩)	1. 一人で散歩などに外出している 2. 介助者と一緒に散歩などに外出している 3. 散歩などには外出しない

問5. 意欲の指標について（それぞれ、番号を一つ選んで○）

(1)起床	1. いつも定時に起床している 2. 起こさないと起床しないことがある 3. 自分から起床することがない ※薬剤の影響（睡眠薬など）を除く。起床できない場合、開眼し覚醒していれば1に○
(2)意思疎通	1. 自分から挨拶する、話しかける 2. 挨拶、呼びかけに対し返答や笑顔がみられる 3. 反応がない ※失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい
(3)食事	1. 自分で進んで食べようとする 2. 促されると食べようとする 3. 食事に関心がない、全く食べようとしていない ※器質的消化器疾患を除く。麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば（口まで運んでやった場合も積極的に食べようとする）1に○
(4)排泄	1. いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排便、排尿を行う 2. 時々尿意、便意を伝える 3. 排泄に全く関心がない ※失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば1に○
(6)リハビリ、活動	1. 自らリハビリに向かう、活動を求める 2. 促されて向かう 3. 拒否、無関心 ※リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。履たきりの場合、愛動的理学運動に対する反応で判 定する ※除外規定：意識障害、高度の臓器障害、急性疾患（肺炎など発熱）がある場合

問6. 疼痛評価項目について (本人が痛みを伝えられない場合は、家族等への聞き取りのうえ、ご記入ください)

①慢性的な痛みの有無	1. 痛みあり	2. 痛みなし
②定期処方(注射)されている鎮痛剤	1. NSAIDs	2. (非)麻薬性製剤
③その他注射	1. NSAIDs	2. (非)麻薬性製剤
④坐薬	1. NSAIDs	2. (非)麻薬性製剤
⑤経皮外用薬	1. NSAIDs	2. (非)麻薬性製剤
⑥その他	ありの場合記入 ( )	
①経口内服	1. NSAIDs	2. (非)麻薬性製剤
②静脈注射	1. NSAIDs	2. (非)麻薬性製剤
③その他注射	1. NSAIDs	2. (非)麻薬性製剤
④坐薬	1. NSAIDs	2. (非)麻薬性製剤
⑤経皮外用薬	1. NSAIDs	2. (非)麻薬性製剤
⑥その他	ありの場合記入 ( )	

※「その他の注射」には、皮下、筋肉、神経ブロック注射を含みます。また、「経皮外用薬」には、軟膏、パッチ剤等を含みます。  
 (説明) ■NSAIDs (非ステロイド性抗炎症薬) とは、抗炎症作用、鎮痛作用、解熱作用を有する薬剤の総称です。広義にはステロイドではない抗炎症薬すべてを含み、一般的には、疼痛、発熱の治療に使用される。“解熱鎮痛薬”とは同義語として用いられています。代表的なNSAIDsとしては、アスピリン (バファリンなど)、ロキソプロフェン (ロキソニン)、シクロオプレン (ボルタレン) などがあります。  
 ■麻薬性製剤とは、体内のオピオイド受容体に結合し鎮痛効果を表す薬剤で、我が国で使用できるものとしては、モルヒネ (MS コンチン、カティアンなど)、オキシコドン (オキシコドン、オキゾームなど)、フエンタニール (デュロップMT パッチなど) があります。また、非麻薬性製剤は、麻薬性製剤に比べ鎮痛効果は弱いものの、麻薬性製剤と同様の動きをします。代表的な非麻薬性製剤としては、コデイン (リン酸コデイン、リン酸ヒドロコデインなど)、トラマゾール (トラマール、トラムセットなど) があります。

問6で、「1. 痛みあり」を選択された場合には以下の設問にもご回答ください。

(4) 各項目について調査対象者の体動時に状態を観察し、ご回答ください。

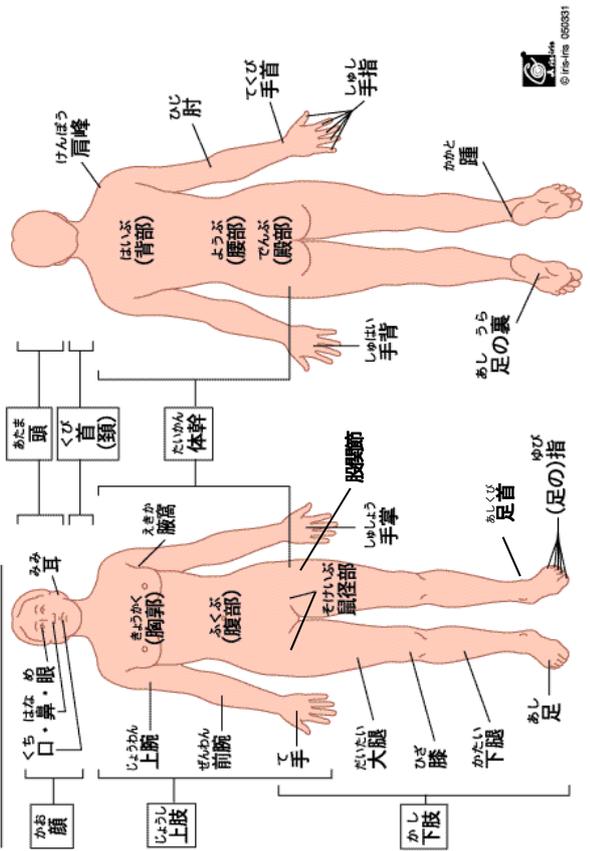
①攻撃的になる (語気が荒くなる、怒りっぽくなる)	1. 症状なし	2. 症状あり
②落ち着きがなくなる	1. 症状なし	2. 症状あり
③顔をゆがめる (眉間に皺をよせる、口元をゆがめる、歯をくいしばる)	1. 症状なし	2. 症状あり
④不安そうなる顔をする	1. 症状なし	2. 症状あり
⑤泣き声を上げる・大声を上げる	1. 症状なし	2. 症状あり
⑥体を丸める・体に触れると体を硬直させる	1. 症状なし	2. 症状あり
⑦動作の変化がみられる	1. 症状なし	2. 症状あり
⑧体の一部・患部をさする様な動作をする	1. 症状なし	2. 症状あり
⑨顔色の変化 (蒼白、紅潮など)	1. 症状なし	2. 症状あり

問6で、「1. 痛みあり」を選択された場合には以下の設問にもご回答ください。

(5) 慢性疼痛の疼痛部位について、最も痛みが強い部位一か所のコード番号を、下記人体図の各部位の名称を参考に、下記から選んで記載してください。

最も痛みが強い部位の番号 ( ) ← 下記からコード番号を一つだけ選んで記入

■人体の各部位の名称



疼痛部位コード番号表

1	頭(頭部)	10	手(手全体)	19	足(足の甲)	28	股部
2	首(頸)	11	手掌(手のひら)	20	足の指	29	足の裏(足底)
3	顔(顔全体)	12	腕(腕)	21	肩峰(肩)	30	踵
4	眼	13	胸郭(胸部)	22	肘	31	足首(足関節)
5	鼻	14	腰部	23	手首(手関節)	32	股関節
6	口(歯・歯茎・舌)	15	頸(頸部)	24	手指	33	上肢(上肢全体)
7	耳	16	大腿	25	手背(手の甲)	34	下肢(下肢全体)
8	上腕	17	膝	26	背部	35	体幹
9	前腕	18	下腿	27	腰部	36	全身

問7. ICFに基づく新指標について（それぞれ、番号を一つ選んで○）

(1) 喜怒哀楽を普段から言葉または身振りなどで表現していますか	1. 表現していない 3. 言葉のみでの表現	2. 身振りの表現のみ 4. 言語と身振り両方で表現
(2) 活力が落ちあふれていると思えますか（落ち溢れているように見えますか）	1. 落ち溢れていると思う 3. 2～4日 5. 運動・体操はしていない	2. そとは思わない 4. 1日以下
(3) 地域社会においてボランティア活動その他の事業に参加していますか	1. 参加していない 3. 有償の活動に参加している 5. 運動・スポーツはしていない	2. 無償の活動に参加している 4. 有償無償両方の活動に参加している
(4) 軽い運動、体操を1週間に何日くらいしていますか	1. 毎日 3. 2～4日 5. 運動・体操はしていない	2. 5～6日 4. 1日以下
(5) 定期的な運動・スポーツを、1週間に何日くらいしていますか	1. 毎日 3. 2～4日 5. 運動・スポーツはしていない	2. 5～6日 4. 1日以下
(6) 何分間程度連続して歩行が可能ですか	1. 6分以上歩行可能 3. 2分未満は歩行可能	2. 2～5分程度は歩行可能 4. 全く歩行できない(または、移動は車イスのみ)
(7) 関節の可動性についてお答えください	1. 膝関節は疼痛や制限なく動く 3. 膝関節は動きに制限があるが疼痛はない	2. 膝関節は動きが疼痛がある 4. 膝関節は動かない
(8) 椅子から手や腕を使わずに立ち上がる事ができますか	1. 何回も繰り返して問題なくできる 3. 1回は、問題はあるが何とかできる	2. 1回であれば問題なくできる 4. 立ち上がる事ができない
(9) 薬の自己管理を普段から行っていますか	1. 行っている 3. 薬は飲んでいない	2. 行っていない
(10) 医師や看護師、介護士に自分の訴えを的確に伝えることができますか	1. 的確に伝えることができる 3. できない	2. ある程度伝えることができる
(11) 夜間はよく眠っていますか	1. よく眠れている 3. 全く眠れていない(実際に不眠である)	2. あまり眠れていない(不眠の訴えあり)
(12) 日中も寝ていますか	1. 日中は起きています 3. 日中も2時間以上寝ている	2. 日中、短時間は寝ている(2時間未満)
(13) 施設入所や在宅復帰と言った環境の変化に問題なく対応出来ましたか	1. 対応できている 3. 全く対応できていない	2. あまり対応できていない
(14) 普段から、他の利用者や近所の人に対しての手伝いを行っていますか	1. 行っている 3. 行っていない	2. 行っていない

問8. ICFステージングについて（別紙「ICFステージングマニュアル」を参照の上ご記入ください。）

2. 基本動作	5	4	3	2	1	
3-a. 歩行・移動	5	4	3	2	1	
3-b. 移動手段	T字杖の利用			0. あり	1. なし	
	装具（短下肢装具等）			0. あり	1. なし	
	歩行器（ウォーカー、シニアカー等）の利用			0. あり	1. なし	
リクライニング式車椅子の利用	車椅子の利用			0. あり	1. なし	
	リクライニング式車椅子の利用			0. あり	1. なし	
	介助者や付添いの必要			0. あり	1. なし	
4-a. 認知機能（見当識）	5	4	3	2	1	
4-b. 認知機能（コミュニケーション）	5	4	3	2	1	
4-c. 認知機能（精神活動）	A群	世話を拒否する			0. あり	1. なし
		不適切に泣いたり笑ったりする			0. あり	1. なし
		興奮して手足を動かす			0. あり	1. なし
		理由なく金切り声を上げる			0. あり	1. なし
4-d. 周辺症状	B群	衣服や器物を破壊する			0. あり	1. なし
		食物を投げる			0. あり	1. なし
		食べ過ぎる			0. あり	1. なし
		タンスの中身を全部出す			0. あり	1. なし
5-a. 食事（嚥下機能）	現在的主食形態	日中屋外や屋内をうろつきまわる			0. あり	1. なし
		昼間、寝てばかりいる			0. あり	1. なし
		同じことを何度も聞く			0. あり	1. なし
		尿失禁する			0. あり	1. なし
5-b. 食事（食事動作及び食事介助）	5	4	3	2	1	
5-c. 食事形態	現在の副食形態	1. 米飯 2. 軟飯 3. 全粥 4. 7分粥・重湯 5. その他				
		1. 常菜 2. 軟菜 3. さみ 4. ミキサー 5. パース・ムース 6. その他				
6-a. 排泄の動作	5	4	3	2	1	
6-b. 補助具・器具の使用状況と、尿意の意識	尿意の意識	ポータブルトイレの使用			0. あり	1. なし
		尿カテーテルの使用			0. あり	1. なし
		人工肛門の使用			0. あり	1. なし
		おむつの使用			0. あり	1. なし
7-a. 入浴動作	7-b. 入浴手段	尿意を認識することができるか			0. できる	1. できない
		便意を認識することができるか			0. できる	1. できない
		1. 一般浴 2. 介助浴 3. 座っての機械浴 4. 臥位での機械浴（特殊浴）				
		5. 整容（口腔ケア）				
8-a. 整容（整容）	5	4	3	2	1	
8-b. 整容（衣服の着脱）	5	4	3	2	1	
9-a. 社会参加（余暇）	5	4	3	2	1	
9-b. 社会参加（社会交流）	5	4	3	2	1	

平成27年 2月 13日（金）迄にご提出をお願い致します。これにて本事業は終了です。

調査にご協力頂き、誠にありがとうございました。

# 新全老健版ケアマネジメント方式 ～R4システム～

## R4システム版

## ICF ステージング マニュアル

Ver: Dec. 2013

### 《R4システム版 ICF ステージングについて》

R4システムの目玉のひとつは、「利用者の状態像の微妙な変化のキャッチ」である。利用者の機能評価には様々な指標があるが、あまりに複雑なものばかりでは実際の現場では使用できない。今回、全国老人保健施設協会（以下、全老健）では「利用者の個別特性と時系列的状態像の指標（機能評価とコーディング）に関する研究事業」が実を結び、簡潔かつ明瞭な利用者の状態像を手チェックできる指標が完成した。これによって、実際に提供されたケアの効果がどうだったのか、また作成されたケアプランの善し悪しが評価できることになる。つまり、モニタリングの最適な指標となるものを導入することができたのである。ここでは、このR4システム版ICFステージングの評価方法を提示する。

### 《R4システム版 ICF ステージングの概略》

R4システムのアセスメント手法は、利用者の状態のうち、普段行っているものも難しいICFステージングの動作を選択する方法である。たとえば「歩行・移動」のスケールでは、より難易度の高いのは、交通機関での移動であり、ついで階段昇降、安定した歩行、そして施設内での安定した移動のうち、一番難易度が高いものを選ぶことになり、そのステージを記入する。例えば、「歩行・移動」のスケールの場合、普段階段昇降を行っているが、公共交通機関を利用していない、という場合は、ステージが4となる。この時の判断は、「普段から行っているかどうか？」であり、「出来るかどうか？」ではない。WHOのICFの場合、「行っているかどうか？」を実行状況（Performance）と呼ぶ。一方「出来るかどうか？」は能力（Capacity）と呼ぶ。全老健のアセスメントは、行っているかどうか、すなわち実行状況に基づいている。

なお、以下の調査にあたって、調査の順番は特に定めていない。利用者やそのご家族が、普段困っていることから、聞き取り、あるいは観察に基づいて状態の評価を行っていたいただきたい。

### 《注意事項》アセスメント状況の逆転現象について

全老健のアセスメント指標の難易度の順番は、統計学的に確率に基づいて定めたものです。確率により必ずこの順番になっているとは限らない。一定の確率で、この順番にならない場合がある。この「歩行・移動」のスケールを例にとっても、例えば、歩行は出来るが、階段の昇り降りは出来ない、しかし、バス（ステップ付き）の昇降はできるといった場合である。

このような時の評価の考え方は、普段から行っている一番高い指標をアセスメント結果とし、さらに、途中の状況を行っていないことを特記するのが良いと考える。

## 公益社団法人全国老人保健施設協会

※ICFステージング：当初「ICFレベルアセスメント」としていたが、英文論文\*の採択を機に「ICFステージング」と名称を変更し、統一したものである。

\* Okochi, Jiro, Tai Takahashi, Kiyoshi Takamuku and Reuben Escorpizo (2013) "Staging of mobility, transfer and walking functions of elderly persons based on the codes of the International Classification of Functioning, Disability and Health, BMC Geriatrics, Vol.13.

## 《各アセスメント項目の評価方法》

### 1. 医療のアセスメント

ケアプランにおける医療のアセスメントは、利用者の診断名を記入する。この際に、老健施設におけるケアの人間や、利用者の今後の状態に影響すると考えられる疾患を、特にここに記入する。たとえばインスリンを使用している糖尿病、悪性腫瘍などが該当する。認知症も同様であるが、もしわかる場合は認知症のタイプ(アルツハイマー等)も記入する。

### 2. 基本動作\*

基本動作については、移動状況ではなく、同じ場所で行っている動作について評価する。歩行状態は、この指標では評価していない。

なお、視力障害者で、付き添いが必要な場合は、歩行状態や外出状況に基づいて、そのステージの行為を行っているかどうかで判断する。認知症の行動障害への見守りも、歩行機能に対する見守りでなければ、歩行動作のみを評価する。

	ステージ	状態	状態のイメージ
立位の保持	5	両足の立位の保持を行っている。	
	4	立位の保持は行っていないが、座位での乗り移りは行っている。	
座位での乗り移り	3	座位での乗り移りは行っていないが、座位(端座位)の保持は行っている。	
	2	座位(端座位)の保持は行っていないが、寝返りは行っている。	
寝返り	1	寝返りをすること(つかまらず)・つかまらずに腕から寝返りは行っていない。	

※「状態判定」は基本的の上から下に難易度ステージ(高一低)を設定している。

## ＜基本動作のスケール 判定基準＞

### 【ステージ5の判断】

一定の時間(3分間程度)つかまらずに立位を保っている場合は、ステージ5と判断する。リハビリテーション室など特殊な状況で、監視下でのみ行っている場合は、ステージ5と判断せず、ステージ4とする。

### 【ステージ4の判断】

ステージ4は、立位の保持は行っていないが、いすや車いすの間や、いすとベッドの間の移乗をふだんから行っている場合である。それよりもやや難易度の高い立位からベッドへの移乗を行っている場合は、立位保持の状態でステージ5かどうか、で判断する。

### 【ステージ3の判断】

座位での移乗は行っていないが、背もたれがない状態の座位保持を行っている場合は、ステージ3である。いわゆる端座位である。リハビリテーション実施時のみ、監視下で行える場合はステージ2と判断する。

### 【ステージ2の判断】

端座位も、座位での移乗も行えず、床上での寝返りを行っている場合が、ステージ2となる。円背や亀背などで、寝返りが行えなくても、たとえば座位での移乗を行っている場合は、ステージ4となる。その他の状態と併せて判断する。

### 【ステージ1の判断】

寝返りをふだんから行っておらず、体位変換を他者に頼っている場合がステージ1である。

### 3-a. 歩行・移動\*

歩行・移動に関して、ふだん行っている最もステージの高い活動を選択する。  
 ふだん歩行や移動の際に使用している補助具があるかどうか、事前に知っておくことも必要である。補助具から使用者の状態を想定しておくことができるため、調査が容易になる。

また、視力障害者で付き添いが必要な場合は、歩行状態や外出状況に基づいて、そのステージの行為を行っているかどうかで判断する。認知症の周辺症状への見守りも、歩行機能に対する見守りであれば、歩行動作のみを評価する。

外出状況	ステージ	状態	状態のイメージ
公共交通機関（バス・JR・飛行機等）を利用して外出する（杖等の補助具の使用の有無は問わない）。	5	公共交通機関等を利用した外出を行っている。	
階段を5段以上「手すりに頼り身乗り降りする」こと。	4	公共交通機関等を利用した外出は行っていないが、手すりに頼りながら安定した階段の昇り降を行っている。	
安定した歩行をすること（杖と装具の双方を用いてもかまわない）。	3	手すりに頼らぬ安定した階段の昇り降は行っていないが、杖や歩行器などの安定した歩行を行っている。	
施設内で居室から別の部屋へと移動すること（車椅子など移動手段は問わない）。	2	安定した歩行は行っていないが、施設内の移動を行っている。	
	1	施設内の移動を行っていない。	

※「状態判定」は基本的の上から下に難易度ステージ（高→低）を設定している。

### ＜歩行・移動のスケール 判定基準＞

#### 【ステージ5の判断】

ふだんから公共交通機関を利用し、外出している場合である。例外的に、公共交通機関が近くないという事態が考えられる。そのような場合は、階段の昇り降りに加えて買い物などを自家用車等を用いて行っているような場合に、ステージ5と判断する。

#### 【ステージ4の判断】

1人で公共交通機関による外出はできないけれど、屋内の階段であれば5段程度自分で昇り降り、ふだんから行っている場合が該当する。リハビリテーション・実用実用などで一時的に、階段昇降を監視下で行っているような場合は、これには該当しない。

#### 【ステージ3の判断】

ステージ3は、階段は昇れないが、屋内平面は杖や装具を使用してでも歩いている場合である。判断に困るのは、施設内の手すりである。ここでは、“施設内の手すりは用いずに”歩いている場合としている。

#### 【ステージ2の判定】

安定した歩行は行っていないけれども、車いす、歩行器、手すりなどのすべての補助手段を用いて屋内平面の移動を行っている場合を、ステージ2と判断する。

#### 【ステージ1の判定】

車いすや、その他の移動手段を使っても、自分でふだんから施設内の平面の移動を行っていない場合は、ステージ1と判断する。

### 3-b. 移動手段

移動手段については、下記の項目の使用の有無で評価する。

	なし	あり
T字杖の利用	0	1
装具（短下肢装具等）	0	1
歩行器（ウォーカー、シニアカー等）の利用	0	1
しがみつき歩行器の利用（サークル歩行）	0	1
車椅子の利用	0	1
リクライニング式車椅子の利用	0	1
介助者や付き添いの必要	0	1

#### 4-a. 認知機能～オリエンテーション(見当識)※

この項目では、「できるかどうか」に焦点を当てて判断して欲しい。なぜなら、見当識は、ふだんの生活ではあまり明らかとならない活動内容について調査しているためである。

ここでは、利用者がどの程度の見当識を保っているか、より上のステージから確認する。この評価では、より高いステージの設問と、下位の設問の回答はできても、真ん中が回答できないという場合がある。その場合は、より上位のステージとして判断する。そのうえで、特記事項に、その状況を記入することが望ましい。

なお、以下は、認知機能の項目全体に共通する注意点である。

- ・ せん妄などにより、時間によって意識障害が変動するような場合は、意識状態が良好な時間の状態を基本として判断し、特記事項に意識状態の変化がある旨を記入する。
- ・ 聴覚障害や運動失語などで、言葉は理解するが表現できない場合は、言葉以外の表出によって判断してもかまわない。
- ・ 感覚失語などで、言葉を理解していない場合は「できない(わからない)」と判断する。

年月日	年月日がわかるか。	年月日	状態	ステージ	状態のイメージ
	わかる	1	年月日がわかる。	5	
	わからない	1			
		4	年月日はわからないが、現在いる場所の種類はわかる。	4	
	わかる	1			
	わからない	1			
		3	場所の名称や種類はわからないが、その場にいる人が誰かわかる。	3	
	わかる	1			
	わからない	1			
		2	その場にいる人が誰かわからないが、自分の名前がわかる。	2	
	わかる	1			
	わからない	1			
		1	自分の名前がわからない。	1	

※「状態判定」は基本的の上から下に難易度ステージ(高→低)を設定している。

#### <認知機能～オリエンテーション(見当識)のスケール 判定基準>

##### 【ステージ5の判断】

年月日がプラスマイナス1日の誤差でわかっているかどうかを確認する。日によって、わかったりわからなかったりする場合は、わかると判断してかまわない。

##### 【ステージ4の判断】

年月日がわからない場合、現在いる場所の種類がわかるかどうかで判断する。たとえば、自宅か、老健施設か、病院かの3つの選択肢を与えて、正確であればわかると判断する。

##### 【ステージ3の判断】

場所の種類がわからない場合、目の前でこの調査を行ったり、世話をしている人が、家族か、施設の職員か、あるいは友人かわかるかどうかである。家族、施設職員、友人の3つの選択肢を与えて、正確であればわかると判断する。

##### 【ステージ2の判断】

目の前の人が誰かわからない場合、自分の名前が言えるかどうかを判断する。

##### 【ステージ1の判断】

自分の名前が言えない場合が該当する。

#### 4-b. 認知機能～コミュニケーション※

この項目は、日常的な周囲の人の対応をふだんから「行っているかどうか」、行っている場合は、その際の言語活動の状態などをもとに判断する。

感覚失語などで、言葉を理解していない場合はステージ1、視覚障害により、書き言葉が理解できないが複雑な人間関係の理解保持ができる場合はステージ5と判断する。もし、複雑な人間関係の理解ができない場合は、日常会話の状態について判断する。

ステージ	状態	状態のイメージ
5	複雑な人間関係の保持 保っている ↑	
4	書き言葉の受容 理解している ↑	
3	日常会話 行っている ↑	
2	話し言葉の理解 理解している ↑	
1	複雑な人間関係の保持 保っていない ↓	

※「状態判定」は基本的の上から下に難易度ステージ(高→低)を設定している。

#### <認知機能～コミュニケーションのスケール 判定基準>

##### 【ステージ5の判断】

施設内で、他の利用者や、介護職員、医師などと、それぞれの役割を理解し、感情や衝動を抑え、トラブルを起さず生活できている場合を、ステージ5とする。

##### 【ステージ4の判断】

新聞や本などはもちろん、壁に張り出しているスケジュールや、各種の案内等を理解しているかどうかに基づいて判断する。

##### 【ステージ3の判断】

ふだんから、簡単な日常会話を、職員あるいは他の利用者で行っているかどうかに基づいて判断する。話を聞くだけでなく、自らも話をしている場合が、ステージ3である。

##### 【ステージ2の判断】

ふだん会話は成立しないが、職員や他の利用者の話は理解している場合は、ステージ2と判断する。

##### 【ステージ1の判断】

話し言葉の理解ができない場合が該当する。感覚失語等で言語が理解できない場合も、このステージになる。

#### 4-c. 認知機能～精神活動※

この項目も、見当識と同様、「できるかどうか」で判断する。この精神活動も、ふだん日常ではあまり明らかとならない活動内容について調査しているためである。

ステージ	状態	状態のイメージ
5	時間管理ができる。	
4	できる	↑
	できない	↓
3	できる	↑
	できない	↓
2	できる	↑
	できない	↓
1	なかった	↑
	あった	↓

※「状態判定」は基本的の上から下に難易度ステージ(高→低)を設定している。

#### <認知機能～精神活動のスケール 判定基準>

##### 【ステージ5の判断】

たとえば入浴や食事、リハビリの時刻になると、自らその準備をするなど、ふだんから時間を理解して、管理ができていくかどうかに基づいて判断する。

##### 【ステージ4の判断】

時間管理ができない場合に、単純な加算ができるかどうか、約7割程度正解できれば、できるとする。

##### 【ステージ3の判断】

簡単な算術計算ができない場合、長期記憶について聞き取りを行う。たとえば、最終学歴や、結婚など数十年前に起きたと考えられることについて、スムーズに記憶を再生することができるようであれば、ステージ3と判断する。

##### 【ステージ2の判断】

過去の自伝的な記憶について、正しく再生することができない場合、意識混濁があるかどうかに基づいて判断する。せん妄等で一時的な意識混濁があるかどうかは、ここでは判断せず、通常の利用者の状態と判断することとする。

##### 【ステージ1の判断】:

ステージ1の場合、せん妄や重度の認知症のため、意識混濁がある場合を含む。

#### 4-d. 周辺症状

周辺症状は、以下の2群に分け、「あり」「なし」で評価する。

A群は、比較的激しい周辺症状である。いわゆる陽性症状といってもよい。B群は比較的静かな周辺症状である。陰性症状といってもよい。このうちB群の合計点数は、長谷川式など短期記憶を中心としたアセスメントスケールと、比較的良好な相関があることがわかってい

	なし	あり
A群		
世話を拒否する	0	1
不適切に泣いたり笑ったりする	0	1
興奮して手足を動かす	0	1
理由なく金切り声をあげる	0	1
衣服や器物を破壊する	0	1
食物を投げる	0	1
食べ過ぎる	0	1
タンソの中身を全部出す	0	1
日中屋外や屋内をうろつきまわる	0	1
昼間、寝てばかりいる	0	1
同じことを何度も聞く	0	1
尿失禁する	0	1
B群		

### 5-a. 食事～嚥下機能※

食事については、「嚥下機能」と「食事動作」の2つに分けて判断する。状態が日によって異なる場合は、その中でもよりよい状態を基本として判断する。

状態	ステージ	状態	状態のイメージ
咬断 (固いもの)	5	肉などを含む普通の食事を、噛んで食べている。	
吸引	↑ 行っている	肉などを含む普通の食事を噛んで食べているが、ストローなどでむせむせずに飲むことができる。	
	↓ 行っていない	肉などを含む普通の食事を噛んで食べているが、ストローなどでむせむせずに飲むことができない。	
嚥下 (固形物)	3	むせむずに吸引することは行っていないが、固形物の嚥下は行っている。	
	↑ 行っている	噛んだ(口内でつぶした)あるいは柔らかくした食べ物(普通食、粥食、軟食等)を、ノドの奥まで運び、口の中にため込まず、飲み込むこと。	
↓ 行っていない	固形物の嚥下は行っていないが、嚥下食の嚥下は行っている。		
嚥下 (嚥下食)	↑ 行っている	嚥下をしやすいように処理した食べ物(ペースト食やゼリー食)をノドの奥まで運び、口の中にため込まず、飲み込むこと。	
	↓ 行っていない	嚥下食の嚥下は行っていない。(食べ物の嚥下は行っていない)。	

※「状態判定」は基本的の上から下に難易度ステージ(高→低)を設定している。

### <食事～嚥下機能のスケール 判断基準>

#### 【ステージ5の判断】

固めの食事(肉など)を含む普通の食事を、噛んで食べているかどうかを判断する。義歯(入れ歯)の使用の有無は問わない。もし、義歯が破損していて、最近では咬断を行っていないのであれば、この項目は「行っていない」と判断し、より下位のステージを選択することになる。ICFでは、「前歯で食物を噛み切る機能」のことを示しているが、ここでは、特に固めの食べ物を噛み切ることを判断基準としている。

#### 【ステージ4の判断】

ストロー、吸い飲み等を使用して水分・流動物をむせむせずに飲むことを、ふだんから行っているかどうかで判断する。もし、固いものは噛み切れなければ、やわらかいものを口の中で粉碎でき、かつ吸引ができるような場合はステージ4となる。

#### 【ステージ3の判断】

咬断や吸引はできないけれど、口の中に十分やわらかい食べ物を入れれば、飲み込みを行う場合がステージ3である。ICFでは、歯と舌によって食べ物を口の中で扱う機能を示しているが、ここでは、口腔内に食べ物を溜め込まず、嚥下を行っているかどうかで判断する。もし水分やとろみがついた食事のみ嚥下を行っている場合は、ステージ2と判断する。

#### 【ステージ2の判断】

やわらかいもののみ、口腔内に食べ物を溜め込まず、嚥下を行っているかどうかで判断する。嚥下食であれば飲み込みができる場合は、ステージ2と判断する。

#### 【ステージ1の判断】

やわらかいものであっても(たとえば嚥下食)飲み込みができず、ふだんから行っていない場合、あるいは、誤嚥の危険性が高く嚥下をおこなっていない場合は、ステージ1と判断する。胃ろうの使用は、ステージ1と判断する。

### 5-b. 食事～食事動作および食事介助※

食べるときに、どの程度の動作を自分でやっているか、あるいは、食べる動作を行っている際にどれほど介助が行われているかどうかを観察し、判断する。

		ステージ	状態	状態のイメージ
食べること	提供された食入物を、箸やフォーク等を使って、食べこぼしなく上手に食べること。	5	箸やフォークを使って食べこぼしせず、上手に食べることを行っている。	
	提供された食入物を、箸やフォーク等を使って、食べこぼしなく上手に食べること。	↑ 行っている ↓ 行っていない		
食べこぼし	提供された食入物を、“食べこぼしはあるが”、何とか自分で食べること。	4	箸やフォークを使って上手に食べることは行っていないが、食べこぼしは少なからず、何とか自分で食べることを行っている。	
	提供された食入物を、“食べこぼしはあるが”、何とか自分で食べること。	↑ 行っている ↓ 行っていない		
食事の際の特別なセッティング	姿勢や食入物の位置の調整、床高調補助具の準備をされて、自分で食べること。	3	自分で食べることを行っていないが、食事の際に特別なセッティングをすれば自分で食べることを行っている。	
	姿勢や食入物の位置の調整、床高調補助具の準備をされて、自分で食べること。	↑ 行っている ↓ 行っていない		
食事の際に直接的な介助(食べさせる)で食べること。(食事途中からの介助を含む)。	食事の際に直接的な介助(食べさせる)で食べること。(食事途中からの介助を含む)。	2	食事の際に特別なセッティングをしても自分で食べることを行っていないが、直接的な介助があれば食べることを行っている。	
	食事の際に直接的な介助(食べさせる)で食べること。(食事途中からの介助を含む)。	↑ 行っている ↓ 行っていない		
食事の直接介助	食事の際に直接的な介助(食べさせる)で食べること。(食事途中からの介助を含む)。	1	直接的な介助をしてもらって食べることを行っていない。(食べることを行っていない)。	
	食事の際に直接的な介助(食べさせる)で食べること。(食事途中からの介助を含む)。			

※「状態判定」は基本的の上から下に難易度ステージ(高→低)を設定している。

### <食事～食事動作および食事介助のスケール 判定基準>

#### 【ステージ5の判断】

ステージ5は、提供された食入物を箸やフォーク、スプーン、ナイフ等を使用して、上手に食べられているかどうかで判断する。食べこぼし等があったり、食入物を小さく加工したり工夫をして食べている場合は、ステージ5未満のいずれかとして判断する。もし、食べこぼし等があり、ふだんから介助により周囲をきれいに保っているような場合は、ステージ4と判断する。

#### 【ステージ4の判断】

提供された食入物を、食べこぼし等はあるが、なんとか自分で食べている場合は、ステージ4と判断する。

#### 【ステージ3の判断】

食事の際、本人の姿勢や食入物の位置の調整などが必要かどうかで判断する。皿の位置の工夫や、特別な補助具の準備などの特別なセッティングを行わなくても食べている場合は、ステージ4以上と判断し、それ以外は食べこぼしの状態などで判断する。もし、特別なセッティング(皿の位置の工夫や、特別な補助具の準備など)を行って食べている場合は、ステージ3と判断する。

#### 【ステージ2の判断】

食事の準備だけでなく、食べる動作にも介助も行っている場合は、ステージ2である。食事途中からの介助を含む。

#### 【ステージ1の判断】

食事の動作に対する直接介助を行っても食べることができない場合は、ステージ1と判断する。

#### 5-c. 食事形態

現在の食事形態について情報を収集しておき、特記事項に記入する。こうすれば栄養マネジメントにも有効である。

#### 記入例

現在の主食形態	1. 米飯 2. 軟飯 3. 全粥 4. 7分粥一重湯 5. その他 ( )
現在の副食形態	1. 常菜 2. 軟菜 3. ざざみ 4. ミキサー 5. パースト・ムース 6. その他 ( )

### 6-a. 排泄の動作※

排泄機能は、排泄の動作、用いている器具および尿意・便意を評価する。排泄については、尿のコントロールを中心に聞き取りを行う。これは、排尿の頻度が排便の頻度より多いためである。排便について、何か特記すべきことがあれば、特記事項に記入する。たまたに失敗するような場合は、ふだんの生活でよりよいステージを基本として判断する。

ステージ	状態	状態のイメージ
5	排泄の後始末を行っている。	
4	↑ 排泄の後始末をする こと。 ※排泄後に拭く、水流を流す、 汚染した便器や周囲を拭く、 ポータブルトイレの処理、原器 の処理等を含む。	
	↓ 排泄の後始末は行っていないが、 スポン・パンプツの上げ下ろしは行っ ている。	
3	↑ 排泄の際、スポン・パンプツ 等の上げ降ろしを自分です ること。	
	↓ スポン・パンプツの上げ下ろし は行っていないが、洋式便器 への移動は行っている。	
2	↑ 洋式便器への移乗と、洋式 便器からの移乗。	
	↓ ※トイレ内の移動の際、姿勢の保持を自分で行ってい ない場合は「行っていない」としてください。 ※移乗ができず、洋式トイレを利用していない場合も 「行っていない」としてください。	
1	↑ 医療的な身体管理のため、 人工肛門・尿力テール・ おむつ等の使用	
	↓ 尿閉（膀胱癒を含む）や医療 的な身体管理のために膀胱 等へのカテーテルなどを使 用している。	

※「状態判定」は基本的上から下に難易度ステージ(高→低)を設定している。

### ＜排泄の動作のスケール 判定基準＞

#### 【ステージ5の判断】

排尿後の後始末も含めて、排尿動作が自立している場合、ステージ5と判断する。判断基準は、排尿後に、拭く、水流を流す等の後始末を行っている場合である。

#### 【ステージ4の判断】

ステージ4は尿意の意識に対応してトイレに行き、自分でズボンの上げ下ろしまで行っているかどうかを判断する。この前提は、次のステージの洋式トイレへの移乗を行っていることが前提になる場合が多いが、ナースコールを押し介助者がトイレまで連れていけば、その後は介助なしにズボンの上げ下ろしを行っている場合は、ステージ4と判断する。

#### 【ステージ3の判断】

ステージ3は、洋式便所への移乗は自立している場合が含まれる。もし、トイレまでの移動は介助が必要であっても、トイレ内での移乗を自分で行っている場合が該当する。在宅で調査される場合、洋式トイレがなく和式トイレのみであり、この活動を行っていない場合は、行っていないと判断する。その際にズボンの上げ下ろし等を自分で行っている場合は、ステージ4となる。

#### 【ステージ2の判断】

洋式便所への移乗に、介助を要する場合である。トイレ内の移動の際、姿勢の保持を自分で行っていないような場合は、ステージ2となる。また、ポータブルトイレを含めて移乗ができず、洋式トイレ(ポータブルを含む)を利用していない場合は、行っていないと判断する。

#### 【ステージ1の判断】

床上での排泄において、尿閉(膀胱癒を含む)や医療的な身体管理のために、膀胱等へのカテーテルを使用している場合、人工肛門やおむつを使用している場合は、ステージ1に該当する。

#### 6-b. 補助具・器具の使用状況と、尿意の意識

排泄に関するアセスメントは、人の尊厳に関することでもあるため、利用者の気持ちに配慮し、慎重に行いたい。以下の項目について、「なし」「あり」で判断する。

	なし	あり
ポータブルトイレの使用	0	1
尿力テールの利用	0	1
人工肛門の使用	0	1
おむつの使用	0	1
尿意を意識することができるか	0	1
便意を意識することができるか	0	1

### 7-a. 入浴動作※

入浴については、「入浴動作」と「入浴手段」を分けてアセスメントを行う。ふだんの状態に基づいて判断する。もし、転倒等の危険を理由に、ふだんから浴槽に入入りをさせていない場合は、行っていないと判断する。ICFには入浴に関連した項目として、「活動と参加(A/P)」に「体の一部を洗うこと」、「全身を拭き乾かすこと」の3つのコードがある。しかし、老健施設や在宅介護では、それらを同様に区分するよりは、入浴動作などの程度を行っているか、ということの情報共有を行うほうがメリットが大きいと判断した。この内容は、一部「基本動作」と重複している。

ステージ	状態	状態のイメージ
5	安定した浴槽の出入りに洗身を行っている。	
1	行っている	
1	行っていない	
4	安定した浴槽の出入りに洗身は行っていないが、第三者の援助なしに入浴を行っている。	
1	行っている	
1	行っていない	
3	第三者の入浴や清潔の状態や皮膚の洗い拭き等より入浴の不十分さが認識されている。しかし、浴室内で第三者の援助は行われていない(自分でシャワー浴のみを行う場合を含む)。	
1	行っている	
1	行っていない	
2	浴室内の座位保持は安定しているが、見守り・指示・手を添える・洗身程度程度の第三者の援助が入浴できている。	
1	行っている	
1	行っていない	
1	入浴は行っていない。	

※「状態判定」は基本的の上から下に難易度ステージ(高→低)を設定している。

### ＜入浴動作のスケール 判定基準＞

#### 【ステージ5の判断】

ふだん使用している浴槽で、洗身を含め入浴動作全般を行っている場合を、ステージ5とする。

#### 【ステージ4の判断】

日ごろの入浴はなんとか自分で行っているが、不十分であることが認識されている場合がある。ふだん1人でシャワーのみしか使用していない場合で、かつ洗淨が不十分である場合が該当する。地域性などから入浴を行わない場合は、洗い残しの程度から判断することになる。見守りのみの援助が行われているような場合は、ステージ4である。

#### 【ステージ3の判断】

浴室内の座位保持は安定しているが、見守り・指示・手を添える・洗身の不十分などを手伝う程度の第三者の援助で入浴している場合である。ステージ4との違いは、ステージ4がふだんから自分で行っている場合で、ステージ3はふだんから介助がなされている場合である。

#### 【ステージ2の判断】

ステージ3と比較して、浴室内で座位保持を行っていない場合が、ステージ2となる。

#### 【ステージ1の判断】

ステージ1は、入浴を行っていない場合である。

### 7-b. 入浴手段

下記の項目から該当する入浴手段を確認する。

1. 一般浴
2. 介助浴
3. 座っての機械浴
4. 臥位での機械浴 (特殊浴)

### 8-a. 整容～口腔ケア※

整容については、「口腔ケア」、「整容」、「衣服の着脱」を分けてアセスメントを行う。この内容は、一部「基本動作」と重複している。また、視力障害等で、セッティングや誘導が必要な場合は、自分でそのステージの行為を行っているかどうかで判断する。「口腔ケア」のスケールでは、ふだん行っている最もステージの高い活動を選択する。

	ステージ	状態	状態のイメージ
口腔ケア	5	↑	歯の手入れなどの口腔ケアを自分でやっている。
		↑	↑
歯みがき	4	↓	歯の手入れなどの口腔ケアは自分で行っていないが、歯みがきは自分でセッティングして行っている。
		↓	↓
歯みがきセッティング	3	↑	自分でセッティングして歯を磨くことは行っていないが、セッティングをまれば、自分で歯みがきを行っている。
		↓	↓
歯みがきセッティング	2	↑	歯みがきのセッティングをしても自分で歯みがきを行っていないが、「うがい」は自分で行っている。
		↓	↓
うがい	1	↑	「うがい」だけであれば自分で行っている。
		↓	↓
		↓	「うがい」を自分で行っていない。

※「状態判定」は基本的の上から下に難易度ステージ(高→低)を設定している。

### <整容～口腔ケアのスケール 判定基準>

#### 【ステージ5の判断】

ふだんから口唇の乾燥を防ぐことや、義歯の手入れなど、口腔ケアについては自分で行っている場合に、ステージ5と判断する。

#### 【ステージ4の判断】

口唇の乾燥を防ぐことや義歯の手入れなどの口腔ケアは自分では行っていないけれども、歯みがきはふだんから自分で行っている場合が該当する。上肢の麻痺などがあり自分で行っていない場合は、ステージ3以下となる。総義歯の場合は、総義歯の手入れを自分で行っていればステージ5、行っていない場合はステージ3、その他、うがいの状態でステージ2、または1と判断する。

#### 【ステージ3の判断】

ステージ3は、ふだんから自分でセッティングして歯を磨くことは行っていないけれども、セッティングをすれば、自分で歯みがきを行っている場合が該当する。

#### 【ステージ2の判断】

歯みがきのセッティングをしても、自分では歯みがきを行っていないけれども、「うがい」のように口をすすぐことだけであれば自分で行っている場合をステージ2と判断する。

#### 【ステージ1の判断】

「うがい」のように口をすすぐことも自分で行っていない場合で、口腔ケア全般に介助を必要とする場合は、ステージ1と判断する。

### 8-b. 整容～整容※

整容のスケールでは、ふだん行っている最もステージの高い活動を選択する。

ステージ	状態	状態のイメージ
5	爪を切ることを自分でやっている。	
4	爪を切ることは自分で行っていないが、髭剃りやスキンケア、整容は自分でやっている。	
3	髭剃り・スキンケア・整容は自分で行っていないが、髭剃りやスキンケア、整容は自分で行っている。	
2	洗顔（洗面台で、あるいは濡れタオルで顔を拭くことを）を普段から自分でやっている。	
1	手洗いを普段から自分でやっている。	

※「状態判定」は基本的の上から下に難易度ステージ（高→低）を設定している。

### <整容～整容のスケール 判定基準>

#### 【ステージ5の判断】

ふだんから爪切りを使って手足の爪を切ることを自分でやっている場合は、ステージ5と判断する。

#### 【ステージ4の判断】

ふだんから手足の爪を切ることは自分で行っていないけれど、髭剃り（男性）やスキンケア（女性）、髪の毛を整えることはふだんから自分でやっている場合が該当する。

#### 【ステージ3の判断】

ステージ3は、ふだんから自分で髭剃り（男性）やスキンケア（女性）、髪の毛を整えることを行っていないけれど、洗面台で洗顔することや、あるいは濡れタオルで顔を拭くことは、ふだんから自分でやっている場合が該当する。

#### 【ステージ2の判断】

洗面台で洗顔することや、あるいは濡れタオルで顔を拭くことを、ふだんから自分で行っていないけれども、手洗いはふだんから自分で行っている場合は、ステージ2と判断する。寝たきりであっても、ふだんからたらいや洗面器に汲んだ水で手洗いをしている場合は、ステージ2と判断する。

#### 【ステージ1の判断】

ふだんから手洗いや手洗いも自分で行っていない場合で、整容全般に介助を必要とする場合は、ステージ1と判断する。

### 8-c. 整容～衣服の着脱※

衣服の着脱のスケールでは、ふだん行っている最もステージの高い活動を選択する。

ステージ	状態	状態のイメージ
5	衣服を畳んだり整理することほ自分でやっている。	
衣類の整え	行っている	↑
	行っていない	↓
4	衣服を畳んだり整理することを自分で行っていないが、スポンやパンツの着脱は自分でやっている。	
スポンやパンツの着脱	行っている	↑
	行っていない	↓
3	スポンやパンツの着脱を自分で行っていないが、更衣の際のボタンのかけ外しは自分でやっている。	
ボタンのかけはずし	行っている	↑
	行っていない	↓
2	更衣の際のボタンのかけはずしを自分で行っていないが、上衣の片袖を通すことは自分でやっている。	
上衣の片袖を通す	行っている	↑
	行っていない	↓
1	上衣の片袖を通すことを自分で行っていない。	

※「状態判定」は基本的の上から下に難易度ステージ(高→低)を設定している。

### ＜整容～衣服の着脱のスケール 判定基準＞

#### 【ステージ5の判断】

ふだんから衣服を畳んだり、脱いだ衣服を整理することを自分でやっている場合は、ステージ5と判断する。

#### 【ステージ4の判断】

ふだんから衣服を畳んだり、脱いだ衣服を整理することは自分では行っていないけれど、スポン・パンツ等の着脱をふだんから自分でやっている場合が該当する。立位保持ができない場合、床に座った状態でもスポン・パンツ等の着脱を行っている場合は、ステージ4と判断する。

#### 【ステージ3の判断】

ステージ3は、ふだんからスポン・パンツ等の着脱は自分で行っていないけれど、更衣の際の上着のボタンのかけ外しや、ジッパを上げ下げすることは自分でやっている場合が該当する。ボタン・ジッパを用いていない場合、マジックテープの衣服をふだんから用いている場合も、マジックテープの着脱を自分でやっている場合は、ステージ3と判断する。

#### 【ステージ2の判断】

更衣の際の上着のボタンのかけ外しや、ジッパを上げ下げすることは、ふだんから自分で行っていないけれども、上衣の片袖を通すことは、ふだんから自分でやっている場合は、ステージ2と判断する。

#### 【ステージ1の判断】

ふだんから上衣の片袖を通すことも自分で行っていない場合で、衣服の着脱全般に介助を必要とする場合には、ステージ1と判断する。

### 9-a. 社会参加～余暇※

余暇のスケールでは、ふだん行っている最もステージの高い活動を選択する。

ステージ	状態	状態のイメージ
5	施設や家を1日以上離れる外出または旅行をしている。	
旅行	↑ 旅行に行く（家および施設を1日以上離れる、施設から家への一時帰宅を除く）。	
	↓ 旅行はしていないが、個人による趣味活動はしている。	
4	旅行はしていないが、個人による趣味活動はしている。	
個人の趣味活動の実施	↑ 個人による趣味活動の実施。	
	↓ 屋外で行うような個人的趣味活動はしていないが、屋内でする程度のこととしている。	レクリエーション
3	↑ 集団での体操などの集団レクリエーションへの参加。	
↓ 集団レクリエーションへは参加していないが、一人でテレビを楽しんでいる。	2	テレビ
↑ 施設内や家でテレビを見る。	↑ テレビを見たり、ラジオを聴いている。	
↓ テレビを見たり、ラジオを聴いている。	1	

※「状態判定」は基本的の上から下に難易度ステージ（高→低）を設定している。

### ＜社会参加～余暇のスケール 判定基準＞

#### 【ステージ5の判断】

施設からの一時帰宅ではなく、ふだんから施設や家を1日以上離れる外出や旅行を自分で行っている場合は、ステージ5と判断する。

#### 【ステージ4の判断】

ふだんから施設や家を1日以上離れる外出や旅行を自分で行っていないけれど、屋外で行うような趣味活動を自分でしている場合は該当する。転倒等の危険があるため、趣味活動の際に支援や介助を受けている場合でも、自分の意思でしている場合は、ステージ4と判断する。

#### 【ステージ3の判断】

ステージ3は、ふだんから屋外で行うような趣味活動を自分でしていないけれど、施設内で行う集団体操など、屋内で行う集団でのレクリエーションに自ら参加する程度のこととしている場合が該当する。

#### 【ステージ2の判断】

施設内で行う集団体操など、屋内で行う集団でのレクリエーションに自ら参加することは、ふだんから行っていないけれど、施設内や家でひとりでテレビを楽しむことはしている場合は、ステージ2と判断する。

#### 【ステージ1の判断】

ふだんから施設内や家でひとりでテレビを楽しむことをしない場合で、テレビを見たり、ラジオを聴いて楽しむことをしていない、出来ない場合には、ステージ1と判断する。

### 9-b. 社会参加～社会交流\*

社会参加については、「社会交流」と「余暇」を分けてアセスメントを行う。ふだんの状態に基づいて判断する。もし、転倒等の危険を理由に、ふだんから外出等をさせていない場合は、していない・行っていないと判断する。

コミュニケーション	状態	状態のイメージ
通信機器を用いての交流	5 情報伝達手段を用いて交流を行っている。	
外出	↑ 行っている	4 通信機器を用いて自ら連絡を取ることを行っていないが、援助があつての外出している。
	↓ 行っていない	
外出	↑ している	3 外出はしていないが、親族・友人の訪問を受け会話している。
	↓ していない	
友人との会話	↑ している	2 近所づきあいはしていないが、施設利用者や家族と会話している。
	↓ していない	
身近な人との会話	↑ している	1 会話がはい、していない、できない。
	↓ していない	

※「状態判定」は基本的の上から下に難易度ステージ(高→低)を設定している。

### ＜社会参加～社会交流のスケール 判定基準＞

#### 【ステージ5の判断】

ふだんから電話をかけたり、手紙やメールなどの情報伝達手段を用いて交流を自分で行なっている場合は、ステージ5と判断する。

#### 【ステージ4の判断】

ふだんから電話をかけたり、手紙やメールなどの情報伝達手段を用いて交流を自分で行っていないけれど、親族・知人等を訪ねる目的で外出している場合が該当する。転倒等の危険があるため、外出の際に支援や介助を受けている場合でも、自分の意思で外出している場合は、ステージ4と判断する。

#### 【ステージ3の判断】

ステージ3は、ふだんから外出はしていないけれど、施設職員や家族以外の親族・友人・知人の訪問を受け、会話している場合が該当する。

#### 【ステージ2の判断】

施設職員や家族以外の親族・友人・知人の訪問を受け、会話することは、ふだんから行っていないけれども、同じ施設の入所者や職員、家族との会話はしている場合は、ステージ2と判断する。

#### 【ステージ1の判断】

ふだんから同じ施設の入所者や職員、家族と会話することを行っていない場合で、会話などの社会交流をしていない、出来ない場合には、ステージ1と判断する。

## 退所者生活機能調査 単純集計表

注1：本単純集計では、集計対象の全数である204票を対象に集計を行っている。なお、報告書内の分析は、老健施設への再入所者（29人）を除いた175票で実施した。

注2：割合（％）の表記は四捨五入しているため、各項目を足し合わせると合計（100.0％）と一致しないこともある。

注3：途中で調査を中断したものも含まれているため、第3回・第4回調査では回答者数が第1回・第2回調査よりも少なくなっている。

### 【第1回調査】

#### 問2（1）性別

	度数	%
男性	49	24.0%
女性	153	75.0%
無回答	2	1.0%
合計	204	100.0%

#### 問2（2）年齢 ※平成26年10月1日現在

	度数	%
40～64歳	5	2.5%
65～69歳	3	1.5%
70～74歳	11	5.4%
75～79歳	22	10.8%
80～84歳	41	20.1%
85～89歳	54	26.5%
90～94歳	53	26.0%
95歳以上	14	6.9%
無回答	1	0.5%
合計	204	100.0%

#### 問2（3）老健施設への入所期間

	度数	%
1ヶ月未満	4	2.0%
1～2ヶ月未満	25	12.3%
2～3ヶ月未満	28	13.7%
3～6ヶ月未満	89	43.6%
6ヶ月～1年未満	31	15.2%
1年～2年未満	17	8.3%
2年～3年未満	3	1.5%
3年～5年未満	4	2.0%
5年以上	1	0.5%
無回答	2	1.0%
合計	204	100.0%

※回答は入所年月までとなっているため、便宜的に各月1日に入所したものと集計

#### 問2（4）老健施設への入所経験

	度数	%
初めて入所	72	35.3%
過去に入所経験あり	131	64.2%
無回答	1	0.5%
合計	204	100.0%

#### 問2（5）要介護度

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
要介護1	29	14.2%	26	12.7%	23	11.6%	25	12.8%	11	10.7%
要介護2	39	19.1%	39	19.1%	42	21.1%	40	20.5%	24	23.3%
要介護3	42	20.6%	46	22.5%	45	22.6%	42	21.5%	23	22.3%
要介護4	59	28.9%	58	28.4%	55	27.6%	56	28.7%	23	22.3%
要介護5	32	15.7%	31	15.2%	33	16.6%	31	15.9%	22	21.4%
無回答	3	1.5%	4	2.0%	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問2(6) 障害自立度

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
J1	1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
J2	5	2.5%	5	2.5%	4	2.0%	4	2.1%	5	4.9%
A1	21	10.3%	32	15.7%	29	14.6%	30	15.4%	21	20.4%
A2	45	22.1%	43	21.1%	44	22.1%	42	21.5%	13	12.6%
B1	40	19.6%	37	18.1%	40	20.1%	37	19.0%	16	15.5%
B2	72	35.3%	68	33.3%	60	30.2%	62	31.8%	32	31.1%
C1	9	4.4%	5	2.5%	9	4.5%	9	4.6%	6	5.8%
C2	10	4.9%	9	4.4%	11	5.5%	8	4.1%	7	6.8%
無回答	1	0.5%	4	2.0%	1	0.5%	3	1.5%	3	2.9%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問2(7) 認知症自立度

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
非該当	9	4.4%	10	4.9%	10	5.0%	9	4.6%	7	6.8%
I	34	16.7%	36	17.6%	34	17.1%	35	17.9%	13	12.6%
II a	49	24.0%	47	23.0%	41	20.6%	40	20.5%	18	17.5%
II b	36	17.6%	35	17.2%	36	18.1%	34	17.4%	13	12.6%
III a	51	25.0%	49	24.0%	52	26.1%	54	27.7%	31	30.1%
III b	9	4.4%	8	3.9%	10	5.0%	9	4.6%	5	4.9%
IV	14	6.9%	15	7.4%	12	6.0%	12	6.2%	11	10.7%
M	0	0.0%	0	0.0%	2	1.0%	1	0.5%	2	1.9%
無回答	2	1.0%	4	2.0%	2	1.0%	1	0.5%	3	2.9%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問2(8) 世帯構成

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
単身	30	14.7%	29	14.2%	32	16.1%	31	15.9%	16	15.5%
高齢夫婦	38	18.6%	34	16.7%	31	15.6%	31	15.9%	16	15.5%
同居	135	66.2%	140	68.6%	133	66.8%	128	65.6%	65	63.1%
無回答	1	0.5%	1	0.5%	3	1.5%	5	2.6%	6	5.8%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問2(8)-1 日中独居の有無 ※問2(8)で「高齢夫婦」または「同居」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
日中独居	48	27.7%	45	25.9%	40	24.4%	33	20.8%	16	19.8%
日中独居ではない	99	57.2%	101	58.0%	97	59.1%	93	58.5%	41	50.6%
無回答	26	15.0%	28	16.1%	27	16.5%	33	20.8%	24	29.6%
合計	173	100.0%	174	100.0%	164	100.0%	159	100.0%	81	100.0%

問2(9) 主患名(複数回答)

	度数	%
脳梗塞	41	20.1%
脳出血	12	5.9%
多発性脳梗塞	3	1.5%
くも膜下出血	9	4.4%
硬膜下血腫	3	1.5%
硬膜下血腫および脳挫傷	0	0.0%
その他の脳血管疾患	3	1.5%
高血圧症(認知症や脳血管障害など他の病態を伴わない)	46	22.5%
慢性心不全	20	9.8%
心筋梗塞	1	0.5%
狭心症	5	2.5%
不整脈	1	0.5%
心房細動	10	4.9%
その他の心疾患	12	5.9%
閉塞性動脈硬化症	2	1.0%
その他の中枢または末梢血管の疾患	1	0.5%
アルツハイマー型認知症	38	18.6%
脳血管性認知症	13	6.4%
レビー小体型認知症	2	1.0%
下記以外の認知症(脳血管性・アルツハイマー型・混合型・レビー小体型・ピック病)	12	5.9%
前頭・側頭葉型認知症(ピック病等)	1	0.5%
混合型認知症	0	0.0%
まだ確定診断のついていない認知症	12	5.9%
うつ病	1	0.5%

統合失調症	0	0.0%
その他の精神疾患	5	2.5%
パーキンソン病	14	6.9%
パーキンソン病以外の脊髄小脳変性疾患	1	0.5%
症候性てんかん、てんかん	7	3.4%
その他の中枢神経疾患	3	1.5%
末梢神経疾患	2	1.0%
糖尿病（認知症や脳血管障害など他の病態を伴わない）	18	8.8%
栄養障害	0	0.0%
肥満	1	0.5%
脂質異常症（高脂血症）	11	5.4%
甲状腺機能障害	2	1.0%
その他の代謝・内分泌疾患	1	0.5%
脊髄損傷	2	1.0%
脊柱管狭窄症	6	2.9%
変形性脊椎症	2	1.0%
下肢の変形性関節症（股関節・膝関節）	20	9.8%
上肢の変形性関節症（肩関節・肘関節）	2	1.0%
大腿骨の骨折（手術を行った）	10	4.9%
大腿骨以外の骨折（手術を行った）	0	0.0%
骨折（保存的治療のみ）	9	4.4%
骨粗しょう症	12	5.9%
圧迫骨折	5	2.5%
後縦靭帯骨化症	0	0.0%
その他の骨・脊椎疾患	2	1.0%
関節リウマチ	5	2.5%
関節リウマチ以外の全身性結合組織障害	0	0.0%
筋、軟部組織の障害	0	0.0%
気管支喘息	3	1.5%
肺気腫等慢性閉塞性肺疾患	5	2.5%
誤嚥性・吸引性(不顕性)肺炎などの慢性呼吸器感染症	4	2.0%
急性呼吸器感染症	0	0.0%
その他肺および胸膜など呼吸器の疾患	2	1.0%
腎不全（慢性・急性を含む）	7	3.4%
尿路結石症など尿路の疾患	0	0.0%
尿路感染症（膀胱炎など）	1	0.5%
乳房・女性生殖器・骨盤臓器の疾患	1	0.5%
前立腺肥大症などの男性生殖器の疾患	5	2.5%
胃・食道疾患	2	1.0%
小腸・大腸の疾患	4	2.0%
肝胆膵の疾患	6	2.9%
ヘルニア	1	0.5%
肛門の疾患	2	1.0%
その他の消化器の疾患（腹膜、口腔、唾液腺、顎等を含む）	1	0.5%
悪性新生物	9	4.4%
良性新生物およびその他特定されない新生物	0	0.0%
緑内障・白内障などの眼およびその付属器の疾患	8	3.9%
耳および乳様突起の疾患	0	0.0%
疥癬・蜂窩織炎・白癬等感染症	1	0.5%
水疱症（天疱瘡・類天疱瘡等）	1	0.5%
アレルギー性皮膚疾患	0	0.0%
褥創	0	0.0%
皮膚の外傷およびその他の皮膚疾患	3	1.5%
感染症	0	0.0%
貧血	6	2.9%
貧血以外の血液・免疫および凝固系の疾患	0	0.0%
周産期や小児期の疾患の後遺症（脳性麻痺、精神発達遅滞を含む）	1	0.5%
先天奇形・変形および染色体異常	0	0.0%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	1	0.5%
無回答	2	1.0%
合計	204	100.0%

問2 (10) 既往歴 (複数回答)

	度数	%
脳梗塞	27	13.2%
脳出血	2	1.0%
多発性脳梗塞	1	0.5%
くも膜下出血	3	1.5%
硬膜下血腫	4	2.0%
硬膜下血腫および脳挫傷	0	0.0%
その他の脳血管疾患	1	0.5%
高血圧症 (認知症や脳血管障害など他の病態を伴わない)	46	22.5%
慢性心不全	6	2.9%
心筋梗塞	4	2.0%
狭心症	10	4.9%
不整脈	2	1.0%
心房細動	5	2.5%
その他の心疾患	6	2.9%
閉塞性動脈硬化症	3	1.5%
その他の中脳または末梢血管の疾患	3	1.5%
アルツハイマー型認知症	12	5.9%
脳血管性認知症	4	2.0%
レビー小体型認知症	0	0.0%
下記以外の認知症 (脳血管性・アルツハイマー型・混合型・レビー小体型・ピック病)	2	1.0%
前頭・側頭葉型認知症 (ピック病等)	0	0.0%
混合型認知症	0	0.0%
まだ確定診断のついていない認知症	1	0.5%
うつ病	14	6.9%
統合失調症	0	0.0%
その他の精神疾患	4	2.0%
パーキンソン病	0	0.0%
パーキンソン病以外の脊髄小脳変性疾患	0	0.0%
症候性てんかん、てんかん	4	2.0%
その他の中枢神経疾患	0	0.0%
末梢神経疾患	4	2.0%
糖尿病 (認知症や脳血管障害など他の病態を伴わない)	13	6.4%
栄養障害	1	0.5%
肥満	0	0.0%
脂質異常症 (高脂血症)	6	2.9%
甲状腺機能障害	5	2.5%
その他の代謝・内分泌疾患	0	0.0%
脊髄損傷	1	0.5%
脊柱管狭窄症	3	1.5%
変形性脊椎症	2	1.0%
下肢の変形性関節症 (股関節・膝関節)	20	9.8%
上肢の変形性関節症 (肩関節・肘関節)	2	1.0%
大腿骨の骨折 (手術を行った)	21	10.3%
大腿骨以外の骨折 (手術を行った)	1	0.5%
骨折 (保存的治療のみ)	21	10.3%
骨粗しょう症	10	4.9%
圧迫骨折	20	9.8%
後縦靭帯骨化症	1	0.5%
その他の骨・脊椎疾患	3	1.5%
関節リウマチ	2	1.0%
関節リウマチ以外の全身性結合組織障害	1	0.5%
筋、軟部組織の障害	1	0.5%
気管支喘息	5	2.5%
肺気腫等慢性閉塞性肺疾患	3	1.5%
誤嚥性・吸引性(不顕性)肺炎などの慢性呼吸器感染症	11	5.4%
急性呼吸器感染症	1	0.5%
その他肺および胸膜など呼吸器の疾患	10	4.9%
腎不全 (慢性・急性を含む)	8	3.9%
尿路結石症など尿路の疾患	3	1.5%
尿路感染症 (膀胱炎など)	9	4.4%
乳房・女性生殖器・骨盤臓器の疾患	9	4.4%
前立腺肥大症などの男性生殖器の疾患	7	3.4%
胃・食道疾患	19	9.3%
小腸・大腸の疾患	15	7.4%
肝胆膵の疾患	12	5.9%
ヘルニア	3	1.5%

肛門の疾患	1	0.5%
その他の消化器の疾患（腹膜、口腔、唾液腺、顎等を含む）	1	0.5%
悪性新生物	13	6.4%
良性新生物およびその他特定されない新生物	1	0.5%
緑内障・白内障などの眼およびその付属器の疾患	29	14.2%
耳および乳様突起の疾患	2	1.0%
疥癬・蜂窩織炎・白癬等感染症	2	1.0%
水疱症（天疱瘡・類天疱瘡等）	0	0.0%
アレルギー性皮膚疾患	0	0.0%
褥創	0	0.0%
皮膚の外傷およびその他の皮膚疾患	3	1.5%
感染症	1	0.5%
貧血	5	2.5%
貧血以外の血液・免疫および凝固系の疾患	0	0.0%
周産期や小児期の疾患の後遺症（脳性麻痺、精神発達遅滞を含む）	0	0.0%
先天奇形・変形および染色体異常	0	0.0%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	0	0.0%
無回答	22	10.8%
合計	204	100.0%

問3（1）食事機能（準備）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
食事の準備は自分でやっている	2	1.0%	1	0.5%	4	2.0%	4	2.1%	5	4.9%
食事の準備は手伝っている	9	4.4%	2	1.0%	6	3.0%	6	3.1%	3	2.9%
食事の準備は自分でやっていない	193	94.6%	200	98.0%	189	95.0%	184	94.4%	95	92.2%
無回答	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問3（2）食事機能（片付け）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
食事の後片付けは自分でやっている	2	1.0%	1	0.5%	9	4.5%	9	4.6%	6	5.8%
食事の後片付けは手伝っている	16	7.8%	10	4.9%	8	4.0%	10	5.1%	5	4.9%
食事の後片付けは自分でやっていない	186	91.2%	192	94.1%	182	91.5%	175	89.7%	91	88.3%
無回答	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.5%	1	1.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問3（3）生活機能（買い物）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
買い物は自分でやっている	0	0.0%	2	1.0%	2	1.0%	2	1.0%	0	0.0%
買い物は家族と一緒にやっている	11	5.4%	4	2.0%	9	4.5%	11	5.6%	6	5.8%
買い物は自分でやっていない	193	94.6%	197	96.6%	188	94.5%	181	92.8%	96	93.2%
無回答	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.5%	1	1.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問3（4）生活機能（掃除・洗濯）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
掃除・洗濯を自分でやっている	1	0.5%	1	0.5%	4	2.0%	4	2.1%	1	1.0%
掃除・洗濯を手伝っている	13	6.4%	8	3.9%	9	4.5%	10	5.1%	6	5.8%
掃除・洗濯を自分でやっていない	190	93.1%	193	94.6%	186	93.5%	180	92.3%	96	93.2%
無回答	0	0.0%	2	1.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問3（5）生活機能（ゴミ出し）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
ゴミ出しは自分でやっている	1	0.5%	0	0.0%	3	1.5%	3	1.5%	2	1.9%
ゴミ出しは手伝っている	5	2.5%	5	2.5%	2	1.0%	2	1.0%	1	1.0%
ゴミ出しは自分でやっていない	197	96.6%	198	97.1%	194	97.5%	189	96.9%	100	97.1%
無回答	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問3 (6) 自己管理 (お金)

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
お金の管理は自分でやっている	3	1.5%	2	1.0%	4	2.0%	4	2.1%	3	2.9%
お金の管理は一部自分でやっている	20	9.8%	20	9.8%	18	9.0%	17	8.7%	9	8.7%
お金の管理は自分でやっていない	180	88.2%	181	88.7%	177	88.9%	173	88.7%	91	88.3%
無回答	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問3 (7) 自己管理 (電話)

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
電話は自分で対応している	12	5.9%	10	4.9%	11	5.5%	13	6.7%	9	8.7%
電話は家族がいなくときは対応	11	5.4%	6	2.9%	16	8.0%	14	7.2%	4	3.9%
電話は自分で対応していない	181	88.7%	187	91.7%	172	86.4%	167	85.6%	90	87.4%
無回答	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問3 (8) 自己管理 (郵便・書類)

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
郵便・書類は自分で管理している	4	2.0%	4	2.0%	6	3.0%	6	3.1%	5	4.9%
郵便・書類は一部自分で管理している	14	6.9%	12	5.9%	14	7.0%	12	6.2%	5	4.9%
郵便・書類は自分で管理していない	186	91.2%	186	91.2%	179	89.9%	175	89.7%	93	90.3%
無回答	0	0.0%	2	1.0%	0	0.0%	2	1.0%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問3 (9) 自己管理 (火の元)

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
火の元は自分で管理している	3	1.5%	2	1.0%	6	3.0%	7	3.6%	5	4.9%
火の元は一部自分で管理している	4	2.0%	0	0.0%	5	2.5%	4	2.1%	6	5.8%
火の元は自分で管理していない	197	96.6%	201	98.5%	188	94.5%	183	93.8%	92	89.3%
無回答	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問3 (10) 社会機能 (交通手段)

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
一人で交通手段を使って外出している	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
介助者と交通手段を使って外出している	23	11.3%	22	10.8%	33	16.6%	33	16.9%	16	15.5%
交通手段は利用していない	179	87.7%	180	88.2%	166	83.4%	161	82.6%	86	83.5%
無回答	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.5%	1	1.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問3 (11) 社会機能 (散歩)

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
一人で散歩などに出掛けている	5	2.5%	2	1.0%	3	1.5%	6	3.1%	2	1.9%
介助者と一緒に散歩などに出掛けている	41	20.1%	62	30.4%	39	19.6%	39	20.0%	15	14.6%
散歩などには出掛けない	156	76.5%	138	67.6%	156	78.4%	148	75.9%	86	83.5%
無回答	2	1.0%	2	1.0%	1	0.5%	2	1.0%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問4 (1) 意欲の指標 (起床)

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
いつも定時に起床している	100	49.0%	122	59.8%	87	43.7%	88	45.1%	38	36.9%
起こさないと起床しないことがある	69	33.8%	56	27.5%	77	38.7%	74	37.9%	46	44.7%
自分から起床することがない	34	16.7%	26	12.7%	35	17.6%	32	16.4%	18	17.5%
無回答	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	1	1.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問4（2）意欲の指標（意思疎通）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
自分から挨拶する、話しかける	104	51.0%	116	56.9%	98	49.2%	98	50.3%	40	38.8%
挨拶、呼びかけに対し返答や笑顔がみられる	94	46.1%	82	40.2%	96	48.2%	90	46.2%	61	59.2%
反応がない	6	2.9%	6	2.9%	5	2.5%	6	3.1%	2	1.9%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問4（3）意欲の指標（食事）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
自分で進んで食べようとする	158	77.5%	166	81.4%	149	74.9%	141	72.3%	71	68.9%
促されると食べようとする	35	17.2%	30	14.7%	42	21.1%	45	23.1%	25	24.3%
食事に関心がない、全く食べようとしていない	11	5.4%	8	3.9%	7	3.5%	7	3.6%	5	4.9%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	2	1.0%	2	1.9%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問4（4）意欲の指標（排泄）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排便、排尿を行う	133	65.2%	145	71.1%	128	64.3%	128	65.6%	55	53.4%
時々尿意、便意を伝える	42	20.6%	31	15.2%	39	19.6%	39	20.0%	28	27.2%
排泄に全く関心がない	29	14.2%	28	13.7%	31	15.6%	27	13.8%	20	19.4%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問4（5）意欲の指標（リハビリ、活動）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
自らリハビリに向かう、活動を求める	68	33.3%	79	38.7%	68	34.2%	74	37.9%	20	19.4%
促されて向かう	113	55.4%	106	52.0%	108	54.3%	100	51.3%	71	68.9%
拒否、無関心	23	11.3%	19	9.3%	21	10.6%	19	9.7%	12	11.7%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	1.0%	2	1.0%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問5（1）慢性的な痛みの有無

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
痛みあり	75	36.8%	65	31.9%	49	24.6%	49	25.1%	27	26.2%
痛みなし	127	62.3%	136	66.7%	150	75.4%	142	72.8%	72	69.9%
無回答	2	1.0%	3	1.5%	0	0.0%	4	2.1%	4	3.9%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問5（2）定期処方されている鎮痛剤（①経口内服） ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
NSAIDs	22	29.3%	15	23.1%	12	24.5%	13	26.5%	5	18.5%
（非）麻薬性製剤	1	1.3%	1	1.5%	1	2.0%	1	2.0%	0	0.0%
その他	1	1.3%	1	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	51	68.0%	48	73.8%	36	73.5%	35	71.4%	22	81.5%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（2）定期処方されている鎮痛剤（②静脈注射） ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
NSAIDs	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
（非）麻薬性製剤	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（2）定期処方されている鎮痛剤（③その他注射） ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
NSAIDs	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
（非）麻薬性製剤	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（2）定期処方されている鎮痛剤（④座薬） ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
NSAIDs	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	1	2.0%	0	0.0%
（非）麻薬性製剤	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	75	100.0%	65	100.0%	48	98.0%	48	98.0%	27	100.0%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（2）定期処方されている鎮痛剤（⑤経皮外用薬） ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
NSAIDs	7	9.3%	7	10.8%	6	12.2%	6	12.2%	0	0.0%
（非）麻薬性製剤	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	1	1.5%	2	4.1%	1	2.0%	1	3.7%
無回答	67	89.3%	57	87.7%	41	83.7%	42	85.7%	26	96.3%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（2）定期処方されている鎮痛剤（⑥その他） ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
その他の回答あり	2	2.7%	2	3.1%	3	6.1%	3	6.1%	1	3.7%
その他の回答なし	73	97.3%	63	96.9%	46	93.9%	46	93.9%	26	96.3%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（3）頓服で処方されている鎮痛剤（①経口内服） ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
NSAIDs	5	6.7%	4	6.2%	4	8.2%	3	6.1%	1	3.7%
（非）麻薬性製剤	1	1.3%	1	1.5%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%
その他	2	2.7%	2	3.1%	1	2.0%	0	0.0%	1	3.7%
無回答	67	89.3%	58	89.2%	44	89.8%	45	91.8%	25	92.6%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（3）頓服で処方されている鎮痛剤（②静脈注射） ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
NSAIDs	2	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
（非）麻薬性製剤	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	73	97.3%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（3）頓服で処方されている鎮痛剤（③その他注射） ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
NSAIDs	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
（非）麻薬性製剤	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	73	97.3%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（3）頓服で処方されている鎮痛剤（④座薬） ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
NSAIDs	3	4.0%	1	1.5%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%
（非）麻薬性製剤	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	72	96.0%	64	98.5%	48	98.0%	49	100.0%	27	100.0%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（3）頓服で処方されている鎮痛剤（⑤経皮外用薬） ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
NSAIDs	7	9.3%	4	6.2%	1	2.0%	1	2.0%	1	3.7%
（非）麻薬性製剤	1	1.3%	1	1.5%	1	2.0%	1	2.0%	0	0.0%
その他	6	8.0%	5	7.7%	4	8.2%	3	6.1%	3	11.1%
無回答	61	81.3%	55	84.6%	43	87.8%	44	89.8%	23	85.2%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（3）頓服で処方されている鎮痛剤（⑥その他） ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
その他の回答あり	3	4.0%	2	3.1%	5	10.2%	5	10.2%	0	0.0%
その他の回答なし	72	96.0%	63	96.9%	44	89.8%	44	89.8%	27	100.0%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（4）体動時の状態 ①攻撃的になる ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
症状なし	63	84.0%	55	84.6%	42	85.7%	41	83.7%	25	92.6%
症状あり	10	13.3%	7	10.8%	6	12.2%	6	12.2%	1	3.7%
無回答	2	2.7%	3	4.6%	1	2.0%	2	4.1%	1	3.7%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（4）体動時の状態 ②落ち着きがなくなる ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
症状なし	65	86.7%	56	86.2%	41	83.7%	41	83.7%	25	92.6%
症状あり	8	10.7%	6	9.2%	6	12.2%	5	10.2%	1	3.7%
無回答	2	2.7%	3	4.6%	2	4.1%	3	6.1%	1	3.7%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（4）体動時の状態 ③顔をゆがめる ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
症状なし	35	46.7%	31	47.7%	27	55.1%	26	53.1%	9	33.3%
症状あり	39	52.0%	32	49.2%	21	42.9%	21	42.9%	17	63.0%
無回答	1	1.3%	2	3.1%	1	2.0%	2	4.1%	1	3.7%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（4）体動時の状態 ④不安そうな顔をする ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
症状なし	44	58.7%	40	61.5%	31	63.3%	33	67.3%	19	70.4%
症状あり	29	38.7%	22	33.8%	16	32.7%	13	26.5%	7	25.9%
無回答	2	2.7%	3	4.6%	2	4.1%	3	6.1%	1	3.7%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（4）体動時の状態 ⑤泣き声を上げる・大声を上げる ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
症状なし	69	92.0%	58	89.2%	46	93.9%	44	89.8%	25	92.6%
症状あり	4	5.3%	4	6.2%	1	2.0%	2	4.1%	1	3.7%
無回答	2	2.7%	3	4.6%	2	4.1%	3	6.1%	1	3.7%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（4）体動時の状態 ⑥体を丸める・体にふれると体を硬直させる ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
症状なし	67	89.3%	57	87.7%	46	93.9%	43	87.8%	25	92.6%
症状あり	6	8.0%	5	7.7%	1	2.0%	3	6.1%	1	3.7%
無回答	2	2.7%	3	4.6%	2	4.1%	3	6.1%	1	3.7%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（4）体動時の状態 ⑦動作の変化がみられる ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
症状なし	54	72.0%	46	70.8%	31	63.3%	33	67.3%	15	55.6%
症状あり	20	26.7%	16	24.6%	17	34.7%	13	26.5%	11	40.7%
無回答	1	1.3%	3	4.6%	1	2.0%	3	6.1%	1	3.7%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（4）体動時の状態 ⑧体の一部・患部をさする様な動作をする ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
症状なし	38	50.7%	31	47.7%	20	40.8%	19	38.8%	16	59.3%
症状あり	37	49.3%	33	50.8%	26	53.1%	27	55.1%	11	40.7%
無回答	0	0.0%	1	1.5%	3	6.1%	3	6.1%	0	0.0%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（4）体動時の状態 ⑨顔色の変化 ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
症状なし	71	94.7%	61	93.8%	46	93.9%	45	91.8%	26	96.3%
症状あり	2	2.7%	1	1.5%	1	2.0%	1	2.0%	0	0.0%
無回答	2	2.7%	3	4.6%	2	4.1%	3	6.1%	1	3.7%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問5（5）最も痛みが強い部位 ※問5（1）で「痛みあり」と回答した方が対象

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
頭（頭部）	1	1.3%	1	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.7%
首（頸）	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	1	3.7%
顔（顔全体）	1	1.3%	1	1.5%	1	2.0%	1	2.0%	0	0.0%
口（歯・歯茎・舌）	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
上腕	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	2	4.1%	1	3.7%
腹部	2	2.7%	0	0.0%	1	2.0%	2	4.1%	0	0.0%
鼠径部	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	1	2.0%	0	0.0%
大腿	8	10.7%	9	13.8%	5	10.2%	5	10.2%	0	0.0%
膝	20	26.7%	18	27.7%	12	24.5%	11	22.4%	6	22.2%
下腿	2	2.7%	4	6.2%	2	4.1%	2	4.1%	1	3.7%
足（足の甲）	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	1	2.0%	0	0.0%
（足の）指	2	2.7%	1	1.5%	1	2.0%	2	4.1%	0	0.0%
肩峰（肩）	5	6.7%	4	6.2%	3	6.1%	3	6.1%	2	7.4%
肘	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
手指	2	2.7%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
手背（手の甲）	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
背部	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	1	2.0%	0	0.0%
腰部	19	25.3%	13	20.0%	11	22.4%	9	18.4%	7	25.9%
殿部	2	2.7%	2	3.1%	1	2.0%	1	2.0%	2	7.4%
股関節	3	4.0%	5	7.7%	4	8.2%	5	10.2%	2	7.4%
上肢（上肢全体）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.7%
下肢（下肢全体）	4	5.3%	2	3.1%	1	2.0%	1	2.0%	1	3.7%
体幹	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	3	4.6%	2	4.1%	1	2.0%	2	7.4%
合計	75	100.0%	65	100.0%	49	100.0%	49	100.0%	27	100.0%

問6 ICFに基づく新指標（1）喜怒哀楽の表現

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
表現していない	17	8.3%	15	7.4%	15	7.5%	13	6.7%	11	10.7%
身振りでの表現のみ	9	4.4%	7	3.4%	9	4.5%	14	7.2%	7	6.8%
言語のみでの表現	66	32.4%	59	28.9%	56	28.1%	48	24.6%	33	32.0%
言語と身振り両方で表現	112	54.9%	123	60.3%	115	57.8%	116	59.5%	52	50.5%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	4	2.0%	4	2.1%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問6 ICFに基づく新指標（2）活力が満ち溢れているか

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
満ち溢れていると思う	66	32.4%	84	41.2%	54	27.1%	56	28.7%	28	27.2%
そうは思わない	138	67.6%	120	58.8%	141	70.9%	137	70.3%	75	72.8%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	4	2.0%	2	1.0%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問6 ICFに基づく新指標（3）地域社会におけるボランティア等の活動への参加

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
参加していない	203	99.5%	203	99.5%	196	98.5%	192	98.5%	103	100.0%
無償の活動に参加している	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
有償の活動に参加している	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
有償無償両方の活動に参加している	0	0.0%	1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	1.0%	2	1.0%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問6 ICFに基づく新指標（4）軽い運動、体操の頻度（一週間）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
毎日	39	19.1%	65	31.9%	24	12.1%	24	12.3%	12	11.7%
5～6日	27	13.2%	33	16.2%	24	12.1%	27	13.8%	17	16.5%
2～4日	85	41.7%	73	35.8%	109	54.8%	109	55.9%	52	50.5%
1日以下	9	4.4%	9	4.4%	11	5.5%	10	5.1%	11	10.7%
運動・体操はしていない	44	21.6%	22	10.8%	30	15.1%	24	12.3%	10	9.7%
無回答	0	0.0%	2	1.0%	1	0.5%	1	0.5%	1	1.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問6 ICFに基づく新指標（5）定期的な運動・スポーツの頻度（一週間）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
毎日	1	0.5%	8	3.9%	3	1.5%	2	1.0%	1	1.0%
5～6日	14	6.9%	13	6.4%	7	3.5%	10	5.1%	4	3.9%
2～4日	39	19.1%	48	23.5%	59	29.6%	58	29.7%	26	25.2%
1日以下	5	2.5%	6	2.9%	7	3.5%	9	4.6%	6	5.8%
運動・スポーツはしていない	145	71.1%	127	62.3%	122	61.3%	115	59.0%	66	64.1%
無回答	0	0.0%	2	1.0%	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問6 ICFに基づく新指標（6）連続して歩行できる時間

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
6分以上歩行可能	37	18.1%	56	27.5%	40	20.1%	37	19.0%	21	20.4%
2～5分程度は歩行可能	42	20.6%	47	23.0%	42	21.1%	49	25.1%	18	17.5%
2分未満は歩行可能	39	19.1%	32	15.7%	42	21.1%	34	17.4%	20	19.4%
全く歩行できない（または、移動は車イスのみ）	86	42.2%	68	33.3%	72	36.2%	72	36.9%	43	41.7%
無回答	0	0.0%	1	0.5%	3	1.5%	3	1.5%	1	1.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問6 ICFに基づく新指標 (7) 関節の可動性

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
膝関節は疼痛や制限なく動く	99	48.5%	103	50.5%	95	47.7%	94	48.2%	46	44.7%
膝関節は動くが疼痛がある	52	25.5%	45	22.1%	39	19.6%	37	19.0%	14	13.6%
膝関節は動きに制限があるが疼痛はない	48	23.5%	51	25.0%	57	28.6%	56	28.7%	35	34.0%
膝関節は動かない	4	2.0%	4	2.0%	7	3.5%	7	3.6%	6	5.8%
無回答	1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	2	1.9%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問6 ICFに基づく新指標 (8) 椅子から手を使わずに立ち上がれるか

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
何回も繰り返して問題なくできる	30	14.7%	32	15.7%	19	9.5%	22	11.3%	10	9.7%
1回であれば問題なくできる	16	7.8%	22	10.8%	26	13.1%	26	13.3%	9	8.7%
1回は、問題はあるが何とかできる	21	10.3%	20	9.8%	28	14.1%	27	13.8%	8	7.8%
立ち上がることができない	137	67.2%	127	62.3%	124	62.3%	118	60.5%	75	72.8%
無回答	0	0.0%	3	1.5%	2	1.0%	2	1.0%	1	1.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問6 ICFに基づく新指標 (9) 薬の自己管理を普段から行っているか

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
行っている	12	5.9%	12	5.9%	22	11.1%	22	11.3%	12	11.7%
行っていない	188	92.2%	185	90.7%	170	85.4%	167	85.6%	91	88.3%
薬は飲んでいない	4	2.0%	7	3.4%	6	3.0%	5	2.6%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問6 ICFに基づく新指標 (10) 医師や看護師、弁護士に自分の訴えを明確に伝えることができるか

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
的確に伝えることができる	62	30.4%	71	34.8%	62	31.2%	63	32.3%	24	23.3%
ある程度伝えることができる	107	52.5%	103	50.5%	97	48.7%	92	47.2%	54	52.4%
できない	35	17.2%	29	14.2%	39	19.6%	39	20.0%	24	23.3%
無回答	0	0.0%	1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	1	1.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問6 ICFに基づく新指標 (11) 夜間はよく眠っているか

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
よく眠れている	142	69.6%	164	80.4%	151	75.9%	155	79.5%	87	84.5%
あまり眠れていない(不眠の訴えあり)	58	28.4%	38	18.6%	42	21.1%	35	17.9%	16	15.5%
全く眠れていない(実際に不眠である)	3	1.5%	0	0.0%	3	1.5%	2	1.0%	0	0.0%
無回答	1	0.5%	2	1.0%	3	1.5%	3	1.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問6 ICFに基づく新指標 (12) 日中も寝ているか

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
日中は起きています	53	26.0%	61	29.9%	60	30.2%	60	30.8%	21	20.4%
日中、短時間は寝ている(2時間未満)	113	55.4%	114	55.9%	96	48.2%	98	50.3%	58	56.3%
日中も2時間以上寝ている	37	18.1%	28	13.7%	42	21.1%	34	17.4%	22	21.4%
無回答	1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	3	1.5%	2	1.9%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問6 ICFに基づく新指標 (13) 施設入所や在宅復帰と言った環境の変化に問題なく対応できたか

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
対応できている	166	81.4%	178	87.3%	160	80.4%	166	85.1%	90	87.4%
あまり対応できていない	36	17.6%	20	9.8%	34	17.1%	27	13.8%	11	10.7%
全く対応できていない	2	1.0%	5	2.5%	4	2.0%	1	0.5%	2	1.9%
無回答	0	0.0%	1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問6 ICFに基づく新指標 (14) 普段から他の利用者や近所の人に対しての手伝いを行っているか

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
行っている	22	10.8%	31	15.2%	17	8.5%	22	11.3%	5	4.9%
行っていない	182	89.2%	173	84.8%	181	91.0%	172	88.2%	98	95.1%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 2.基本動作

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
1	33	16.2%	28	13.7%	30	15.1%	27	13.8%	16	15.5%
2	26	12.7%	26	12.7%	22	11.1%	23	11.8%	16	15.5%
3	21	10.3%	19	9.3%	22	11.1%	21	10.8%	11	10.7%
4	77	37.7%	72	35.3%	67	33.7%	67	34.4%	34	33.0%
5	47	23.0%	58	28.4%	57	28.6%	55	28.2%	26	25.2%
無回答	0	0.0%	1	0.5%	1	0.5%	2	1.0%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%
平均値	3.4	—	3.5	—	3.5	—	3.5	—	3.4	—
前回比較	—	—	0.1	—	0.0	—	0.0	—	-0.1	—

問7 ICF ステージングに関する指標 3-a.歩行・移動

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
1	43	21.1%	36	17.6%	34	17.1%	29	14.9%	24	23.3%
2	102	50.0%	93	45.6%	96	48.2%	93	47.7%	45	43.7%
3	48	23.5%	62	30.4%	55	27.6%	52	26.7%	25	24.3%
4	9	4.4%	10	4.9%	11	5.5%	15	7.7%	6	5.8%
5	1	0.5%	1	0.5%	2	1.0%	2	1.0%	1	1.0%
無回答	1	0.5%	2	1.0%	1	0.5%	4	2.1%	2	1.9%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%
平均値	2.1	—	2.2	—	2.2	—	2.3	—	2.2	—
前回比較	—	—	0.1	—	0.0	—	0.1	—	-0.2	—

問7 ICF ステージングに関する指標 3-b.移動手段 T字杖の利用

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	29	14.2%	31	15.2%	37	18.6%	33	16.9%	15	14.6%
なし	175	85.8%	173	84.8%	162	81.4%	162	83.1%	88	85.4%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 3-b.移動手段 装具(短下肢装具等)

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	10	4.9%	10	4.9%	11	5.5%	9	4.6%	7	6.8%
なし	194	95.1%	194	95.1%	188	94.5%	186	95.4%	96	93.2%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 3-b.移動手段 歩行器(ウォーカー、シニアカー等)の利用

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	32	15.7%	39	19.1%	35	17.6%	33	16.9%	19	18.4%
なし	172	84.3%	165	80.9%	164	82.4%	162	83.1%	84	81.6%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 3-b.移動手段 しがみつき歩行器の利用(サークル歩行)

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	12	5.9%	10	4.9%	10	5.0%	10	5.1%	3	2.9%
なし	192	94.1%	194	95.1%	189	95.0%	185	94.9%	100	97.1%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 3-b.移動手段 車椅子の利用

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	129	63.2%	123	60.3%	120	60.3%	116	59.5%	59	57.3%
なし	75	36.8%	81	39.7%	79	39.7%	79	40.5%	44	42.7%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 3-b.移動手段 リクライニング式車椅子の利用

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	15	7.4%	14	6.9%	12	6.0%	12	6.2%	11	10.7%
なし	189	92.6%	190	93.1%	187	94.0%	183	93.8%	92	89.3%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 3-b.移動手段 介助者や付添いの必要

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	113	55.4%	92	45.1%	119	59.8%	110	56.4%	56	54.4%
なし	91	44.6%	112	54.9%	80	40.2%	85	43.6%	47	45.6%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 4-a.認知機能 (見当識)

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
1	7	3.4%	7	3.4%	8	4.0%	8	4.1%	6	5.8%
2	27	13.2%	23	11.3%	25	12.6%	25	12.8%	17	16.5%
3	40	19.6%	43	21.1%	38	19.1%	39	20.0%	18	17.5%
4	69	33.8%	65	31.9%	67	33.7%	61	31.3%	36	35.0%
5	61	29.9%	64	31.4%	59	29.6%	59	30.3%	26	25.2%
無回答	0	0.0%	2	1.0%	2	1.0%	3	1.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%
平均値	3.7	—	3.8	—	3.7	—	3.7	—	3.6	—
前回比較	—	—	0.0	—	0.0	—	0.0	—	-0.1	—

問7 ICF ステージングに関する指標 4-b.認知機能 (コミュニケーション)

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
1	12	5.9%	10	4.9%	10	5.0%	11	5.6%	11	10.7%
2	36	17.6%	38	18.6%	42	21.1%	38	19.5%	15	14.6%
3	44	21.6%	42	20.6%	45	22.6%	46	23.6%	28	27.2%
4	53	26.0%	52	25.5%	46	23.1%	42	21.5%	25	24.3%
5	59	28.9%	60	29.4%	55	27.6%	56	28.7%	24	23.3%
無回答	0	0.0%	2	1.0%	1	0.5%	2	1.0%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%
平均値	3.5	—	3.6	—	3.5	—	3.5	—	3.3	—
前回比較	—	—	0.0	—	-0.1	—	0.0	—	-0.1	—

問7 ICF ステージングに関する指標 4-c.認知機能 (精神活動)

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
1	9	4.4%	8	3.9%	8	4.0%	8	4.1%	6	5.8%
2	39	19.1%	38	18.6%	42	21.1%	44	22.6%	26	25.2%
3	55	27.0%	54	26.5%	50	25.1%	43	22.1%	19	18.4%
4	54	26.5%	52	25.5%	49	24.6%	51	26.2%	29	28.2%
5	46	22.5%	50	24.5%	49	24.6%	46	23.6%	23	22.3%
無回答	1	0.5%	2	1.0%	1	0.5%	3	1.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%
平均値	3.4	—	3.5	—	3.4	—	3.4	—	3.4	—
前回比較	—	—	0.0	—	0.0	—	0.0	—	-0.1	—

問7 ICF ステージングに関する指標 4-d.周辺症状 A群 世話を拒否する

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	14	6.9%	11	5.4%	17	8.5%	13	6.7%	10	9.7%
なし	190	93.1%	193	94.6%	182	91.5%	182	93.3%	93	90.3%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 4-d.周辺症状 A群 不適切に泣いたり笑ったりする

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	7	3.4%	6	2.9%	13	6.5%	11	5.6%	6	5.8%
なし	197	96.6%	198	97.1%	186	93.5%	184	94.4%	97	94.2%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 4-d.周辺症状 A群 興奮して手足を動かす

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	13	6.4%	10	4.9%	9	4.5%	10	5.1%	7	6.8%
なし	191	93.6%	194	95.1%	190	95.5%	185	94.9%	96	93.2%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 4-d.周辺症状 A群 理由なく金切り声を上げる

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	3	1.5%	3	1.5%	2	1.0%	1	0.5%	4	3.9%
なし	201	98.5%	201	98.5%	197	99.0%	194	99.5%	99	96.1%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 4-d.周辺症状 A群 衣服や器物を破壊する

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	1	0.5%	2	1.0%	2	1.0%	2	1.0%	2	1.9%
なし	203	99.5%	202	99.0%	197	99.0%	193	99.0%	101	98.1%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 4-d.周辺症状 A群 食物を投げる

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	1	0.5%	2	1.0%	1	0.5%	1	0.5%	1	1.0%
なし	203	99.5%	202	99.0%	198	99.5%	194	99.5%	102	99.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 4-d.周辺症状 B群 食べ過ぎる

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	9	4.4%	2	1.0%	15	7.5%	8	4.1%	9	8.7%
なし	195	95.6%	202	99.0%	184	92.5%	187	95.9%	94	91.3%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 4-d.周辺症状 B群 タンスの中身を全部出す

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	6	2.9%	5	2.5%	8	4.0%	6	3.1%	4	3.9%
なし	198	97.1%	199	97.5%	191	96.0%	189	96.9%	99	96.1%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 4-d.周辺症状 B群 日中屋外や屋内をうろつきまわる

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	13	6.4%	11	5.4%	13	6.5%	10	5.1%	5	4.9%
なし	191	93.6%	193	94.6%	186	93.5%	185	94.9%	98	95.1%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 4-d.周辺症状 B群 昼間、寝てばかりいる

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	31	15.2%	22	10.8%	38	19.1%	35	17.9%	17	16.5%
なし	173	84.8%	182	89.2%	161	80.9%	160	82.1%	86	83.5%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 4-d.周辺症状 B群 同じことを何度も聞く

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	36	17.6%	30	14.7%	44	22.1%	37	19.0%	23	22.3%
なし	168	82.4%	174	85.3%	155	77.9%	158	81.0%	80	77.7%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 4-d.周辺症状 B群 尿失禁する

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	67	32.8%	60	29.4%	73	36.7%	71	36.4%	44	42.7%
なし	137	67.2%	144	70.6%	126	63.3%	124	63.6%	59	57.3%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 5-a.食事 (嚥下機能)

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
1	8	3.9%	8	3.9%	7	3.5%	7	3.6%	6	5.8%
2	16	7.8%	16	7.8%	15	7.5%	15	7.7%	9	8.7%
3	27	13.2%	16	7.8%	20	10.1%	19	9.7%	11	10.7%
4	50	24.5%	56	27.5%	54	27.1%	50	25.6%	23	22.3%
5	103	50.5%	107	52.5%	102	51.3%	103	52.8%	54	52.4%
無回答	0	0.0%	1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%
平均値	4.1	—	4.2	—	4.2	—	4.2	—	4.1	—
前回比較	—	—	0.1	—	0.0	—	0.0	—	-0.1	—

問7 ICF ステージングに関する指標 5-b.食事 (食事動作及び食事介助)

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
1	9	4.4%	8	3.9%	7	3.5%	7	3.6%	6	5.8%
2	20	9.8%	18	8.8%	20	10.1%	17	8.7%	11	10.7%
3	17	8.3%	15	7.4%	10	5.0%	14	7.2%	3	2.9%
4	43	21.1%	43	21.1%	49	24.6%	45	23.1%	29	28.2%
5	115	56.4%	119	58.3%	111	55.8%	111	56.9%	53	51.5%
無回答	0	0.0%	1	0.5%	2	1.0%	1	0.5%	1	1.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%
平均値	4.2	—	4.2	—	4.2	—	4.2	—	4.1	—
前回比較	—	—	0.1	—	0.0	—	0.0	—	-0.1	—

問7 ICF ステージングに関する指標 5-c.食事形態 現在の主食形態

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
米飯	81	39.7%	77	37.7%	91	45.7%	91	46.7%	40	38.8%
軟飯	54	26.5%	57	27.9%	53	26.6%	51	26.2%	33	32.0%
全粥	49	24.0%	48	23.5%	40	20.1%	36	18.5%	19	18.4%
7分粥-重湯	2	1.0%	1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	3	2.9%
その他	18	8.8%	16	7.8%	13	6.5%	14	7.2%	7	6.8%
無回答	0	0.0%	5	2.5%	1	0.5%	2	1.0%	1	1.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 5-c.食事形態 現在の副食形態

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
常菜	76	37.3%	65	31.9%	80	40.2%	81	41.5%	38	36.9%
軟菜	41	20.1%	48	23.5%	41	20.6%	34	17.4%	28	27.2%
きざみ	48	23.5%	50	24.5%	46	23.1%	41	21.0%	17	16.5%
ミキサー	8	3.9%	5	2.5%	9	4.5%	15	7.7%	3	2.9%
ペースト・ムース	10	4.9%	10	4.9%	5	2.5%	8	4.1%	4	3.9%
その他	20	9.8%	22	10.8%	16	8.0%	13	6.7%	12	11.7%
無回答	1	0.5%	4	2.0%	2	1.0%	3	1.5%	1	1.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 6-a.排泄の動作

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
1	18	8.8%	15	7.4%	16	8.0%	12	6.2%	12	11.7%
2	45	22.1%	36	17.6%	43	21.6%	40	20.5%	22	21.4%
3	36	17.6%	36	17.6%	26	13.1%	31	15.9%	18	17.5%
4	47	23.0%	49	24.0%	49	24.6%	42	21.5%	23	22.3%
5	55	27.0%	61	29.9%	57	28.6%	61	31.3%	25	24.3%
無回答	3	1.5%	7	3.4%	8	4.0%	9	4.6%	3	2.9%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%
平均値	3.4	—	3.5	—	3.5	—	3.5	—	3.3	—
前回比較	—	—	0.2	—	-0.1	—	0.1	—	-0.3	—

問7 ICF ステージングに関する指標 6-b.補助具・器具の使用状況と尿意の意識 ポータブルトイレの使用

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	51	25.0%	45	22.1%	49	24.6%	46	23.6%	18	17.5%
なし	153	75.0%	159	77.9%	150	75.4%	149	76.4%	85	82.5%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 6-b.補助具・器具の使用状況と尿意の意識 尿カテーテルの使用

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	10	4.9%	9	4.4%	8	4.0%	8	4.1%	7	6.8%
なし	194	95.1%	195	95.6%	191	96.0%	187	95.9%	96	93.2%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 6-b.補助具・器具の使用状況と尿意の意識 人工肛門の使用

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	3	1.5%	3	1.5%	2	1.0%	2	1.0%	2	1.9%
なし	201	98.5%	201	98.5%	197	99.0%	193	99.0%	101	98.1%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 6-b.補助具・器具の使用状況と尿意の意識 おむつの使用

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
あり	124	60.8%	116	56.9%	122	61.3%	119	61.0%	69	67.0%
なし	80	39.2%	88	43.1%	77	38.7%	76	39.0%	34	33.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 6-b.補助具・器具の使用状況と尿意の意識

尿意を意識することができるか

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
できる	146	71.6%	152	74.5%	143	71.9%	143	73.3%	68	66.0%
できない	58	28.4%	52	25.5%	56	28.1%	52	26.7%	35	34.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 6-b.補助具・器具の使用状況と尿意の意識

便意を意識することができるか

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
できる	154	75.5%	157	77.0%	154	77.4%	155	79.5%	78	75.7%
できない	50	24.5%	47	23.0%	45	22.6%	40	20.5%	25	24.3%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 7-a.入浴動作

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
1	5	2.5%	4	2.0%	7	3.5%	3	1.5%	3	2.9%
2	62	30.4%	52	25.5%	47	23.6%	51	26.2%	27	26.2%
3	113	55.4%	121	59.3%	118	59.3%	113	57.9%	60	58.3%
4	16	7.8%	18	8.8%	15	7.5%	15	7.7%	7	6.8%
5	6	2.9%	6	2.9%	9	4.5%	11	5.6%	6	5.8%
無回答	2	1.0%	3	1.5%	3	1.5%	2	1.0%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%
平均値	2.8	—	2.9	—	2.9	—	2.9	—	2.9	—
前回比較	—	—	0.1	—	0.0	—	0.0	—	0.0	—

問7 ICF ステージングに関する指標 7-b.入浴手段

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
一般浴	55	27.0%	59	28.9%	59	29.6%	54	27.7%	30	29.1%
介助浴	55	27.0%	57	27.9%	50	25.1%	55	28.2%	24	23.3%
座っての機械浴	64	31.4%	68	33.3%	66	33.2%	61	31.3%	34	33.0%
臥位での機械浴（特殊浴）	28	13.7%	19	9.3%	19	9.5%	17	8.7%	12	11.7%
無回答	2	1.0%	1	0.5%	5	2.5%	8	4.1%	3	2.9%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%

問7 ICF ステージングに関する指標 8-a.整容（口腔ケア）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
1	24	11.8%	24	11.8%	24	12.1%	24	12.3%	20	19.4%
2	28	13.7%	23	11.3%	27	13.6%	27	13.8%	14	13.6%
3	79	38.7%	75	36.8%	76	38.2%	71	36.4%	38	36.9%
4	25	12.3%	28	13.7%	28	14.1%	28	14.4%	13	12.6%
5	48	23.5%	53	26.0%	43	21.6%	44	22.6%	18	17.5%
無回答	0	0.0%	1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%
平均値	3.2	—	3.3	—	3.2	—	3.2	—	3.0	—
前回比較	—	—	0.1	—	-0.1	—	0.0	—	-0.3	—

問7 ICF ステージングに関する指標 8-b.整容（整容）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
1	37	18.1%	36	17.6%	36	18.1%	36	18.5%	27	26.2%
2	32	15.7%	23	11.3%	35	17.6%	30	15.4%	13	12.6%
3	60	29.4%	56	27.5%	54	27.1%	54	27.7%	28	27.2%
4	61	29.9%	71	34.8%	52	26.1%	50	25.6%	24	23.3%
5	14	6.9%	17	8.3%	20	10.1%	23	11.8%	11	10.7%
無回答	0	0.0%	1	0.5%	2	1.0%	2	1.0%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%
平均値	2.9	—	3.0	—	2.9	—	3.0	—	2.8	—
前回比較	—	—	0.1	—	-0.1	—	0.0	—	-0.2	—

問7 ICF ステージングに関する指標 8-c.整容（衣服の着脱）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
1	27	13.2%	26	12.7%	30	15.1%	27	13.8%	21	20.4%
2	54	26.5%	46	22.5%	43	21.6%	45	23.1%	23	22.3%
3	42	20.6%	44	21.6%	45	22.6%	40	20.5%	22	21.4%
4	54	26.5%	51	25.0%	49	24.6%	51	26.2%	22	21.4%
5	26	12.7%	35	17.2%	31	15.6%	30	15.4%	14	13.6%
無回答	1	0.5%	2	1.0%	1	0.5%	2	1.0%	1	1.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%
平均値	3.0	—	3.1	—	3.0	—	3.1	—	2.9	—
前回比較	—	—	0.1	—	-0.1	—	0.0	—	-0.2	—

問7 ICF ステージングに関する指標 9-a.社会参加（余暇）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
1	33	16.2%	28	13.7%	32	16.1%	26	13.3%	21	20.4%
2	37	18.1%	29	14.2%	45	22.6%	38	19.5%	18	17.5%
3	127	62.3%	135	66.2%	114	57.3%	124	63.6%	58	56.3%
4	6	2.9%	10	4.9%	4	2.0%	5	2.6%	4	3.9%
5	1	0.5%	1	0.5%	3	1.5%	1	0.5%	2	1.9%
無回答	0	0.0%	1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%
平均値	2.5	—	2.6	—	2.5	—	2.6	—	2.5	—
前回比較	—	—	0.1	—	-0.1	—	0.1	—	-0.1	—

問7 ICF ステージングに関する指標 9-b.社会参加（社会交流）

	第1回調査		第2回調査		第3回調査		第4回調査		第5回調査	
	度数	%								
1	18	8.8%	16	7.8%	17	8.5%	16	8.2%	13	12.6%
2	89	43.6%	78	38.2%	90	45.2%	86	44.1%	38	36.9%
3	87	42.6%	98	48.0%	67	33.7%	69	35.4%	39	37.9%
4	8	3.9%	9	4.4%	18	9.0%	17	8.7%	8	7.8%
5	2	1.0%	2	1.0%	6	3.0%	6	3.1%	5	4.9%
無回答	0	0.0%	1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%
合計	204	100.0%	204	100.0%	199	100.0%	195	100.0%	103	100.0%
平均値	2.4	—	2.5	—	2.5	—	2.5	—	2.6	—
前回比較	—	—	0.1	—	0.0	—	0.0	—	0.0	—

問3 老健施設において実施したりハビリテーションの種類（複数回答）

	度数	%
筋力増強	153	75.0%
関節可動域練習	134	65.7%
耐久力向上練習	71	34.8%
バランス練習	75	36.8%
運動協調性練習	11	5.4%
呼吸・排痰練習	7	3.4%
摂食・嚥下練習	8	3.9%
失語・構音障害に対する練習	9	4.4%
失行・失認に対する練習	4	2.0%
認知に焦点を当てた非薬物療法	40	19.6%
刺激に焦点を当てた非薬物療法	65	31.9%
行動に焦点を当てた非薬物療法	8	3.9%
感情に焦点を当てた非薬物療法	11	5.4%
疼痛除去・緩和	34	16.7%
アクティビティ	40	19.6%
起居動作練習	81	39.7%
移乗動作練習	87	42.6%
移動（歩行以外）練習	22	10.8%
歩行練習	132	64.7%
応用歩行練習	32	15.7%
食事動作練習	9	4.4%
入浴動作練習	8	3.9%
排泄動作練習	41	20.1%
整容動作練習	12	5.9%
更衣動作練習	19	9.3%
家事動作練習	7	3.4%
福祉用具（選定・適合調整・指導等）	40	19.6%
住宅改修（提案・指導等）	28	13.7%
レクリエーション	88	43.1%
家族への介護方法指導	54	26.5%
QOL向上	24	11.8%
自主トレーニング指導	20	9.8%
その他	9	4.4%
無回答	3	1.5%
回答者数	204	—

問3 調査時点で利用している介護保険サービス（複数回答）

	度数	%
訪問介護	52	26.1%
訪問入浴介護	2	1.0%
訪問看護	24	12.1%
訪問リハビリテーション	4	2.0%
居宅療養管理指導	13	6.5%
通所介護	62	31.2%
通所リハビリテーション	88	44.2%
短期入所生活介護	18	9.0%
福祉用具貸与	140	70.4%
短期入所療養介護	96	48.2%
特定福祉用具販売	8	4.0%
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	4	2.0%
夜間対応型訪問介護	1	0.5%
その他	1	0.5%
無回答	2	1.0%
回答者数	199	—

問3 直近の1ヶ月間に利用した介護保険サービス（複数回答）

	第4回調査		第5回調査	
	度数	%	度数	%
訪問介護	48	24.6%	17	16.5%
訪問入浴介護	1	0.5%	2	1.9%
訪問看護	21	10.8%	11	10.7%
訪問リハビリテーション	4	2.1%	2	1.9%
居宅療養管理指導	12	6.2%	5	4.9%
通所介護	67	34.4%	28	27.2%
通所リハビリテーション	89	45.6%	28	27.2%
短期入所生活介護	25	12.8%	12	11.7%
福祉用具貸与	129	66.2%	51	49.5%
短期入所療養介護	100	51.3%	28	27.2%
特定福祉用具販売	1	0.5%	0	0.0%
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	4	2.1%	1	1.0%
夜間対応型訪問介護	1	0.5%	1	1.0%
従前の老健施設へ入所(ショートステイを除く)	7	3.6%	29	28.2%
その他	3	1.5%	4	3.9%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	195	—	103	—







公益社団法人全国老人保健施設協会

〒105-0011

東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル 6階

TEL.03-3432-4165 FAX.03-3432-4172